岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第424集

五月館跡・仁昌寺Ⅲ遺跡発掘調査報告書

国道４号小鳥谷バイパス建設関連遺跡発掘調査

国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所
(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

五月館跡・仁昌寺Ⅲ遺跡発掘調査報告書

国道４号小鳥谷バイパス建設関連遺跡発掘調査

序

豊かな自然に恵まれた岩手県には、縄文時代をはじめとする数多くの遺跡や重要な文化財が残されております。先人たちが創造し遺してきたこれら多くの貴重な文化遺産を保存し、後世に伝えていくことは県民に課せられた大切な責務であります。

一方広大な面積を有する本県は、県土の大部分が山林であることから社会を豊かにし、快適な生活を送るための地域開発もまた県民の切実な願いであります。

このような埋蔵文化財の保護保存と地域開発という相容れない要素を持つ事業の調和のとれた施策が今日的課題となっております。財団法人岩手県文化振興事業団は埋蔵文化財センター創設以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は国道４号小鳥谷バイパス建設事業に関連して、平成13から14年度にかけて発掘調査を行った一戸町の五月館跡、仁昌寺Ⅲ遺跡の調査結果をまとめたものであります。

遺跡は一戸町の中央部を北流する馬淵川の支流である平糠川左岸の丘陵地に立地しており、調査の結果、五月館跡からは縄文時代の遺構と遺物が、仁昌寺Ⅲ遺跡からは縄文時代と平安時代の遺構及び遺物などが発見され、貴重な資料を提供し、大きな成果をあげることができました。

この報告書が広く活用され、斯学の研究のみならず、埋蔵文化財に対する理解の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、これまでの発掘調査及び報告書作成にご支援・ご協力を賜りました国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所、一戸町教育委員会をはじめとする関係各位に衷心より感謝申し上げます。

平成16年１月

財団法人　岩手県文化振興事業団
理事長　合　田　　武

例　言

1．本報告書は、岩手県二戸郡一戸町小鳥谷字里48ほかに所在する五月館跡と同町小鳥谷字仁昌寺66－10ほかに所在する仁昌寺Ⅲ遺跡の発掘調査を収録したものである。

2．五月館跡と仁昌寺Ⅲ遺跡の発掘調査は、国道４号小鳥谷バイパス建設に伴い、記録保存を目的として行った緊急発掘調査である。調査は国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所と岩手県教育委員会生涯学習文化課との協議を経て、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施したものである。

3．岩手県遺跡登録台帳における番号と調査時の遺跡略号は以下の通りである。

　五月館跡　　ＪＦ40－0005／ＳＴＴ－01・ＳＴＴ－02

　仁昌寺Ⅲ遺跡　ＪＦ30－2061／ＮＳＪⅢ－02

4．野外調査期間・調査面積・調査担当者は以下の通りである。

　五月館跡　　平成13年７月２日～10月26日／4,508㎡／中村直美・北田　勲・飯坂一重

　　平成14年４月11日～６月28日／7,942㎡／飯坂一重・原　美津子

　仁昌寺Ⅲ遺跡　平成14年６月20日～10月４日／6,250㎡／原　美津子・飯坂一重

5．室内整理期間・整理担当者は以下の通りである。

　五月館跡　　平成13年11月１日～平成14年３月29日／飯坂一重・北田　勲

　　平成14年12月１日～平成15年３月31日／飯坂一重

　仁昌寺Ⅲ遺跡　平成14年11月１日～平成15年３月31日／原　美津子

6．遺物の分析・鑑定及び保存処理にあたっては次の機関に委託した。（敬称略）

　石質鑑定　花崗岩研究会

　赤色顔料分析鑑定・鉄製品保存処理　岩手県立博物館

7．委託業務にあたっては次の機関に委託した。

　五月館跡　　基準点測量　　株式会社ハイマーチック

　　航空写真撮影　株式会社ハイマーチック、東邦航空株式会社

　仁昌寺Ⅲ遺跡　基準点測量　　株式会社岩手開発測量設計

　　航空写真撮影　東邦航空株式会社

8．野外調査及び報告書の作成にあたり、次の方々にご協力・ご指導をいただいた。（敬称略）

　高田和徳　中村明央（一戸町教育委員会）、室野秀文（盛岡市教育委員会）

　井上喜久男（愛知県陶磁資料館）、鈴木聡（二戸市教育委員会）

9．発掘調査においては一戸町教育委員会をはじめ地元の方々にご協力をいただいた。

10．遺跡の調査結果は現地公開資料、調査略報ほかに掲載したが、本書の内容が優先する。

11．本報告書の執筆・編集は飯坂一重、原美津子が担当した。

12．五月館跡、仁昌寺Ⅲ遺跡から出土した遺物及び図面・写真等の調査資料は岩手県立埋蔵文化財センターに保管してある。

目　次

序
例　言
目　次

【本　文】

Ⅰ．調査に至る経過 …… 7
Ⅱ．遺跡の位置と立地 …… 7
　1．位置と立地 …… 7
　2．周辺の遺跡 …… 8
Ⅲ．調査と整理の方法 …… 8
　1．野外調査の方法 …… 8
　2．室内整理の方法 …… 12
Ⅳ．五月館跡 …… 13
　1．遺跡の立地 …… 15
　2．グリッド設定 …… 15
　3．基本土層 …… 16
　4．検出遺構と出土遺物 …… 16
　（1）概要 …… 16
　（2）曲輪状平坦地・切岸状急斜面 …… 17
　（3）土坑 …… 20
　（4）遺物 …… 22
　5．まとめ …… 23
　（1）五月館の縄張りと館 …… 23
　（2）縄文時代 …… 28
Ⅴ．仁昌寺Ⅲ遺跡 …… 43
　1．遺跡の立地 …… 45
　2．グリッド設定 …… 45
　3．基本土層 …… 47
　4．検出した遺構と遺構内出土遺物 …… 50
　（1）縄文時代 …… 50
　（2）平安時代 …… 86
　5．遺構外出土遺物 …… 88
　（1）土器・土製品・陶磁器 …… 88
　（2）石器 …… 91
　（3）銭貨 …… 92
　6．まとめ …… 100
　（1）遺構 …… 100
　（2）遺物 …… 100
　7．分析結果 …… 102

【図　版】

第1図　遺跡位置図 …… 4
第2図　地形分類図 …… 5
第3図　地形と周辺の遺跡 …… 6
第4図　周辺の遺跡分布図 …… 9

五月館跡

第1図　グリッド配置図 …… 15
第2図　基本土層柱状図 …… 16
第3図　遺構配置図 …… 17
第4図　曲輪状平坦地・切岸状急斜面(1) …… 18
第5図　曲輪状平坦地・切岸状急斜面(2) …… 19
第6図　土坑 …… 21
第7図　4号土坑出土遺物・遺構外出土遺物（上器1） …… 24
第8図　遺構外出土遺物（土器2） …… 25
第9図　遺構外出土遺物（石器・石製品・鉄製品・銭貨） …… 26
第10図　五月館跡縄張想定図 …… 28

仁品寺Ⅱ遺跡

第1図　グリッド配置図 …… 46
第2図　基本土層柱状図 …… 47
第3図　遺構配置図 …… 48
第4図　図版凡例 …… 49
第5図　1号竪穴住居跡(1) …… 51
第6図　1号竪穴住居跡(2)・出土遺物 …… 52
第7図　2号竪穴住居跡(1) …… 53
第8図　2号竪穴住居跡(2) …… 54
第9図　2号竪穴住居跡出土遺物(1) …… 55
第10図　2号竪穴住居跡出土遺物(2) …… 56
第11図　3号竪穴住居跡 …… 58
第12図　3号竪穴住居跡出土遺物 …… 59
第13図　4・5号竪穴住居跡(1) …… 60
第14図　4・5号竪穴住居跡(2) …… 61
第15図　4号竪穴住居跡出土遺物(1) …… 62
第16図　4号竪穴住居跡出土遺物(2) …… 63
第17図　4号竪穴住居跡出土遺物(3) …… 64
第18図　5号竪穴住居跡 …… 65
第19図　5号竪穴住居跡出土遺物 …… 66
第20図　6号竪穴住居跡 …… 68
第21図　6号竪穴住居跡出土遺物 …… 69
第22図　1～4号土坑 …… 75
第23図　5～9号土坑 …… 76
第24図　10～14号土坑 …… 77
第25図　15～20号土坑 …… 78
第26図　21～25号土坑 …… 79
第27図　26～29号土坑 …… 80
第28図　30～33号土坑 …… 81
第29図　34～37号土坑 …… 82
第30図　38～42号土坑 …… 83
第31図　43～45号土坑・土坑出土遺物 …… 84
第32図　土坑・1号集石焼土遺構出土遺物 …… 85
第33図　1号集石焼土遺構 …… 87
第34図　遺構外出土遺物（土器1） …… 89
第35図　遺構外出土遺物（土器2・土製品） …… 90
第36図　遺構外出土遺物（石器・銭貨） …… 93

【写真図版】

五月館跡

写真図版1　空中写真 …… 31
写真図版2　調査区近景・現況 …… 32
写真図版3　基本土層・曲輪状平坦地 …… 33
写真図版4　曲輪状平坦地 …… 34
写真図版5　西側近景・東側畑地 …… 35
写真図版6　土坑 …… 36
写真図版7　曲輪状平坦地 …… 37
写真図版8　南側低地・空中写真 …… 38
写真図版9　4号土坑出土遺物・遺構外出土遺物（土器） …… 39
写真図版10　遺構外出土遺物（石器・石製品・鉄製品・銭貨） …… 40
写真図版11　遺構外出土遺物（陶磁器） …… 41

仁昌寺Ⅱ遺跡

写真図版 1　空中写真 …… 111
写真図版 2　調査区近景・基本土層 …… 112
写真図版 3　1号竪穴住居跡 …… 113
写真図版 4　2号竪穴住居跡 …… 114
写真図版 5　3号竪穴住居跡 …… 115
写真図版 6　4・5号竪穴住居跡(1) …… 116
写真図版 7　4・5号竪穴住居跡(2) …… 117
写真図版 8　6号竪穴住居跡 …… 118
写真図版 9　1～4号土坑 …… 119
写真図版10　5～8号土坑 …… 120
写真図版11　9～12号土坑 …… 121
写真図版12　13～16号土坑 …… 122
写真図版13　17～21号土坑 …… 123
写真図版14　22～25号土坑 …… 124
写真図版15　26～29号土坑 …… 125
写真図版16　30～33号土坑 …… 126
写真図版17　34～37号土坑 …… 127
写真図版18　38～41号土坑 …… 128
写真図版19　42～45号土坑 …… 129
写真図版20　1号集石焼土遺構 …… 130
写真図版21　1・2号竪穴住居跡出土遺物 …… 131
写真図版22　2号竪穴住居跡出土遺物 …… 132
写真図版23　3・4号竪穴住居跡出土遺物 …… 133
写真図版24　4号竪穴住居跡出土遺物 …… 134
写真図版25　5・6号竪穴住居跡出土遺物・土坑出土遺物 …… 135
写真図版26　1号集石焼土遺構・遺構外出土遺物（土器1） …… 136
写真図版27　遺構外出土遺物（土器2・土製品） …… 137
写真図版28　遺構外出土遺物（石器・陶磁器・銭貨） …… 138

【表】

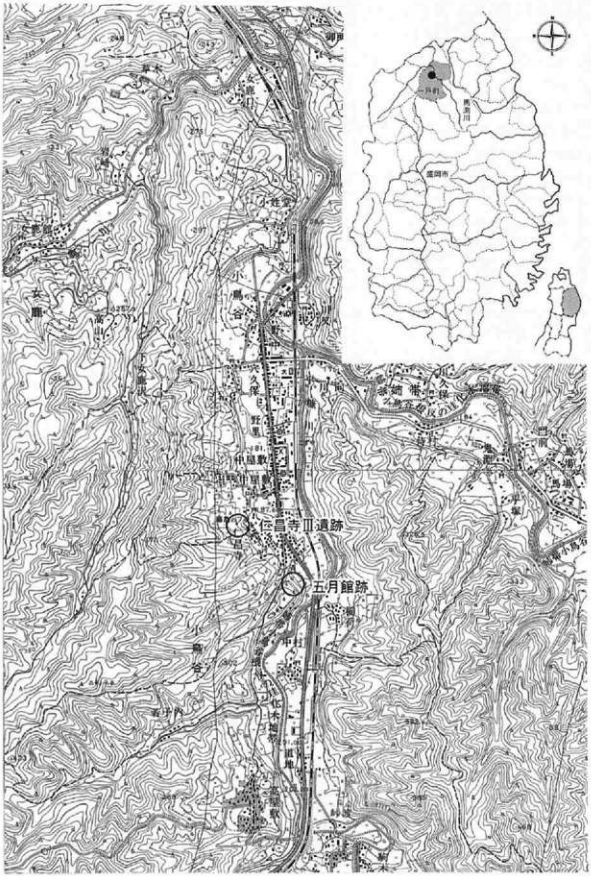
第1表　周辺の遺跡 …… 10

五月館跡

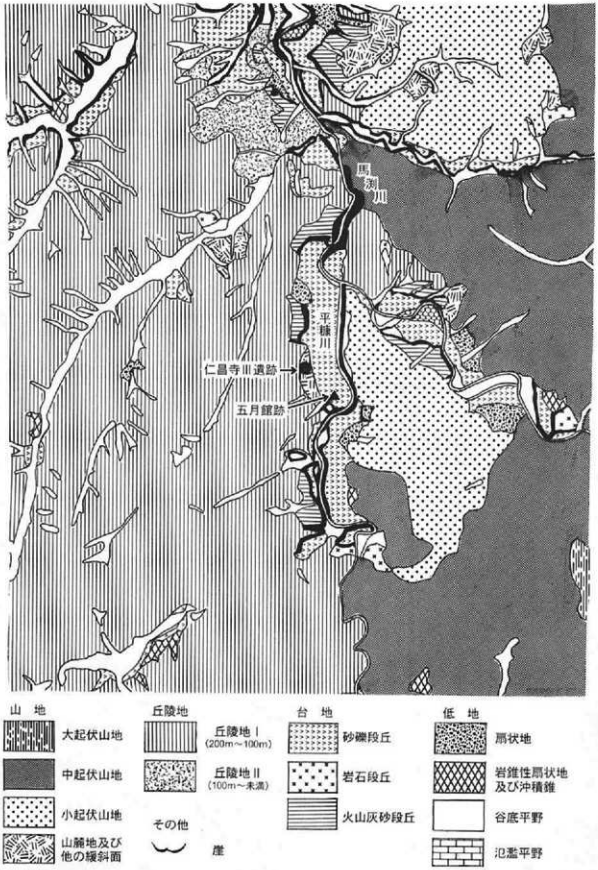
第1表　遺物観察表 …… 27

仁昌寺Ⅱ遺跡

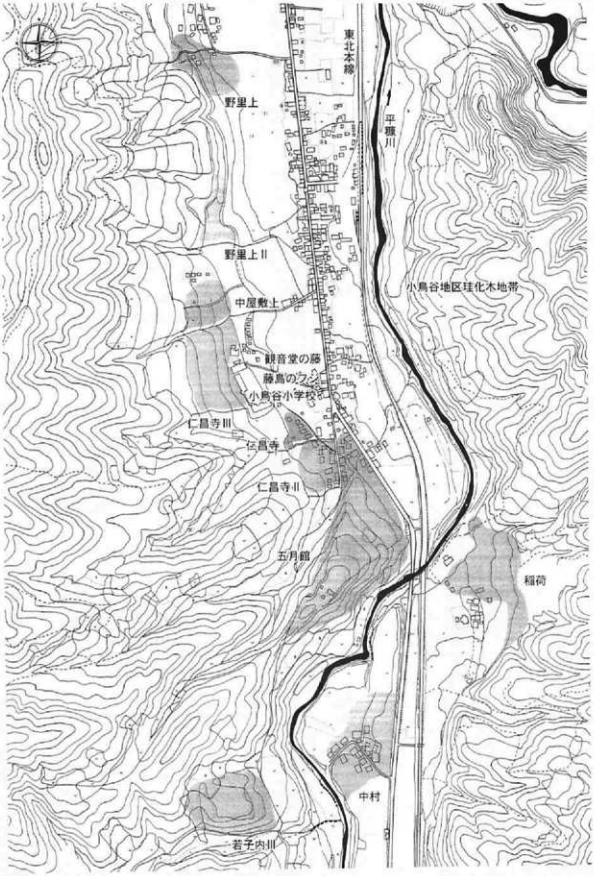
第1表　土坑観察表 …… 70
第2表　遺物観察表（土器・ミニチュア形土器） …… 94
第3表　遺物観察表（土製品） …… 97
第4表　遺物観察表（陶磁器） …… 98
第5表　遺物観察表（鉄製品・鉄滓・銭貨） …… 98
第6表　遺物観察表（石器） …… 99



第１図　遺跡位置図


馬洗川
平藤川
仁昌寺Ⅲ遺跡
五月館跡
山地
大起伏山地
中起伏山地
小起伏山地
山麓地及び他の緩斜面
丘陵地
丘陵地Ⅰ (200m～100m)
丘陵地Ⅱ (100m～未満)
その他
崖
台地
砂礫段丘
岩石段丘
火山灰砂段丘
低地
扇状地
岩錐性扇状地及び沖積錐
谷底平野
氾濫平野

第2図　地形分類図



第3図　地形と周辺の遺跡

Ⅰ．調査に至る経過

「五月館跡」及び「仁昌寺Ⅲ遺跡」は、小鳥谷バイパス改築工事の施工に伴って、その事業区域内に存することから発掘調査を実施することとなったものである。

一般国道４号は、東京を起点として、福島県、宮城県、岩手県を経て青森県に至る東北地方の大動脈を担っている主要幹線道路である。

小鳥谷バイパスは、二戸郡一戸町大字小鳥谷字中村を起点とし、同町大字岩舘字子字を終点とした国道４号の人家密集、幅員狭小による交通混雑と、急カーブの連続、冬期間の凍結、降雪等による交通の隘路の解消、交通安全の確保、沿道環境の改善を図ると共に、周辺市町村との連絡を強化して、地域活性化の支援を目的とする道路として、昭和63年に事業化し、延長は4,300ｍである。

又、バイパス整備の効果として特に次の４点を目標としている。

１．ゆとりのある交通

交通混雑が解消され、スムーズな通勤・通学が出来るようになる。

２．生活環境の改善

交通がスムーズに流れるため騒音、振動が改善され、住みやすい町づくりに貢献する。

３．安全な交通

交通量が分散減少され、沿道の人や通過する人々の交通の安全性が高まる。

４．地域活性化の支援

産業・観光を支える道路の機能が強化され、地域が活性化する。

この区間の埋蔵文化財包蔵地については、岩手県教育委員会が平成２年度に分布調査を実施し、「五月館跡」「仁昌寺Ⅲ遺跡」も確認されている。

二つの遺跡についての試掘調査は平成11、12年度実施され、その結果に基づいて岩手県教育委員会は国土交通省東北地方整備局岩手工事事務所（現国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所）に対し、事業について照会した。回答を受けた岩手県教育委員会は岩手工事事務所と協議を行い、発掘調査を財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの受託事業とすることとした。

国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所

Ⅱ．遺跡の位置と立地

１．位置と立地

五月館跡は二戸郡一戸町小鳥谷字土里48ほか、仁昌寺Ⅲ遺跡は二戸郡一戸町小鳥谷字仁昌寺66-10ほかに所在する。五月館跡が北緯40度09分36秒・東経141度18分38秒、仁昌寺Ⅲ遺跡が北緯40度10分00秒・東経141度18分08秒の地点にあり、国土地理院発行２万５千分の１地形図「仁昌寺」、同５万分の１地形図「葛巻」の図幅に含まれる。

一戸町は岩手県の内陸北部に位置し、県庁所在地の盛岡市からは北に約65kmの地点にある。東は九戸郡九戸村・岩手郡葛巻町、南は岩手郡岩手町、西は二戸郡浄法寺町、北は二戸市の１市３町１村に接し、二戸広域行政圏に含まれている。隣県である青森県との境までは直線距離にして約15kmほどである。町の面積は298.52㎡で、総面積の80%以上を山林原野が占める山間地となっている。町の中央部には馬淵川が北流し、その支流域に集落と耕地が散在している。国道４号・いわて銀河鉄道の主要交通路が中央部を南北に通って

おり、それに沿って市街地が形成されている。町の南部の奥中山は馬淵川と北上川の分水界をなし、十三本木峠（標高485m）は国道４号の最高地点となっている。遺跡のある小鳥谷地区は一戸町の中央部やや北側にあたり、町の中心市街地からはほど近い地区である。遺跡の東側には国道４号に沿うように平糠川が北流し、約1.4km北方で馬淵川と合流する。馬淵川はさらに約3.3km北方で東流する女鹿川、約3.5km北方で西流する根反川を合わせて北流する。この平糠川～根反川流域一帯は珪化木の産地として知られ「根反の大珪化木」が有名である。五月館跡南側の平糠川の橋川里より上流一帯は小鳥谷珪化木地帯である。また本地区は名勝「藤島の藤」でも知られている。

遺跡は先述の奥中山にある西岳（標高1,018m）の裾野付近から端を発して北東方向に延びる丘陵縁辺部の緩やかな斜面上に立地する。下方には沖積世～洪積世に形成されたとされる砂礫（小鳥谷）段丘と火山灰砂（小姓堂）段丘が広がる。これらの段丘には、下位に八戸火山灰、その上には南部浮石・中掘浮石などのテラフが載るが、本地域においてはこれらのテラフは浮石粒が黒色土と混合して暗黄褐色土層として見られるにすぎない。遺跡の載る丘陵は第三紀に堆積した堆積岩を基盤とする四つ役所からなる。この基盤層は青緑色砂岩、泥岩、礫岩、凝灰岩質の砂岩から構成され、下位の泥岩・砂岩からは動物化石を、中位の泥岩・砂岩、上位の砂岩からは植物化石を産出する。

２．周辺の遺跡

岩手県教育委員会によると、一戸町では490遺跡が報告されている。ここでは、本遺跡の存する小鳥谷地区を中心に周辺の遺跡124箇所を第４図・第１表に示した。五月館跡と仁昌寺Ⅲ遺跡の間に位置する104仁昌寺、105仁昌寺Ⅱ遺跡は平成12, 13年度に調査が行われている。仁昌寺遺跡では縄文時代後期の竪穴住居跡が確認された。仁昌寺Ⅱ遺跡では縄文時代中期の竪穴住居跡、中世の竪穴建物跡・掘立柱建物跡が多数確認されたほか、中世の工房跡・工房関連施設も確認され、縄文土器・陶磁器・鉄札等の鉄製品が出土している。仁昌寺Ⅲ遺跡の北側には、縄文時代の遺跡である94野里上、95野里上Ⅱ、96中屋敷上がある。館跡は、馬淵川に沿って123姉帯城、121田中Ⅰ、120田中Ⅱ、119上野、118一戸城、107小滝館、108西法寺館、馬淵川支流の根反川流域に122根反館がある。

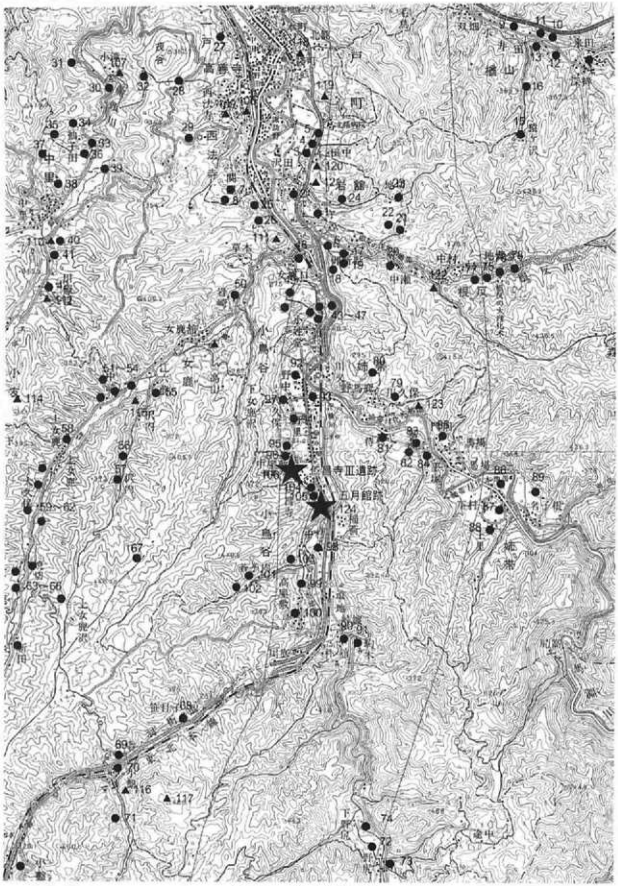
Ⅲ．調査と整理の方法

１．野外調査の方法

(1) 粗掘と遺構検出・遺構精査と遺物の取り上げ

① 五月館跡

調査は雑物撤去と刈払い作業から開始した。メインベルトを設定し遺跡の状況を把握し、表土除去・遺構検出・精査の順に進めた。表土は重機（ユンボ0.3ｔ）を使い除去した。検出した遺構は、土坑については２分法を原則として精査を行った。記録として必要な図面及び写真撮影は、精査の各段階において行った。平面実測は光波トランシットにより測量を行い１／100の平面図を作成した。土坑の図面は１／20とし断面図と平面図を作成した。遺物は出土量が少ないことから、光波トランシットにより個々に出土地点を平面図に入れ、層位を記し、番号を付して取り上げることを基本とした。遺構内出土の遺物についても可能な限り層位を明らかにした上で取り上げている。



第４図　周辺の遺跡分布図

表1　周辺の遺跡

番号	遺跡名	種別	所在地	時代	遺物等
1	御所野	散布地	岩館字御所野	縄文・平安	縄文土器（中期）、土師器、石鏃、磨製石斧
2	馬場平	集落跡	岩館字馬場平	縄文	縄文土器（中期）
3	田中Ⅱ	散布地	岩館字田中	縄文・平安	縄文土器（前～後期）
4	田中Ⅳ	散布地	岩館字田中	縄文・平安	縄文土器（中期）、土師器
5	田中Ⅴ	散布地	岩館字田中	縄文・平安	縄文土器（中期）、土師器
6	子守Ａ	散布地	岩館字子守	縄文・平安	縄文土器（中期）、土師器
7	大平	集落跡	西法寺字大平	縄文・弥生・平安	縄文土器（中～後期）、弥生土器、土師器
8	大平Ⅱ	散布地	西法寺字大平	縄文・弥生・平安	縄文土器（前・中・後期）、弥生土器、土師器
9	小太田	集落跡	檜山字子本田	縄文	縄文土器（後～晩期）
10	仮平Ⅰ	集落跡	檜山字仮平	縄文	縄文土器（晩期）
11	仮平Ⅱ	集落跡	檜山字仮平	縄文	縄文土器（前・中・晩期）
12	野馬Ⅰ	集落跡	檜山字野馬	縄文・弥生	縄文土器（晩期）
13	野馬Ⅱ	集落跡	檜山字野馬	縄文	縄文土器（中・晩期）
14	中野敷	集落跡	檜山字中野敷	縄文・平安	縄文土器（後・晩期）、土師器
15	猿ヶ沢	散布地	檜山字猿ヶ沢	縄文	縄文土器（後・晩期）
16	猿ヶ沢Ⅱ	散布地	檜山字猿ヶ沢	縄文	縄文土器（晩期）
17	子守Ｃ	散布地	岩館字子守	縄文	縄文土器（中期）
18	漆畑	散布地	根反字漆畑	縄文・弥生	縄文土器（前・中期）、弥生土器
19	漆畑Ⅱ	散布地	根反字漆畑	縄文・平安	縄文土器（前・中・後期）、石鏃、土師器
20	中瀬	散布地	根反字中瀬	縄文	縄文土器（中期）
21	御所野	散布地	岩館字御所野	縄文・弥生・平安	縄文土器（中期）、弥生土器、土師器、磨石
22	御所野Ⅱ	散布地	岩館字御所野	縄文	縄文土器（中期）
23	上地切	散布地	岩館字上地切	縄文・奈良	縄文土器・土師器
24	下地切	散布地	岩館字下地切	縄文・弥生	縄文土器（中期）、弥生土器
25	関屋	散布地	西法寺字関屋	縄文・弥生・奈良	縄文土器（早・前・中期）、磨石、弥生土器、土師器
26	前越	散布地	西法寺字前越	縄文・弥生	縄文土器（中期）、弥生土器、石器
27	倉木	散布地	高善寺字倉木	縄文	縄文土器（後・晩期）、石鏃
28	茂谷	散布地	高善寺字茂谷	縄文・平安	縄文土器・土師器
29	西法寺Ⅱ	散布地	西法寺字西法寺	縄文	縄文土器
30	小滝	散布地	一戸字小滝	縄文	縄文土器（後期）
31	小滝Ⅱ	散布地	一戸字小滝	縄文・平安	縄文土器（後・晩期）、土師器
32	小滝Ⅲ	散布地	一戸字小滝	縄文	縄文土器（後期）
33	袖子田	散布地	中里字袖子田	縄文・平安	縄文土器（後・晩期）、土師器、須恵器、鉄滓
34	袖子田Ⅱ	散布地	中里字袖子田	縄文・弥生・平安	縄文土器（早・前期）、弥生土器、土師器
35	袖子田Ⅲ	散布地	中里字袖子田	縄文・平安	縄文土器（中期）、土師器
36	馬場野	散布地	中里字馬場野	縄文・平安	縄文土器（後期）、土師器、須恵器
37	馬場野Ⅱ	散布地	中里字馬場野	縄文・平安	縄文土器（後期）、土師器、須恵器
38	袖越	散布地	中里字袖越	縄文・弥生・平安	縄文土器（前・晩期）、弥生土器、土師器
39	小萱木	散布地	中里字萱木	縄文・平安	縄文土器（後期）、土師器
40	武道平Ⅱ	散布地	中里字武道平	縄文・弥生・平安	縄文土器（中・後期）、弥生土器、土師器
41	下川原Ⅱ	散布地	小友字下川原Ⅱ	縄文・平安	縄文土器（後期）、土師器、須恵器
42	下川原Ⅲ	散布地	小友字下川原Ⅲ	縄文・奈良・平安	縄文土器（前・中期）、土師器、石器
43	小姓堂	散布地	小島谷字小姓堂	縄文	縄文土器（晩期）
44	小姓堂Ⅱ	散布地	小島谷字小姓堂	縄文・古代	縄文土器（後・晩期）
45	小姓堂Ⅲ	散布地	小島谷字小姓堂	縄文	縄文土器（早・中・後期）
46	小姓堂Ⅳ	散布地	小島谷字小姓堂	縄文	縄文土器
47	小姓堂Ⅴ	散布地	小島谷字小姓堂	縄文	縄文土器
48	女鹿口	散布地	小島谷字女鹿口	縄文・弥生・平安	縄文土器（前・中・後期）、弥生土器
49	女鹿口Ⅱ	散布地	小島谷字女鹿口	縄文・平安	縄文土器（早・前・後期）、絡縄文土器、土師器
50	岩崎	散布地	女鹿字岩崎	縄文・平安	縄文土器（中・後期）、土師器
51	中崎	散布地	女鹿字中崎	縄文・平安	縄文土器（後期）、土師器、凹石
52	中崎Ⅱ	散布地	女鹿字中崎	縄文・平安	縄文土器（後期）、土師器
53	中崎Ⅲ	散布地	女鹿字中崎	縄文・平安	縄文土器（後期）、土師器
54	中崎Ⅳ	散布地	女鹿字中崎	縄文・平安	縄文土器（中・後期）、土師器
55	江六前	散布地	女鹿字江六前	縄文	縄文土器（前・後期）
56	沢内	散布地	女鹿字沢内	縄文	縄文土器（後期）
57	沢内Ⅱ	散布地	女鹿字沢内	縄文・弥生	縄文土器（後期）、弥生土器
58	上女鹿	散布地	女鹿字上女鹿	縄文・平安	縄文土器（後期）、土師器
59	大久保	散布地	女鹿字大久保	縄文	縄文土器（中・晩期）
60	大久保Ⅱ	散布地	女鹿字大久保	縄文	縄文土器（後期）
61	大久保Ⅲ	散布地	女鹿字大久保	縄文	縄文土器（後期）
62	大久保Ⅳ	散布地	女鹿字大久保	縄文・平安	縄文土器（後・晩期）、土師器
63	焼切	散布地	女鹿字焼切	縄文	縄文土器（中・晩期）
64	焼切Ⅱ	散布地	女鹿字焼切	縄文・弥生・平安	縄文土器、弥生土器、土師器

番号	遺跡名	種別	所在地	時代	遺物等
65	幾切 Ⅲ	散布地	女鹿字幾切	縄文	縄文土器（晩期）
66	幾切 Ⅳ	散布地	女鹿字幾切	縄文	
67	女鹿沢内	散布地	女鹿沢内	縄文	縄文土器
68	下平 Ⅰ	散布地	小繁字下平	縄文	縄文土器（晩期）
69	下平 Ⅱ	散布地	小繁字下平	縄文	縄文土器（後・晩期）
70	下平 Ⅲ	散布地	小繁字下平	縄文	縄文土器（後・晩期）
71	小繁	散布地	小繁字小繁	縄文	縄文土器（後・晩期）
72	野尻	散布地	平瀬字田岡	縄文	土器
73	田岡	散布地	平瀬字田岡	縄文	縄文土器、石棒、石斧
74	田岡 Ⅱ	散布地	平瀬字田岡	縄文	土器
75	中村	散布地	根反字中村	弥生	弥生土器
76	中村 Ⅱ	散布地	根反字中村	縄文	縄文土器（中期）、磨製石斧
77	中村 Ⅲ	散布地	根反字中村	縄文	縄文土器（前期）
78	中村 Ⅳ	散布地	根反字中村	縄文・弥生・平安	縄文土器（後期）、弥生土器
79	野馬鹿	散布地	姉帯字野馬鹿	縄文・弥生・平安	縄文土器（前・後期）、弥生土器、土師器
80	野馬鹿 Ⅱ	散布地	姉帯字野馬鹿	縄文・弥生・奈良・平安	縄文土器（前・中・晩期）、弥生土器、土師器
81	侍村	散布地	姉帯字侍村	縄文	縄文土器（後・晩期）、石製円盤
82	侍村 Ⅱ	散布地	姉帯字侍村	縄文	縄文土器（中・後・晩期）、石製円盤、石鏃
83	鬼渕	散布地	姉帯字鬼渕	縄文・弥生・平安	縄文土器（前・中・後・晩期）、弥生土器、土師器、須恵器
84	鬼渕 Ⅱ	散布地	姉帯字鬼渕	縄文・弥生・平安	縄文土器、弥生土器、土師器
85	門前	散布地	姉帯字門前	縄文・弥生・奈良	縄文土器（前・中・後・晩期）、弥生土器、土師器
86	下村	散布地	姉帯字下村	縄文	縄文土器（晩期）、注口土器、磨製石斧、石斧
87	下村 Ⅱ	散布地	姉帯字下村	縄文・弥生	縄文土器（前・中・後・晩期）、弥生土器、石鏃
88	上里	散布地	姉帯字上里	縄文	縄文土器（後期）
89	月花	散布地	姉帯字月花	縄文・弥生・平安	縄文土器（後期）、弥生土器、土師器
90	朴館	散布地	小島谷字朴館	縄文	縄文土器（中・晩期）、石皿
91	野木	散布地	小島谷字野木	縄文・墓	縄文土器（後期）
92	野中	散布地	小島谷字野中	縄文	縄文土器（晩期）
93	野里	散布地	小島谷字野里	縄文	縄文土器（晩期）、注口土器、石斧、土偶
94	野里上	散布地	小島谷字野里上	縄文	縄文土器
95	野里上Ⅱ	散布地	小島谷字野里上	縄文	縄文土器
96	中屋敷上	散布地	小島谷字中屋敷上	縄文	縄文土器
97	穴久保	散布地	小島谷字穴久保	縄文	土器
98	中村	散布地	小島谷字中村	縄文	縄文土器
99	古屋敷	散布地	小島谷字古屋敷	縄文	縄文土器（中・晩期）、石鏃
100	高屋敷	散布地	小島谷字高屋敷	縄文	縄文土器（後・晩期）
101	若子内	散布地	小島谷字若子内	縄文	縄文土器（後・晩期）
102	若子内 Ⅱ	散布地	小島谷字若子内	縄文	縄文土器（晩期）
103	若子内 Ⅲ	散布地	小島谷字若子内	中世	堀、平場、切岸
104	仁恩寺	散布地	小島谷字仁恩寺	縄文	縄文土器（十腰内Ⅲ式）
105	仁恩寺 Ⅱ	散布地	小島谷字仁恩寺	縄文	縄文土器（大木10式）
106	仁恩寺 Ⅲ	散布地	小島谷字仁恩寺	縄文	縄文土器（晩期後葉）
107	小遠館	城館跡	一戸字遠ノ口	中世	堀切、平場、帯郭
108	西法寺館	城館跡	西法寺字運荷	中世	堀、平場、帯郭
109	西法寺館Ⅱ	散布地	西法寺字西法寺	縄文・中世	縄文土器、石鏃、中世遺物
110	中里館	城館跡	中里字武道平	縄文・中世	堀、平場、陶器、縄文土器、土師器
111	老ケ館	城館跡	西法寺字館越	弥生・中世	竪堀？、平場、腰郭
112	小友館	城館跡	小友字下川原目	中世	郭、平場
113	女鹿館	城館跡	女鹿字女鹿館	古代・中世	郭、平場、腰郭
114	半笹原館	城館跡	小友字半笹原	古代・中世	
115	女鹿沢内館	城館跡	女鹿字沢内	古代・中世	
116	新館林館Ⅱ	城館跡	小繁字新館林	中世	
117	新館林館	城館跡	小繁字新館林	中世	
118	一戸城跡	散布地 城館跡	一戸字北館	縄文・中世	堀、掘立柱建物跡、張穴状遺構、陶器類、鉄製品、古銭、木製品、縄文土器（中・後期）、土師器
119	上野	集落跡	一戸字上野、字北館	縄文・弥生・古代・中世	縄文土器、弥生土器、土師器、石器
120	田中Ⅰ	散布地	平瀬字田中	縄文・中世	縄文土器、弥生土器、土師器、石器
121	田中Ⅱ	散布地	石瀬字田中	縄文・中世	縄文土器（早・前・中・晩期）、磨石、土師器
122	根反館	城館跡	根反字野廻岡	中世	平場、中郭、堀、土塁
123	姉帯館	城館跡	姉帯字川久保	中世	郭、土塁、溝
124	五月館	城館跡	平瀬字高岡本	中世	櫓切、平場

② 仁昌寺Ⅲ遺跡

遺跡の地形に応じてトレンチを入れ、遺跡の状況を把握した。表土除去は重機（ユンボ0.4L）を用いて行った。遺構検出・精査の順に進めた。検出した遺構は土坑は2分法、竪穴住居跡・竪穴住居状遺構・炉跡は4分法を原則として精査を行った。記録として必要な図面及び写真撮影は、精査の各段階のおいて行った。竪穴住居跡・土坑類の図面は1／20、炉跡の図面は1／10を基本として断面図と平面図を作成した。平面実測は光波トランシットを用いて行った。遺構の命名については、特に略号を用いず、検出した順に1号土坑、1号竪穴住居跡とした。本報告書で使用した名称は野外調査時の名称を整理し改名したものである。遺物は遺構内出土遺物は遺構毎に、遺構外出土遺物はグリッド毎に層位を記して取り上げている。

(2) 写真撮影

野外調査での写真撮影は、6×7cm判カメラ1台（モノクロ）と35mm判カメラ2台（モノクロ、カラー・リバーサル）を使用し、遺構・遺物の検出状況や出土状況を必要に応じて撮影している。仁昌寺Ⅲ遺跡ではデジタルカメラも使用した。他にポラロイドカメラ1台をメモ的な用途として使用している。撮影にあたっては、整理時の混乱を防止するために、撮影状況を記した「撮影カード」を事前に撮影している。また五月館跡は平成13年度調査開始時と平成14年度調査終了時に、仁昌寺Ⅲ遺跡は14年度調査終了時にそれぞれ小型飛行機による空中写真の撮影を実施している。

(3) 広報活動

埋蔵文化財に対する啓蒙活動の一環として、見学希望者に対しては随時応対した。また仁昌寺Ⅲ遺跡では平成14年9月27日（金）に現地公開を開催している。

2．室内整理の方法

(1) 作業手順

室内整理は野外で洗浄できなかった遺物の水洗から開始し、グリッド・遺構ごとの仕分け、遺物の接合・復原、遺物の実測、計測、拓本、遺構・遺物のトレース、遺物の写真撮影、遺構・遺物図版、写真図版の順に作業を進めた。これらの作業と並行して原稿の執筆を進めるとともに、各種の鑑定・分析を行って、報告書に掲載している。

(2) 遺構

遺構図面は、原図を種別毎に分類し点検を行った上必要なものについては第二原図を作成してトレースを行った。撮影されたフィルムはネガアルバムに写真と一緒に収納した。カラースライドフィルムはスライドファイルに撮影順に収納した。

(3) 遺物

遺物は野外及びセンターで洗浄した後、全出土遺物を点検し、実測や拓本の必要なものを選択・登録して、接合・復原、注記を行った。遺物の実測図は実大とし、トレースは遺物の状況に応じ実大もしくは縮尺して図化した。全体の遺物量が少ないことや小破片のものが多いことから、実測・拓本の必要のないものは写真掲載のみにとどめている。

Ⅳ. 五 月 館 跡

所　在　地	二戸郡一戸町小鳥谷字上里48ほか
委　託　者	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所 国道４号小鳥谷バイパス建設
遺跡台帳番号	ＪＦ40－0005
調 査 略 号	ＳＴＴ－01／ＳＴＴ－02
調 査 面 積	13年度　4,508㎡ 14年度　7,942㎡
調 査 期 間	平成13年７月２日～10月26日 平成14年４月11日～６月28日
整 理 期 間	平成13年11月１日～平成14年３月29日 平成14年12月２日～平成15年３月31日
調査担当者	13年度　飯坂一重・中村直英・北田　勲 14年度　飯坂一重・原　美津子
整理担当者	13年度　飯坂一重・北田　勲 14年度　飯坂一重
協 力 機 関	一戸町教育委員会

1．遺跡の立地

五月館跡は二戸郡一戸町小鳥谷字上里48ほかに所在する。いわて銀河鉄道一戸駅の南方約5.3kmに位置し、国道4号と町道（旧奥州街道）に挟まれた平糠川左岸の丘陵部に立地している。五月館の南側は平糠川の断崖を呈し、東側は数段の急斜面、北側もV字形の断崖、西側は狭い鞍部から山地へと続いている。調査区の標高は約188～234mである。遺跡の現況は大部分が山林及び原野であるが、東側下段は畑地である。調査区のうち北東向きの斜面は昭和50年代まではぶどう畑として利用されていた。本遺跡は町道を挟んで仁昌寺Ⅱ遺跡と隣接している。

2．グリッド設定

グリッドの設定にあたっては、日本測地系平面直角座標第Ⅹ系を用いた。まず基準点1を座標原点として設定した。設定した座標原点はX＝17,880.000　Y＝40,650.000である。

これを基準にして、座標軸を45°傾けてグリッドを設定した。この基準点を南隅とし、一辺が40mの大グリッドを設定した。さらに調査区全体をカバーできるように各方向にこの大グリッドを設定した。グリッド名は調査区の南端が入るグリッドを基に、南東から北西に向かってはアルファベットの大文字A～Hを、南西から北東に向かってはローマ数字のⅠ～Ⅲを付した。またこの大グリッドを10等分し4×4mに区画した小グリッドを設定し、南東から北西に向かってはアルファベットの小文字a～jを、南西から北東に向かっては算用数字の1～10を付した。グリッド名は大小のグリッドを組み合わせてⅡＥⅠc・ⅢＦⅠaというように呼称している。

各規準点の日本測地系座標（X・Y）、標高値（H）は次の通りである。

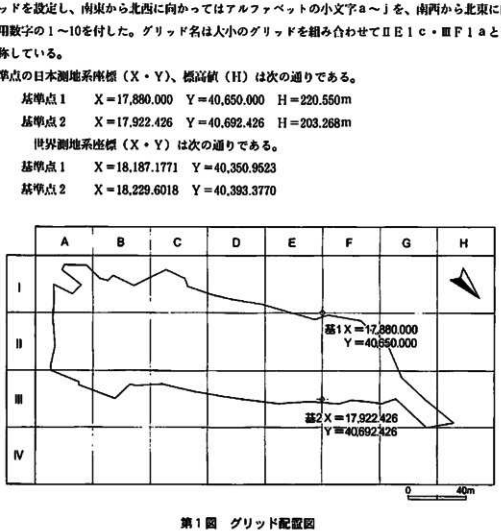
基準点1　X＝17,880.000　Y＝40,650.000　H＝220.550m

基準点2　X＝17,922.426　Y＝40,692.426　H＝203.268m

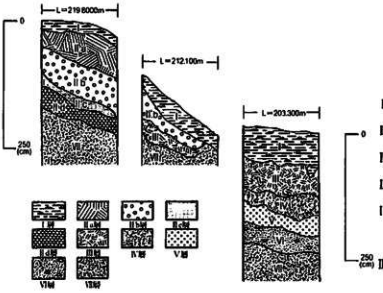
世界測地系座標（X・Y）は次の通りである。

基準点1　X＝18,187.1771　Y＝40,350.9523

基準点2　X＝18,229.6018　Y＝40,393.3770



第1図　グリッド配置図



Ⅰ層　10YR4/3にぶい黄褐色シルト
粘性弱　しまり弱　表土

Ⅱa層　10YR4/4褐色シルト　粘性中
しまり中　草木根多い　盛土1

Ⅱb層　10YR2/3黒褐色シルト　粘性中
しまり中　草木根多い　盛土2

Ⅱc層　10YR2/1黒褐色シルト　粘性中
しまり中　盛土3

Ⅱd層　10YR3/2黒褐色シルトと10YR5/4
にぶい黄褐色シルトの混合土
粘性中　しまり弱　炭化物粒
ごくまばらに含む　盛土4

Ⅲ層　10YR1.7/1黒色シルト　粘性中
しまり弱　旧表土
10YR4/2にぶい黄橙To-a火山灰
粒をごくまばらに含む
部分的にTo-a火山灰の再堆積が
見られる

第２図　基本土層柱状図

３．基本土層

調査区は南北に約280m、東西に約90mの長さを持つが、東側最下段の畑地と南側の低地部分を除いては、旧ぶどう畑が大部分で南西から北東に向かっている数段の斜面地である。その斜面の調査区内の比高が約46mである。そこで斜面に沿った試掘トレンチから、上段部・中段部・下段部の３箇所を深掘りし、その土層断面を遺跡の基本土層とした。

Ⅳ層　10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト　粘性強　しまり強

10YR7/8黄橙浮石の再堆積物をごくまばらに含む
層自体に斜面上方からの崩すい性の堆積物を含む

Ⅴ層　10YR3/1黒褐色シルト　粘性強　しまり強

10YR7/6明黄褐色砂2%含む　細かい砂が混入する層である

Ⅵ層　10YR3/2黒褐色粘土質シルト　粘性強　しまり強　地山漸移層

10YR7/8黄橙浮石を1%含む

Ⅶ層　10YR6/8明黄褐色火山灰（八戸火山灰）　粘性強　しまり強　地山

４．検出遺構と出土遺物

(1)　概要

五月館跡は、西岳の裾野付近に端を発して北東方向に延びる丘陵縁辺部の北東方向に張り出す尾根に立地している。館は南東側が平篠川の断崖、北西側がＶ字形の断崖という自然地形を利用している。平地から主郭と想定される地点までの比高は65mを測る。ここには近年まで使用されていた小烏谷浄水場があるが、現在は使用されておらず建物だけが残されている。尾根の後背となる、建物の南西側には２条の堀が確認されている。尾根の裾となる、建物の北東側へ向けては数段からなる斜面地となっている。地表観察では上段は緩やかな傾斜の広い平坦地が３段からなり、その下は狭い平坦地と比高の大きな急斜面が数段続き、さらにその下は標高200m付近で再び緩やかな平坦地となり平地へと続いている。今回の調査区は、この斜面の中～下段の急斜面から平地に続く緩やかな平坦地までが対象となった。発掘調査の結果、曲輪状の平坦地７箇所、切岸状の急斜面５箇所を確認した。この平坦地や急斜面には重機等の痕跡が見られたり、番線が至るところから見つかるなどしている。また上層から推測してもこれらの地形は、現代の畑の造成の際の盛り土による平坦地、急斜面であると思われる。また縄文時代の土坑が検出され、縄文土器が出土していることから、五月館跡は縄文時代と中・近世の遺跡から成る複合遺跡であることが明らかになった。

(2) 曲輪状平坦地・切岸状急斜面

曲輪状平坦地を階段状に7箇所、切岸状急斜面を5箇所確認した。曲輪状平坦地は調査区北側の南北に伸びる尾根の西側に2箇所、東側には5箇所確認しその上段調査区外にもさらに数段確認されている。

1号曲輪状平坦地（第3・4図）

<位置>調査区ⅡＦ２ｃ～ⅡＦ７ｆグリッド、標高217.6～220.0mに位置する。

<規模>規模は長軸14.5m、短軸12.8m、面積112㎡で方形を呈する。

2号曲輪状平坦地（第3・4図）

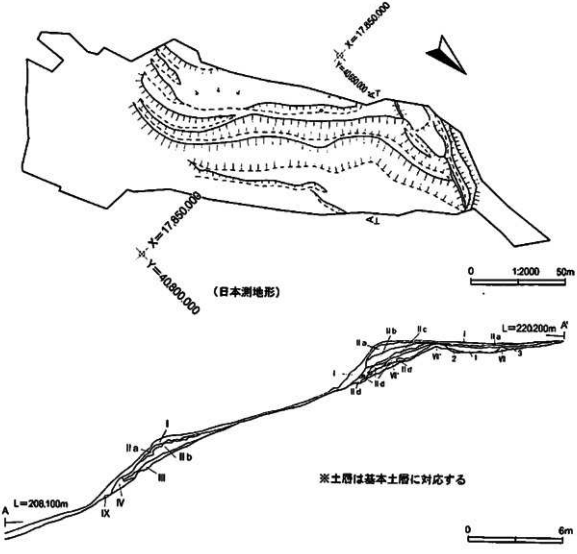
<位置>調査区ⅡＦ６ｆ～ⅡＦ９ｈグリッド、標高215.0m～217.6mに位置する。

<規模>規模は長軸17.0m、短軸8.0m、面積100㎡で槍先形を呈する。

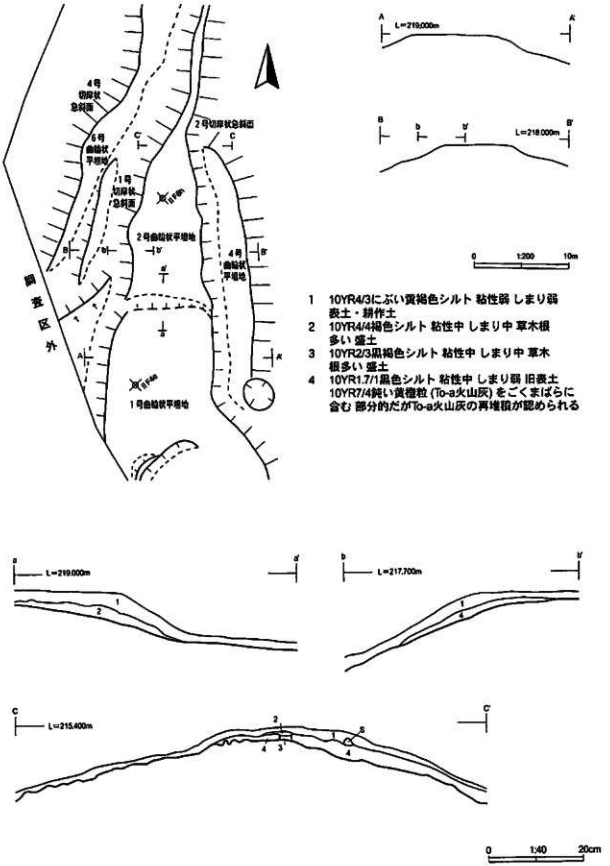
3号曲輪状平坦地（第3・5図）

<位置>調査区ⅡＤ２ｂ～ⅡＦ４ｂグリッド、標高222.0m～223.4mに位置する。

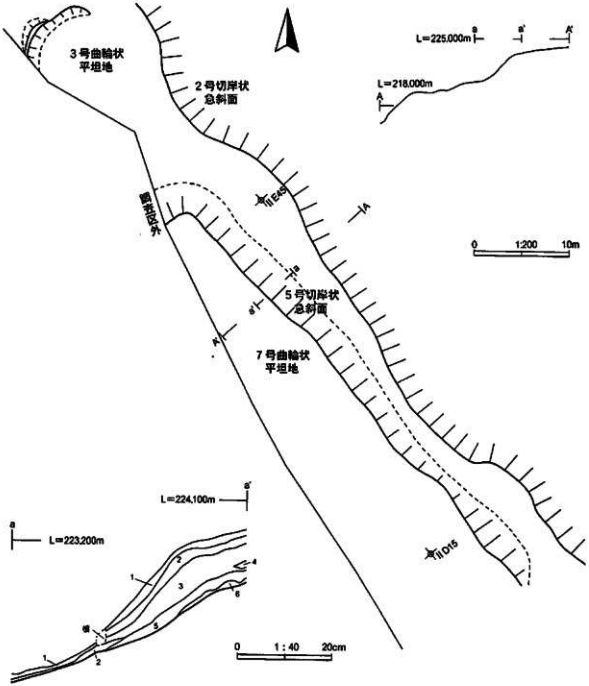
<規模>規模は長軸41.5m、短軸16.5m、面積388㎡で帯状を呈する。



第3図　遺構配置図



第４図　曲輪状平坦地・切岸状急斜面（１）



1　10YR3/2黒褐色シルト　粘性弱　しまりやや弱　草木根多量　やや砂質
2　10YR2/3黒褐色シルトと10YR2/2黒褐色シルトの混合土　粘性弱　しまりやや弱　草木根多量　やや砂質
3　10YR2/2シルト　粘性弱　しまり弱　草木根多量　畑地造成時盛土　緩じてしまりがなく段のへりに近づくほど粗くなる　この層まで草木根が張りめぐっている　新しい造成の跡と思われるが、土質はほぼ均一で混入する黄質土も少ない
4　10YR2/2黒褐色シルト　10YR3/3暗褐色砂が20％所々層状に混在　上段は5層で検出をかけたが所々に砂の層まりが見られた
5　10YR2/1シルト　粘性やや強　しまり中　10YR5/6黄褐色砂質シルトTo-cuブロック状に混在　上段のみに見られ、縄文の検出面である　プライマリー層と思われる　断面には現れていないが、検出時To-a火山灰が点在
6　10YR5/6黄褐色砂質シルトと10YR3/4暗褐色シルトの混合土　粘性やや強　しまりやや強　10YR6/8明黄褐色To-cu粒3％混入

第5図　曲輪状平坦地・切岸状急斜面（2）

4号曲輪状平坦地（第3・4図）

<位置>調査区ⅡＦ４ｂ～ⅡＦ10ｇグリッド、標高214.5m～217.5mに位置する。

<規模>規模は長軸28.5m、短軸3.0m、面積59㎡で帯状を呈する。

5号曲輪状平坦地（第3図）

<位置>調査区ⅡＦ５ａ～ⅢＦ１ｈグリッド、標高210.3m～212.4mに位置する。

<規模>規模は長軸35.4m、短軸2.6m、面積150㎡で帯状を呈する。

6号曲輪状平坦地（第3・4図）

<位置>調査区ⅡＦ４ｈ～ⅢＧ３ｂグリッド、標高208.4m～213.4mに位置する。

<規模>規模は長軸42.4m、短軸1.2～5.0m、面積99㎡で帯状を呈する。

7号曲輪状平坦地（第3・5図）

<位置>調査区ⅡＤ１ｃ～ⅡＥ１ｇグリッド、標高223.5m～225.8mに位置する。

<規模>規模は長軸28.5m、短軸16.5m、面積533㎡で帯状を呈する。

1号切岸状急斜面（第3・4図）

<位置>調査区ⅡＦ２ｄ～ⅢＧ６ｂグリッド、標高207.6m～219.5mに位置する。

<規模>1号曲輪状平坦地・2号曲輪状平坦地と6号曲輪状平坦地の間にあり、この間の比高差は約12mを測る。南側は調査区外の山林に続いている。

2号切岸状急斜面（第3・4・5図）

<位置>調査区ⅡＦ９ｈ～ⅡＤ１ｂグリッド、標高219.8m～214.5mに位置する。

<規模>1・2・3号曲輪上平坦地と5号曲輪状平坦地の間にある。3号曲輪状平坦地の下では南東から北西方向に、1・2号曲輪状平坦地の下にきて南から北に向かっている。

3号切岸状急斜面（第3図）

<位置>調査区ⅡＦ６ａ～ⅢＧ３ｃグリッド、標高209.8m～206.7mに位置する。

<規模>5号曲輪状平坦地の下にあり、この斜面の下は畑地・宅地に連なっていく。

4号切岸状急斜面（第3・4図）

<位置>調査区ⅡＦ４ｉ～ⅢＧ３ｂグリッド、標高211.2m～200.2mに位置する。

<規模>6号曲輪状平坦地の下にあり、調査区外及び町道に続く。

5号切岸状急斜面（第3・5図）

<位置>調査区ⅡＥ１ｇ～ⅡＤ８ａグリッド、標高220.1m～224.0mに位置する。

<規模>7号曲輪状平坦地と3号曲輪状平坦地の間にある。2号切岸状急斜面の南側に並行している。

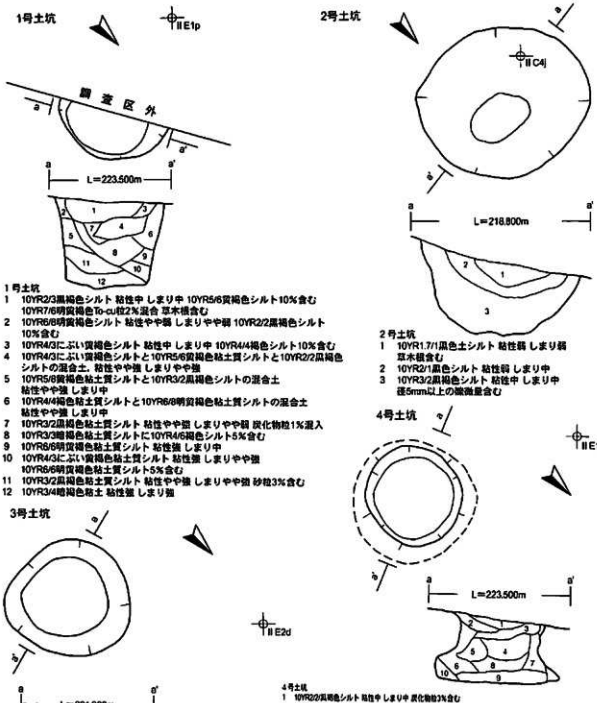
(3) 土坑

土坑4基を登録した。3基は西側上段部調査区境付近から検出されている。重複関係はなく、それぞれ独立している。他の1基は調査区中央部から検出されている。

1号土坑（第6図、写真図版6）

<位置> ⅡＥ１ｅグリッド、標高223.3mに位置する。調査区境から検出された。

<形状・規模> 調査区外に延びているため全体的な規模や平面形は不明である。検出された部分の規模は、開口部径110cm、底部径86cm、深さ92cmを測る。平面形は円形と推測される。



1号土坑
1 10YR2/3黒褐色シルト 粘性中 しまり中 10YR5/6黄褐色シルト10%含む
10YR7/6明黄褐色To-cu粒2%混合 草木根含む
2 10YR5/8明黄褐色シルト 粘性やや弱 しまりやや弱 10YR2/2黒褐色シルト
10%含む
3 10YR4/3にぶい黄褐色シルト 粘性中 しまり中 10YR4/4褐色シルト10%含む
4 10YR4/3にぶい黄褐色シルトと10YR5/6黄褐色粘土質シルトと10YR2/2黒褐色
シルトの混合土. 粘性やや強 しまりやや強
5 10YR5/8黄褐色粘土質シルトと10YR3/2黒褐色シルトの混合土
粘性やや強 しまりや
6 10YR4/4褐色粘土質シルトと10YR6/8明黄褐色粘土質シルトの混合土
粘性やや強 しまりや
7 10YR3/2黒褐色粘土質シルト 粘性やや強 しまりやや弱 炭化物粒1%混入
8 10YR3/3暗褐色粘土質シルトに10YR4/6褐色シルト5%含む
9 10YR6/8明黄褐色粘土質シルト 粘性強 しまりや
10 10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルト 粘性強 しまりやや強
10YR6/6明黄褐色粘土質シルト5%含む
11 10YR3/2黒褐色粘土質シルト 粘性やや強 しまりやや弱 砂粒3%含む
12 10YR3/4暗褐色粘土 粘性強 しまり強

2号土坑
1 10YR1.7/1黒色土シルト 粘性弱 しまり弱
草木根含む
2 10YR2/1黒色シルト 粘性弱 しまり中
3 10YR3/2黒褐色シルト 粘性中 しまり中
径5mm以上の礫微量含む

3号土坑
1 10YR2/1黒色シルト 粘性中 しまり中 10YR5/6明黄褐色To-cu2%混入
2 10YR2/1黒色シルトと10YR3/2黒褐色シルトと10YR4/4褐色シルトの混
合土 粘性弱 しまり弱
3 10YR2/1黒色シルトと10YR3/2黒褐色シルトの混合土 粘性弱 しまり中
10YR6/8明黄褐色シルト粒20%以下混入
4 10YR3/4暗褐色シルト 粘性やや弱 しまり中 10YR6/8明黄褐色To-cu2%
混入
5 10YR5/8黄褐色粘土質シルトと10YR3/4暗褐色シルトの混合土
粘性やや強 しまりや

4号土坑
1 10YR2/2黒褐色シルト 粘性中 しまり中 炭化物粒3%含む
2 10YR2/2黒褐色シルト 粘性中 しまりやや強. 10YR5/8明黄褐色To-cu粒1%含む
3 10YR2/2黒褐色シルトと10YR4/4褐色粘土質シルトの混合土 粘性やや強 しまりや
炭化物粒1%含む
4 10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルトと10YR5/6黄褐色粘土質シルトの混合土
粘性中やや強 しまりやや強
5 10YR2/2黒褐色粘土質シルト 粘性中やや強. しまりや 10YR5/8黄褐色粘土質シルト5%含む
小礫3%含む
6 10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルト 粘性やや強 しまりや. 10YR5/8黄褐色粘土質シルト5%含む
7 10YR3/3暗褐色粘土質シルト 粘性やや強 しまりやや強 10YR5/8黄褐色シルト粒3%含む
8 10YR2/3黒褐色粘土質シルトと10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトの混合土 粘性やや強 しまりや
9 10YR3/4暗褐色粘土質シルト 粘性やや強 しまりや 10YR5/8黄褐色シルト粒5%含む 炭化粒3%含む
10 10YR5/8黄褐色粘土質シルト 粘性弱 しまりや
11 10YR3/4暗褐色粘土質シルトと10YR5/8黄褐色粘土質シルトの混合土 粘性やや強 しまりやや弱

0 1:40 1m

第6図 土坑

<埋土> 黄褐色シルトを主体とする12層に細分される。人為堆積と考えられる。

<出土遺物> 遺物は出土していない。

<時期> 縄文時代と考えられる。

2号土坑（第6図、写真図版6）

<位置> ⅡＣ３ｉグリッド、標高218.2～218.6mに位置する。Ⅴ層下で検出された。

<形状・規模> 平面形は円形、断面形は椀形である。開口部径180×158cm、深さ60cmを測る。

<埋土> しまりの異なる黒色シルトと黒褐色シルトの３層で構成される。

<出土遺物> 遺物は出土していない。

<時期> 不明である。

3号土坑（第6図、写真図版6）

<位置> ⅡＥ１ｃグリッド、標高221.8mに位置する。

<形状・規模> 平面形は円形、断面形は皿形である。開口部径120×134cm、底部径84×90cm、深さ36cmを測る。

<埋土> 黒色シルトを主体に５層で構成される。人為堆積と考えられる。

<出土遺物> 遺物は出土していない。

<時期> 縄文時代と考えられる。

4号土坑（第6図、写真図版6）

<位置> ⅡＥ１ｄグリッド、標高223.2mに位置する。

<形状・規模> 平面形は円形、断面形はフラスコ形である。開口部径106×102cm、底部径134×124cm、深さ75cmを測る。

<埋土> 黒褐色シルトを主体とする11層に細分される。

<出土遺物> 埋土１～２層から縄文時代晩期の土器２点（掲載番号１、２）出土している。

<時期> 出土遺物から縄文時代晩期と考えられる。

(4) 遺物

今回の調査で出土した遺物は土器約１箱、石器・石製品２点、鉄製品19点、銭貨２枚、陶磁器約１箱である。これらのうち遺構内遺物は４号土坑から出土した縄文土器２点だけで、他は全て遺構外遺物である。土器や陶磁器のほとんどは破片である。

① 土器（第７・８図、写真図版９）

土器は小コンテナで約１箱出土している。東側最下段畑地や南側低地を含む広い範囲から出土している。その中でも多く出土しているのは西側上段部ⅡＥ・ⅡＦグリッドである。時期は縄文時代中期～晩期、弥生時代である。主体となるものは縄文時代晩期である。

② 石器・石製品（第９図、写真図版10）

石器・石製品は各１点ずつ出土している。

③ 鉄製品（第９図、写真図版10）

鉄製品は、なべ、刀、刀子、鎌、火箸、鉄片など19点が出土し、６点を掲載した。東側畑地、南側低地部分を除く調査区中・上段部の表土及びⅠ・Ⅱ層上位から出土している。

④ 銭貨（第9図、写真図版10）

銭貨は2枚出土している。至大通寶（34）、寛永通寶（35）である。

⑤ 陶磁器（写真図版11）

陶磁器は小コンテナで約1箱分出土している。遺物の出土地点は調査区のほぼ全域にわたっているが、ほとんどが表土及び1層からの出土である。いずれも国産であり、製作年代は18～19世紀である。遺物は全て破片もしくは小破片であり、完形のものは出土していない。

a 肥前産磁器

碗が7点（38・42・43・44・45・60・61）のほか、急須（46）、徳利（47）、そば猪口（59）が各1点が出土している。碗のうち38には底裏銘が、43には内面に銘款が施されている。碗以外では徳利に網目文が施されている。製作年代は46・60が19世紀で、他は全て18世紀である。

b 東北産陶器

甕（37）、碗（40）、壺（50）、すり鉢（51）が出土している。51以外は表土付近からの出土である。製作年代は4点とも19世紀である。

c 東北産磁器

瓶（36）、急須（41）、碗（48・62）、紅皿（49）、皿（55・56・57・58）、壺（63）、鉢（64）、上瓶（65）、が出土している。55～58の4点は釉調や胎土から同一個体と思われる。製作年代は62・64が18世紀で、他は全て19世紀である。

d その他の陶磁器

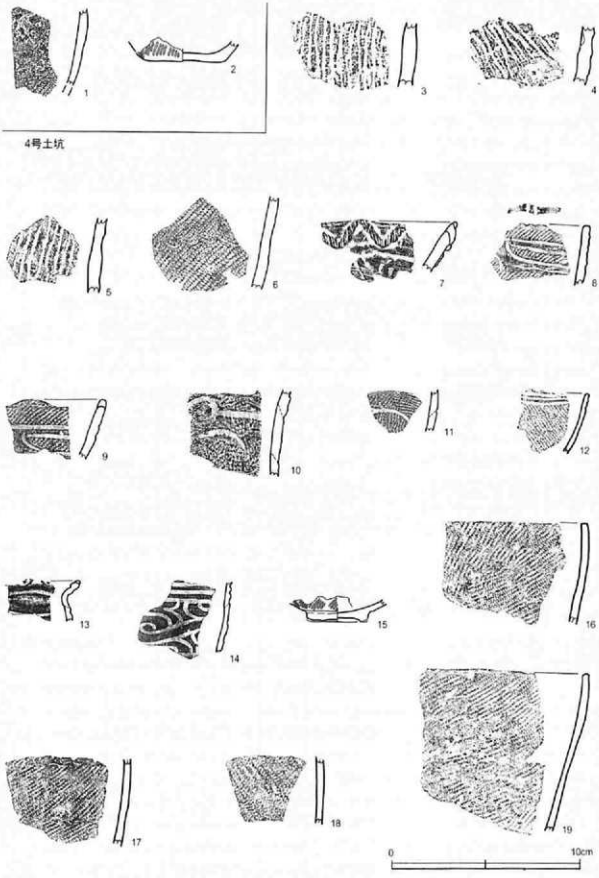
鉢（39）、人形（52）、行平のなべ（53）、挿花人（54）の4点が出土している。39は美濃産の黄瀬戸系で灰釉が施されている。19世紀の作である。54は茶道具である。

5．まとめ

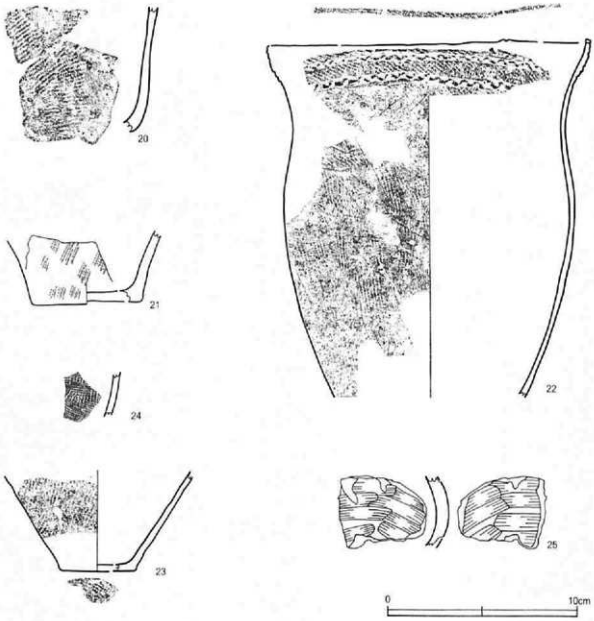
五月館跡で検出された遺構は土坑4基であり、出土した遺物の量も少ない。それぞれについて考察を加えるとともに、本遺跡は中世の館跡であることから、そのことについても言及し、まとめとする。

(1) 五月館の縄張りと館

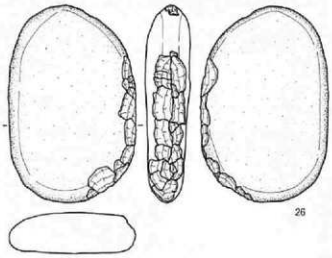
五月館跡は西岳の裾野付近から端を発して北東方向に延びる丘陵縁辺部の北東方向に張り出す尾根に立地している。主郭と想定される地点には、近年まで使用されていた小烏谷浄水場の建物が残っている。平地からの比高は65m、平瀬川からの比高は75mを測り、西南方に続く山地を背に南～東～北方向に広がる街道筋や平野部を一望することができる。ここから北東側に向かって数段の斜面地になっており、今回の調査区はこの斜面中～下段で、標高は188～234mである。調査の結果、普請・作事の跡が見られず、土器や出土遺物から畑造成による斜面と思われる。ぶどう畑造成前の旧地形は、館の下部に広がるなだらかな斜面地であったものと推定される。このなだらかな斜面には平坦地状の箇所がいくつか見られたが、その形状は一様ではなく、この平坦地状地形も自然地形の一部であると考えられる。これに対し主郭があったと推定される付近は、平瀬川に臨む断崖に続く南側、尾根の南西側には東南東から西北西に向かって2条の堀が構築されているのが確認され、北西側は狭い鞍部から山地に続いている。調査区外であったため館の性格等詳しいことはわからなかったが、館としての範囲は主郭と想定される最上段とその周辺のみであり、今回の調査区は館の外側の斜面地であったものと推定される。五月館は『二戸志』によると延暦・弘仁期の遠田公五月に由来す

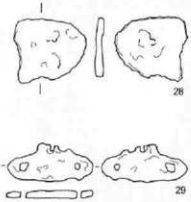


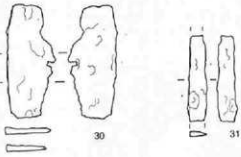
第７図　４号土坑・遺構外出土遺物（土器１）

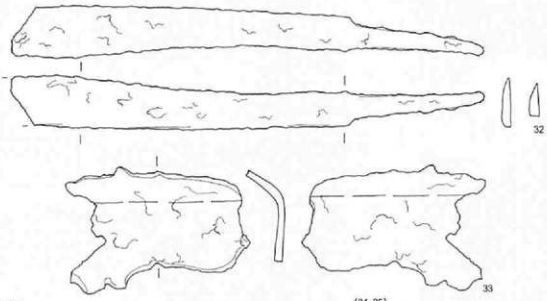


第８図　遺構外出土遺物（土器２）









第９図　遺構外出土遺物（石器・石製品・鉄製品・銭貨）

第１表　遺物観察表

土器

掲載番号	器種	出土地点 グリッド	出土地点 層位	遺構名	部位	時期	文様等
1	深鉢	ⅡＥ１ｄ	埋土１～	４号土坑	胴？	晩期	Ｌ Ｒ縄？
2	深鉢	ⅡＥ１ｄ	埋土１～	４号土坑	底	晩期	Ｌ Ｒ縄、１ガキ期著
3	深鉢	ⅡＦ１０ｉ	表土		胴	前期	(Ｌｒ)撚糸文
4	深鉢	ⅡＦ１０ｉ	表土		胴	前期	(Ｌｒ)撚糸文
5	深鉢	ⅡＦ５ｅ	Ⅱ層下位		胴	前期	(Ｌｒ)撚糸文
6	深鉢	ⅡＥ１ａ	Ⅳ層		胴	晩期	Ｌ Ｒ縄、胴部回転文
7	深鉢	ⅡＦ２ｄ	Ⅳ層		口縁	中期	Ⅱ層堆積土器以外付属により肥厚、胴部土器に沿う刺突文
8	深鉢	ⅡＦ５ｆ	第胴下位		口縁	後期	Ｌ Ｒ縄、沈線、口唇部沈状下具によりＭ字形に成形
9	深鉢	ⅡＥ１ｄ	Ⅳ層		胴	晩期	Ｌ Ｒ縄、沈線、口唇部に小波状の突起
10	深鉢	Ⅰ－ⅡＤ７	第土内		胴	後期	Ｌ Ｒ縄、胴いち沈線
11	深鉢	ⅡＤ１ｂ	第最下位		胴	後期	Ｌ Ｒ多方向、沈線、赤色塗彩
12	深鉢	ⅡＦ１ｉ	Ⅱ層下位		口縁	晩期	Ｒ Ｌ縄、口縁部棒状下具による圧痕、口縁帯３条の平行沈線
13	浅形土器	ⅡＥ１ｃ	第層		口縁	後期	口唇部に二個一対の突起、１ガキ期著
14	浅形土器	ⅡＥ１ｃ	Ⅳ層		胴	後期	沈線により羊歯状文＋Ｏ刺突、１ガキ期著
15	深鉢	ⅡＣ２ｉ	表土		底	後～晩期	Ｌ Ｒ縄
16	深鉢	ⅡＦ５ｂ	Ⅱ層中位		口縁	後～晩期	Ｌ Ｒ縄
17	深鉢	ⅡＦ５ｆ	第層上位		胴	後～晩期	Ｌ Ｒ縄
18	深鉢	ⅡＦ５ａ	第層中位		胴	後～晩期	Ｒ Ｌ縄
19	深鉢	ⅡＦ５ｈ	Ⅱ層中位		口縁～胴	後～晩期	Ｌ Ｒ多方向
20	深鉢	ⅡＦ５ａ	第層中位		胴～底	後～晩期	Ｌ Ｒ多方向
21	深鉢	ⅡＡ３ｋ	Ⅳ層		胴～底	後～晩期	Ｌ Ｒ縄
22	深鉢	ⅡＦ５ｈ	表土下		口縁～胴	弥生	Ｒ Ｌ縄、Ⅱ層堆積下具の交互刺突による小波状文が２条巡る、前土器群
23	深鉢	ⅡＦ５ｈ	表土下		底	弥生	Ｒ Ｌ縄、22と同一個体
24	深鉢	ⅡＣ７ｏ	Ⅱ層		胴	弥生	Ｌ Ｒ／Ｒ Ｌ縄状刺文
25	土偶脚	ⅡＦ５ｅ	表土		脚		内外面共ナデ調整

石器・石刃鏃

掲載番号	器種	出土地点 グリッド	出土地点 層位	重さ (g)	G 質	産地
26	鏃石	ⅡＤ９ｇ	Ⅱ層	946.8	ひん岩	北上山地
27	石刃片	ⅡＤ１Ｒ	Ⅱ層	13.8	頁岩	奥羽山脈

剥製品

掲載番号	器種	出土地点 グリッド	出土地点 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
28	なべ	ⅡＦ５ｆ	表土	3.8	3.4	0.4	17.94
29	不明	ⅡＦ４ｄ	Ⅱ層下位	4.5	1.9	0.4	7.98
30	不明	ⅡＦ５ｂ	Ⅱ層下位	6.0	2.5	0.2	13.43
31	刀子	ⅡＦ４ａ	Ⅱ層中位	4.5	1.0	0.2	3.41
32	刀	ⅡＦ２ｆ	Ⅱ層上位	24.9	2.6	0.4	109.7
33	なべ	ⅡＥ１ｂ	Ⅱ層下位	7.9	6.4	0.4	114.55

鐘鋳

掲載番号	器種	出土地点 グリッド	出土地点 層位	厚さ (cm)	重さ (g)
34	羊人道貨	ⅡＥ３ｉ	Ⅳ層	0.1	2.60
35	寛永通貨	ⅡＦ５ａ	Ⅱ層下	0.1	1.88

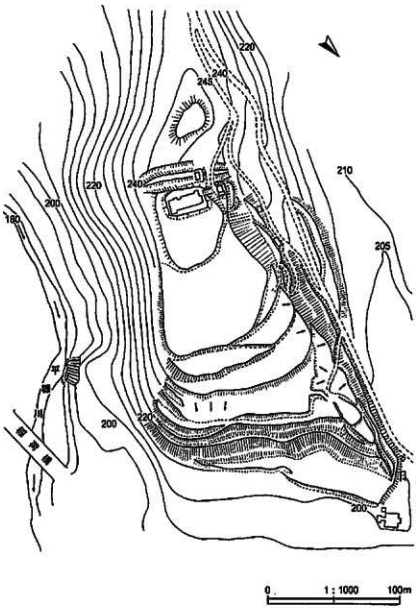
陶磁器

掲載番号	器種	出土地点 グリッド	出土地点 層位	胎土	製作地	製作年代	文様等
36	瓶	ⅠＣ10ｈ	表土	灰白色	東北	１９Ｃ	鉄釉小破片
37	碗	ⅠＤ７ｂ	表土	淡黄色	東北	１９Ｃ	底部破片
38	碗	ⅡＤ２ｉ	第層	灰白色	肥前	１８Ｃ中	口縁～底部、蛇目釉
39	鉢	ⅡＤ４ｃ	不明	淡黄色	不明	１９Ｃ	口縁～胴部、沈線、貫入
40	碗	ⅡＥ３ｊ	表土	灰白色	東北	１９Ｃ	口縁体
41	急須	ⅡＥ９ｉ	Ⅱ層下位	淡黄色	東北	１９Ｃ	口縁部片
42	碗	ⅡＥＲｄ	表土	白色	肥前	１８Ｃ中	底～胴部片
43	碗	ⅡＦ７ｉ	Ⅱ層下位	灰白色	１８Ｃ後	底部、内面に銹釉	
44	碗	ⅡＦ５ｃ	第Ⅱ層下	灰白色	肥前	１８Ｃ中	口縁～底部
45	碗	ⅡＦ５ｃ	第Ⅱ層下	灰白色	肥前	１８Ｃ中	底部
46	急須	ⅡＦ７ｅ	Ⅱ層下位	灰白色	肥前	１８Ｃ中	取付痕
47	瑞利	ⅡＦ３ａ	第層中位	白色	肥前	１８Ｃ後	胴巻文
48	鉢	ⅡＦ６ｄ	Ⅱ層中位	淡黄色	東北	１９Ｃ	胴部小破片
49	紅皿	ⅡＦ10ｄ	Ⅱ層下位	白色	東北	１９Ｃ	口縁～底部
50	つぼ	ⅡＦ２ｂ	表土	灰白色	東北	１９Ｃ	内面に化粧掛
51	すり鉢	ⅡＦ７ｅ	Ⅱ層下位	淡黄色	東北	１９Ｃ	口縁部小破片
52	入形	ⅡＦ３ｒ	表土	灰白色	不明	１９Ｃ	型合わせ
53	なべ	ⅡＦ３ｂ	Ⅱ層下	淡黄色	不明	不明	打撃のなべ
54	瓶化人	ⅡＦ６ｃ	第Ⅱ層下	淡黄色	不明	不明	茶道具
55	碗	ⅡＦ10ｈ	表土	灰白色	東北	１９Ｃ	口縁部片、56・57・58と同一個体
56	皿	ⅡＦ10ｉ	表土	灰白色	東北	１９Ｃ	口縁部片、55・57・58と同一個体
57	皿	ⅡＦ３ｅ	表土	灰白色	東北	１９Ｃ	底部片、55・56・58と同一個体
58	碗	ⅡＦ10ｈ	Ⅱ層下位	灰白色	東北	１９Ｃ	底部片、55・56・57と同一個体
59	そば猪口	ⅡＦ４ｉ	Ⅱ層下位	灰白色	肥前	１８Ｃ初	底部片、彼の長田形合台
60	鉢	ⅡＦ７ｅ	表土	白色	肥前	１９Ｃ	口縁部小破片
61	碗	ⅡＦ１Ｒ	Ⅱ層下位	灰白色	肥前	１８Ｃ	口縁部小破片
62	碗	ⅡＦ１ａ	表土	淡黄色	東北	１８Ｃ	白化粧、胴部小破片
63	つぼ	ⅡＦ２ｄ	Ⅱ層下位	淡黄色	東北	１９Ｃ	胴部、外面のみ施釉
64	鉢	ⅡＧ10ａ	Ⅱ層	淡黄色	東北	１９Ｃ	釉薬が変色
65	土鈴	不明	表採	淡黄色	東北	１９Ｃ	

るといわれ、遠田公五月が坂上田村麻呂の征討軍に協力し、その軍事拠点として利用されたと伝えられている。また、天正年間に小烏谷摂津が居城した小烏谷館が五月館ともされているが、同時期の「九戸の戦い」において周辺の姉帯城や根反館が軍記物や盛岡藩史に記述されているのに対し、五月館についての文書による資料はない。

(2) 縄文時代

土坑を4基検出した。1号・3号・4号土坑の3基はⅡEグリッド、北西側上段部調査区境付近から検出されている。この3基の形状は、断面形に相違はあるものの、平面形は円形であり、また埋土の状況から同じ時期のものと思われる。遺物は4号土坑から縄文時代晩期の土器片2点が出土している。3基の土坑が検出された付近から標高223～224mほどの緩やかな平坦地が南西側調査区外に向けて広がっている。この平坦部の辺部から土坑がまとまって検出されたことから調査区外にも遺構が存在する可能性がある。調査が進むことで今回検出された土坑の位置付けが明らかになるものと思われる。



第10図　五月館縄張想定図

写 真 図 版

写真図版１　空中写真

遺跡全景（東から）

遺跡近景（東から）

調査区現況

雑物撤去

刈払い

写真図版２　調査区近景・現況

調査区外堀跡

調査区外堀跡

基本土層①

基本土層②

基本土層②

基本土層②

曲輪状平坦地断面

曲輪状平坦地断面

写真図版３　基本土層・曲輪状平坦地

北東側完掘（南から）

北西側完掘（南から）

北東側完掘（北から）

北西側完掘（北から）

西側完掘（北から）

西側完掘（北から）

北東側完掘（北東から）

北側尾根完掘（北東から）

写真図版４　曲輪状平坦地

西側急斜面近景

西側急斜面作業風景

西側急斜面断面実測

西側急斜面断面

東側畑地作業風景

東側畑地土層

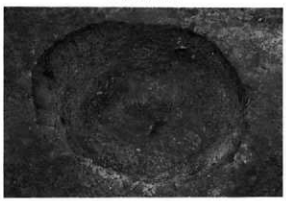
東側畑地トレンチ

東側畑地トレンチ

写真図版５　西側近景・東側畑地

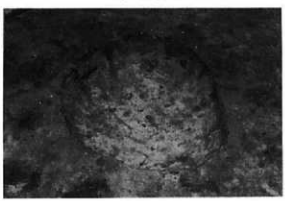
1号土坑平面

1号土坑断面



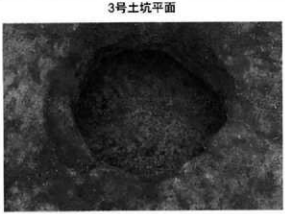
2号土坑平面

2号土坑断面

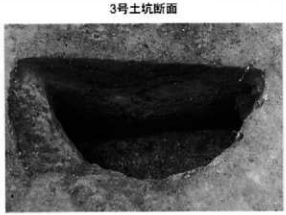


3号土坑平面

3号土坑断面



4号土坑平面



4号土坑断面

写真図版6　1・2・3・4号土坑

遺跡近景（南から）

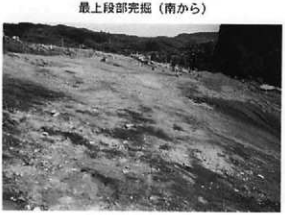
南側完掘（西から）

南側完掘（北西から）

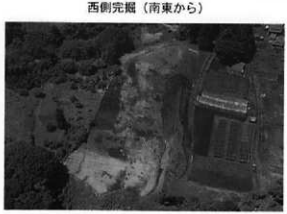
南側完掘（北から）

最上段部完掘（南から）

西側完掘（南東から）



中央部完掘（南から）



完掘空中写真（南から）

写真図版７　曲輪状平坦地

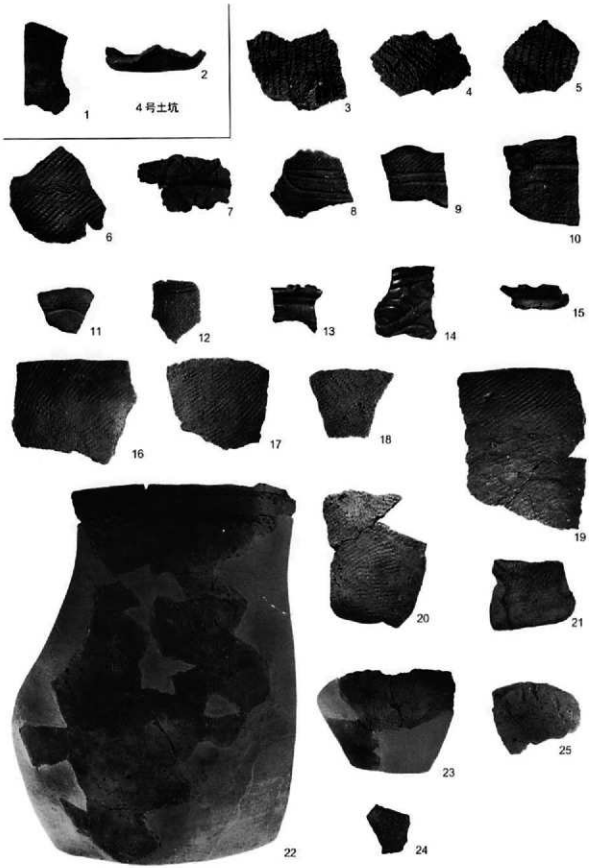
南側低地トレンチ

南側低地空中写真

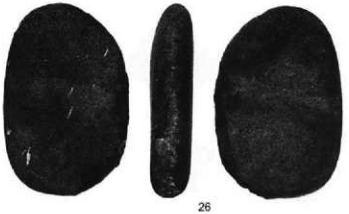
南側低地土層

空中写真（東から）

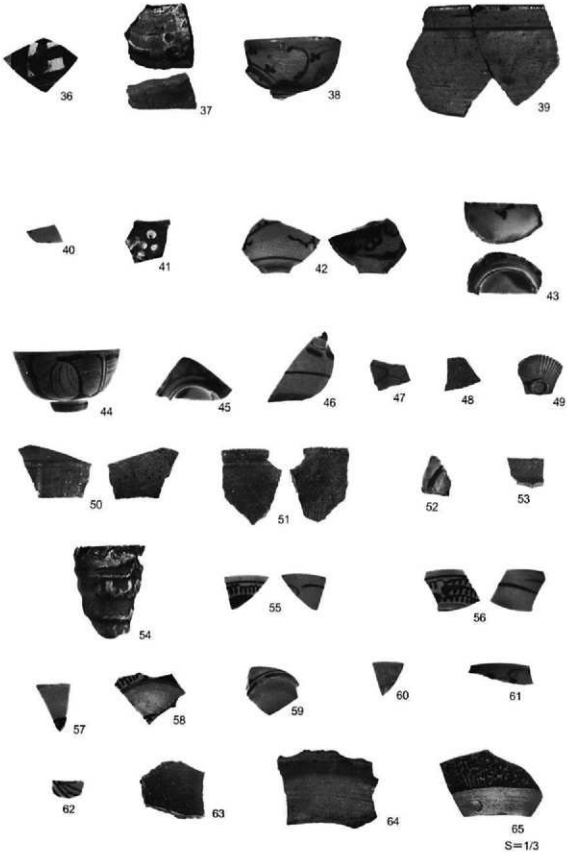
写真図版８　南側低地・空中写真



写真図版９　4号土坑・遺構外出土遺物（土器）



写真図版10　遺構外出土遺物（石器・石製品・鉄製品・銭貨）



写真図版11　遺構外出土遺物（陶磁器）

報告書抄録

ふりがな	さつきたてあとはっくつちょうさほうこくしょ
書名	五月館跡発掘調査報告書
副書名	国道4号小烏谷バイパス建設事業関連遺跡発掘調査
巻次	
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第424集
編著者名	飯坂一重
編集機関	財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
所在地	〒020－0853　岩手県盛岡市下飯岡11－185　Tel 019－638－9001・9002
発行年月日	西暦2004年2月27日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
五月館跡（さつきたてあと）	岩手県一戸郡一戸町小烏谷字上里46ほか（いわてけん・いちのへぐん・いちのへまち・こがらすや・あざかみさと）	03524	ＪＦ40－0005	40度09分36秒	141度18分38秒	2001.07.02～2001.10.26 2002.04.11～2002.06.28	4,508㎡ 7,942㎡	国道4号小烏谷バイパス建設に伴う緊急発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
五月館跡	散布地	縄文	土坑4基	土器 石器・石製品	
	城館跡	近世		鉄製品 銭貨 陶磁器	

緯度と経度は世界測地系

V. 仁昌寺Ⅲ遺跡

所　在　地	二戸郡一戸町小鳥谷字仁昌寺66－10ほか
委　託　者	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所 国道４号小鳥谷バイパス建設
遺跡台帳番号	ＪＦ30－2061
調査略号	ＮＳＪⅢ－02
調査面積	6,250㎡
調査期間	平成14年６月20日～10月４日
整理期間	平成14年11月１日～平成15年３月31日
調査担当者	原　英津子・飯坂一重
整理担当者	原　英津子
協力機関	一戸町教育委員会

1．遺跡の立地

仁昌寺Ⅲ遺跡はＩＧＲいわて銀河鉄道（旧ＪＲ東北本線）一戸駅の南方約4.9kmに位置し、馬渕川の支流・平糠川によって形成された砂礫段丘の背後の東向き緩斜面に立地している。標高は約211～222mで、平糠川との比高は約36mである。調査区の現況は畑地・果樹園である。本遺跡の北には沢を隔てて中屋敷上遺跡が、南東に向かっては仁昌寺遺跡、仁昌寺Ⅱ遺跡、五月館跡の順に隣接している。

2．グリッド設定

仁昌寺Ⅲ遺跡のグリッド設定は、基準点測量を委託し、日本測地系を利用してグリッドの配置を行った。調査区内に基準点１、基準点２を設けこれを基準線とした。そしてこの基準線を延長し、40×40mのメッシュで全調査区を区画した。このメッシュの南西端を基準として南・北方向には南からA、B、C、Dのアルファベットを、西－東方向には西から Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの番号を付し、大区画としてＩＡ区、ⅡＢ区、・・・と表示した。さらにこの大区画を10等分して、４×４ｍの小区画として、南から北へａ～ｊ、西から東へ１～10を付し、その組み合わせによりＩＡ２ｂ、ⅡＢ５ｊのように呼称した。

基準点の日本測地系座標（Ｘ・Ｙ）、標高値（Ｈ）は次のとおりである。

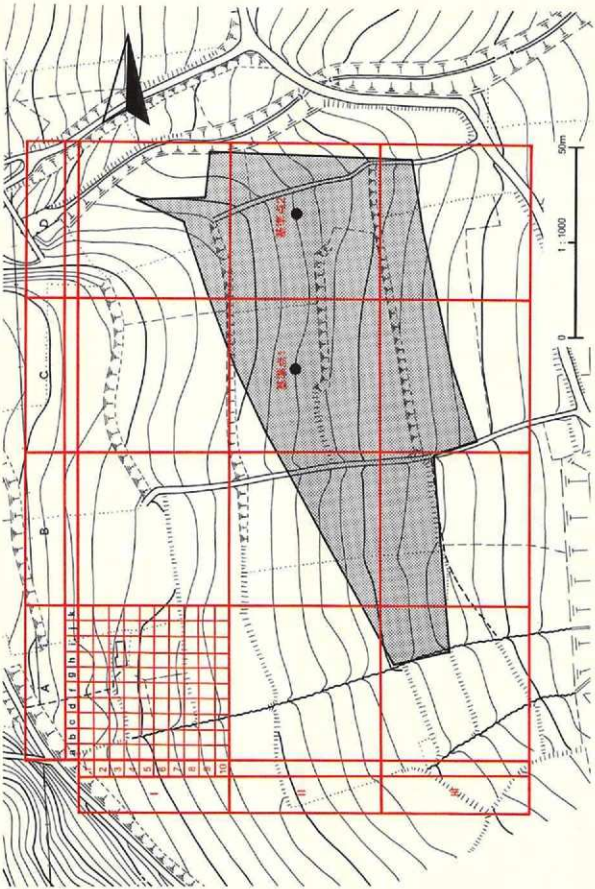
基準点１	Ｘ＝18,320.000	Ｙ＝40,260.000	Ｈ＝218.422m
基準点２	Ｘ＝18,360.000	Ｙ＝40,260.000	Ｈ＝218.546m

世界測地系座標（Ｘ・Ｙ）は次のとおりである。

基準点１	Ｘ＝18,627.1778	Ｙ＝39,960.9864
基準点２	Ｘ＝18,667.1772	Ｙ＝39,960.9874

本稿遺構平面図のグリッドポイントは上記のグリッドの南西端（Ｘ＝18,220.000、Ｙ＝40,200.000）を基点として北方向へは「Ｎ～」、東方向へは「Ｅ～」（単位m）と表記している。

遺構名は、調査時には種別ごと・検出順に１号竪穴住居跡、１号土坑というように名称を付していたが、調査の結果不登録となったもの、種別が変わったものが出てきたので、整理時には変更されている。収納した遺構・遺物記録紙体へはそれぞれ旧遺構名と新遺構名が明記してある。

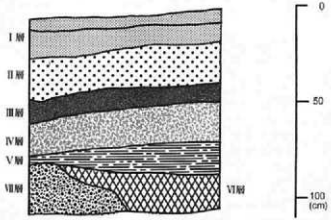


第1図　グリッド配置図

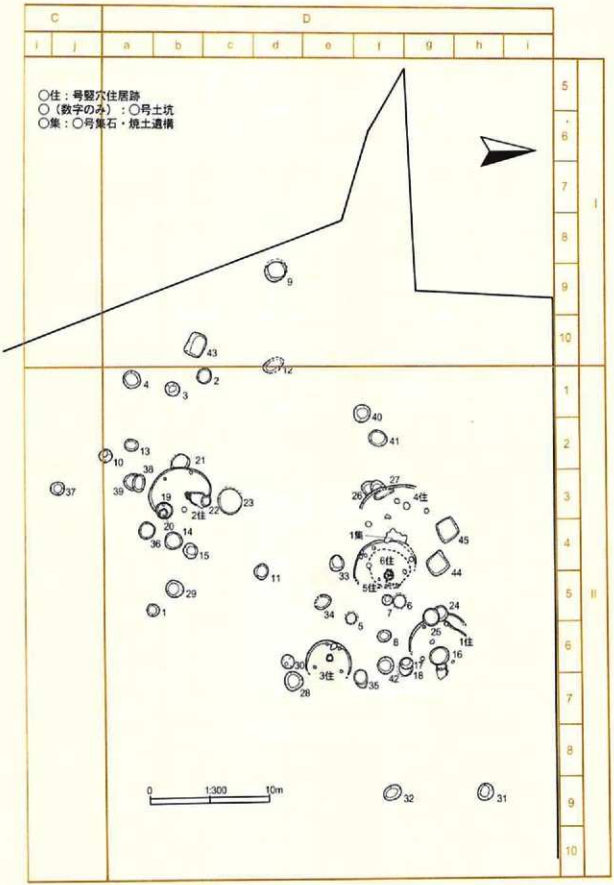
3．基本土層

仁昌寺Ⅲ遺跡の調査区は、前述のとおり緩斜面に立地し、南北に約132m、斜面方向の東西に最大92mの範囲で設定される。面積にして6,250㎡である。この調査区の土層・遺構検出面を把握するため、18本のトレンチを入れ、その断面から決定した。遺物が検出される黒色シルト層は、現況の畑地・果樹園を造成するために大部分が削平・移動されⅡ層と化している。自然層としての黒色シルト層、Ⅲ層は部分的にわずかに認められるだけであった。表土直下でⅣ・Ⅴ層となるところが多く、事実上、検出面はⅣ・Ⅴ層である。

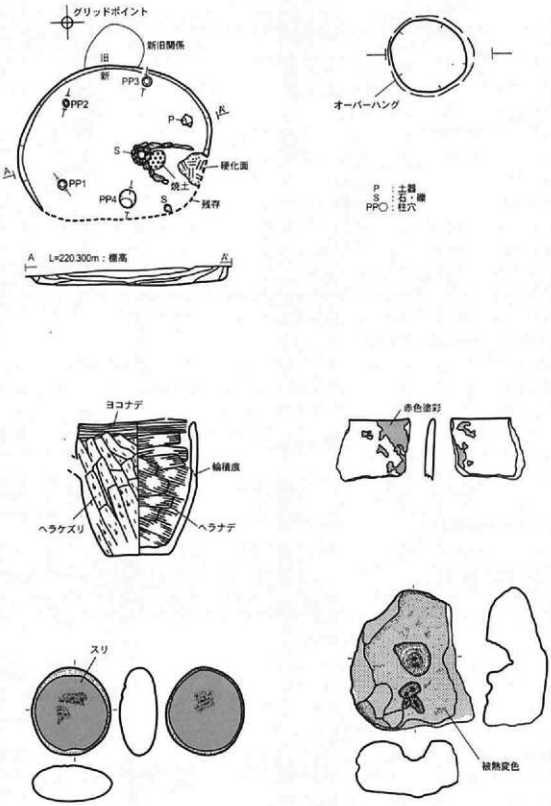
Ⅰ層	10YR3/2黒褐色シルト	粘性弱　しまり弱	表土
	10YR2/2黒褐色シルト	粘性やや弱　しまり弱	表土
Ⅱ層	10YR2/1黒色シルト	粘性やや弱　しまり弱　耕作土	
Ⅲ層	10YR2/1黒色シルト	十和田中世浮石火山灰（To－ch）微量含む	
		粘性中　しまりやや強　――　検出面	
Ⅳ層	10YR3/3暗褐色シルト	十和田中世浮石火山灰微量含む　粘性中　しまり中	
Ⅴ層	10YR4/4褐色シルト	粘性中　しまり強	
Ⅵ層	10YR5/6黄褐色粘質シルト	粘性やや強　しまり強	
Ⅶ層	10YR7/2にぶい黄褐色粘土	粘性強　しまり強	
	10YR6/6明黄褐色粘土	粘性やや強　しまり強	



第2図　基本土層柱状図



第３図　仁昌寺Ⅲ遺跡遺構配置図


グリッドポイント
新旧関係
旧
新
PP3
PP2
P
A
A'
S
硬化面
焼土
PP1
PP4
S
残存
A
L=220.300m：標高
A'
オーバーハング
P ：土器
S ：石・礫
PPO：柱穴
ヨコナデ
輪積痕
ヘラケズリ
ヘラナデ
赤色塗彩
スリ
被熱変色

第４図　図版凡例

4．検出した遺構と遺構内出土遺物

(1) 縄文時代

① 竪穴住居跡

1号竪穴住居跡（第5・6図、写真図版3）

〈位置〉調査区北部、斜面中位のⅡD6ｆグリッドに位置する。

〈検出状況〉Ⅴ層中で黒～黒褐色の半円形プランと炉跡、土坑プランの重複として確認した。斜面下方を削平され、プラン東側は残存しない。西側を24号土坑・25号土坑に切られ、半円形プラン東側と炉の間で16号土坑と重複し、これに切られる。

〈規模・形状〉東側が削平され不明であるが、残存する西壁と炉の位置から推定すると、直径510cm前後の円形あるいは楕円形と思われる。炉の向きから主軸方向は西－東である。

〈埋土〉Ⅲ層起源の黒～黒褐色シルトを主体に構成される。床面近くには炭化物が多く含まれていた。

〈壁・床〉壁はやや外傾ぎみに立ち上がり、残存する南西側の壁高は約15cmである。床面はⅤ層土で、硬くしまり、ほぼ平坦である。このⅤ層土を追って行くと、北西の床が一段高くなっている。他の床面よりもしまりが弱いが、あるいはこちらが壁かもしれない。

〈柱穴〉5基検出したが、炉方向を軸対称にＰＰ１・２・３・５が配されている。

〈炉〉推測されるプランの中心部より東に位置する。西側を16号土坑に切られ上部も削られているため、が石が抜けている部分があり、全体像は不明であるが、〔石囲部＋石組の前庭部〕の複式炉と思われる。前庭部と思われる部分はレンガ状に硬化しており、凹凸がある。焼土は見られないが、石囲部の埋土に炭化物粒が含まれていた。壁のまわり方から推測すると平面的な位置は適当であるが、炉の検出レベルが床面レベルに比べ低いので、本遺構に付属するものではない可能性も考えられる。

〈遺物〉（第6図、写真図版22の1）

土器　中～後期に相当すると思われる粗製土器の破片出土している。時期を特定できる資料ではないため、掲載していない。

石器　1点のみ出土した。1はリタッチド・フレイクで、石質は頁岩である。

〈時期〉時期を特定できる遺物が出土していないため詳細は明らかではないが、他の竪穴住居跡と同じく縄文時代中期後葉～末葉に属するものと思われる。

2号竪穴住居跡（第7・8図、写真図版4）

〈位置〉調査区北部、他の住居跡よりは斜面上方、ⅡD3ａグリッドに位置する。

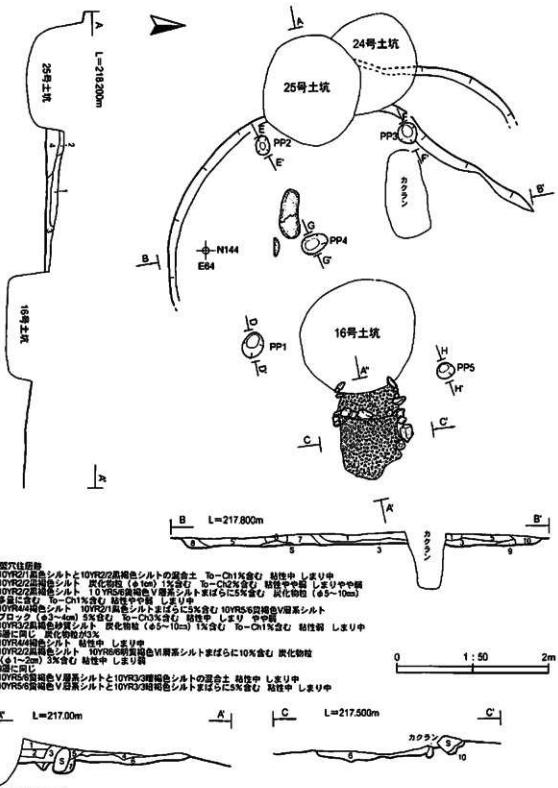
〈検出状況〉Ⅴ層中で黒色の円形プランと土坑プランとの重複として確認した。西を21号土坑に、北を22号土坑に、南東を19号土坑に切られる。斜面下方の東側プランははっきりしない。

〈規模・形状〉東側が削平されているが、残存する壁・床から判断すると、長径約470cm、短径約410cmの楕円形と思われる。主軸方向は、南西―北東方向である。

〈埋土〉上位はⅢ層系の黒～黒褐色シルトを主体とし、中位以下はⅣ層系の暗褐～褐色シルトを主体としている。自然堆積の様相を呈する。

〈壁・床〉壁はほぼ垂直に立ち上がる。床はほぼ平坦である。

〈柱穴〉5基検出した。炉の方向を軸として、ＰＰ１・２・３・５が対称に配されている。また一部壁の残る部分で径約5cm、深さ10cm程度の極小ピットを12基検出した。東側では検出されなかった。



1号竪穴住居跡

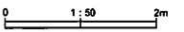
1 10YR2/1黒色シルト＋10YR2/2黒褐色シルトの混合土 To～Ch1%含む 粘性中 しまりや中
2 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物粒（φ1cm）1%含む To～Ch2%含む 粘性やや弱 しまりやや弱
3 10YR2/2黒褐色シルト 10YR5/6黄褐色V層系シルトまばらに5%含む 炭化物粒（φ5～10cm）多量に含む To～Ch1%含む 粘性やや弱 しまりや中
4 10YR4/4褐色シルト 10YR2/1黒色シルトまばらに5%含む 10YR5/6黄褐色V層系シルトブロック（φ5～4cm）5%含む To～Ch3%含む 粘性中 しまり やや弱
5 10YR3/2黒褐色砂質シルト 炭化物粒（φ5～10cm）1%含む To～Ch1%含む 粘性弱 しまりや
5層に同じ 炭化物粒が3%
6 10YR4/4褐色シルト 粘性中 しまりや
7 10YR2/2黒褐色シルト 10YR6/6明黄褐色VI層系シルトまばらに10%含む 炭化物粒（φ1～2cm）3%含む 粘性中 しまり弱
8 9層に同じ
9 10YR5/6黄褐色V層系シルトと10YR3/3暗褐色シルトの混合土 粘性中 しまり中
10 10YR5/6黄褐色V層系シルトと10YR3/3暗褐色シルトまばらに5%含む 粘性中 しまり中

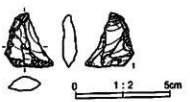
1号竪穴住居跡 炉

1 10YR3/3黒褐色シルト 10YR3/2黒褐色シルトまばらに5%含む粘性中 しまりやや弱
2 10YR2/2黒褐色シルト 10YR5/6黄褐色V層系シルトまばらに5%含む 炭化物粒（φ5㎝以下）2%含む 粘性中 しまりや
3 10YR2/2黒褐色シルト 10YR1、7/1黒色シルトまばらに10%、10YR5/6黄褐色V層系シルト粒（1cm以下）3%含む 炭化物粒（φ5cm以下）1%含む 粘性弱 しまりやや弱
4 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物粒（φ1cm）1%含む 粘性弱 しまりやや弱
5 10YR2/2黒褐色シルト＋10YR5/6黄褐色V層系シルトの混合土 粘性中 しまりやや弱
6 10YR5/6黄褐色シルト 粘性やや弱 しまり弱
7 10YR2/1黒色シルト 粘性弱 しまりやや弱
10 10YR3/2黒褐色シルト 粘性中 しまりやや弱

第5図 1号竪穴住居跡（1）

1号竪穴住居跡　柱穴
PP1　10YR4/3にぶい黄褐色シルトと10YR5/6黄褐色シルトの混合土　上位に炭化物粒（φ5cm）1%含む
　粘性やや強　しまりや
PP2　10YR2/2黒褐色シルトと10YR5/6黄褐色シルトの混合土　粘性やや弱しまりやや弱
PP3 PP1に同じ
PP4　PP2に同じ
PP5　PP2に同じ





1号竪穴住居跡　柱穴

No	PP1	PP2	PP3	PP4	PP5
径(cm)	34×28	25×20	28×27	36×25	25×21
深さ(cm)	64	14	39	13	17

第６図　１号竪穴住居跡（２）・出土遺物

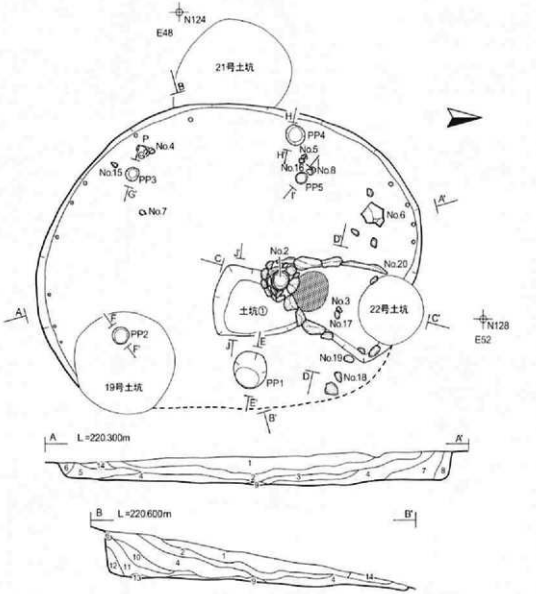
〈炉〉北西壁に接する（土器埋設石囲＋石組みの前庭部）から構成される複式炉である。土器埋設部は大きめの掘り方（土坑①）に深鉢２が正立の状態で置かれ、その周囲に大小さまざまの石が土器の最下部まで隙間無く詰まっている。焼土は、石囲のすぐ脇に54×39cmの範囲に４cmほどの厚さで形成されている。前庭部から３のミニチュア形土器と17の敲・磨石類が出土した。そのほか、炉内埋土からは石の小剥片、ミニチュア形土器の破片等も出土した。

〈遺物〉（第９・10図、写真図版21・22の２～20）

土器　深鉢７点、小形の深鉢１点ミニチュア形土器４点を掲載した。２は炉埋設土器で、胴部には原体縦回転による地文が施されている。３は炉前庭部から（敲・磨石類）と並んで出土した。５・８・９・10・11は、縦方向の沈線区画や磨消縄文による施文特徴を持ち、大木９式に相当する。３・13はＣ字状・Ｓ字状の沈線区画や磨消縄文により横方向へ展開することから、大木10式に相当する。ほか４・６・７・12は中期に属すると思われる粗製土器である。不掲載の土器類も上記時期に収まる。

石器　７点出土している。14は頁岩製のスクレイパー類で、掻器的な刃角を呈す。15は磨製石斧、16～19は敲・磨石類である。20は台石・石皿類で、炉前庭部の石組みに転用されていた約53×47cmの扁平な礫である。

〈時期〉出土遺物から縄文時代中期後～末葉であると考えられる。

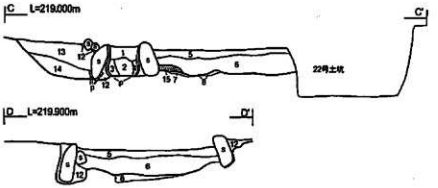


2号竪穴住居跡

1　10YR1. 7/1黒色シルト　10YR3/3暗褐色表土表面にまばらに
　10%含む　To－Ch1％含む　粘性やや強　しまりやや弱
2　10YR4/4褐色Ⅴ層系シルト　10YR1. 7/1黒色シルト10%含む
　To－Ch1%未満含む　炭化物粒（φ1cm）1%含む　崩落層　粘性やや強　しまりやや弱
3　10YR3/3暗褐色シルトと10YR4/6褐色Ⅴ層系シルトの混合土　粘性やや強しまり中
4　10YR4/6褐色Ⅴ層系シルト　Ⅵ層系の小石を5%含む　To－Ch1%未満含む
　粘性やや強　しまり中
5　10YR6/4にぶい黄橙色Ⅵ層系シルト　小石・To－Nbそれぞれ2%含む　粘性やや強
　しまりやや強
6　10YR5/6黄褐色Ⅴ層系シルト　5層土が5%混入　崩落土粘性やや強　しまりやや強
7　10YR3/3暗褐色砂質シルト　粘性中　しまり中
8　6層に同じ
9　10YR6/4にぶい黄橙色Ⅵ層系シルト　小石2%含む　粘性強　しまりやや強
10　10YR2/3黒褐色シルトと10YR4/3にぶい黄褐色シルトの混合土　To－Ch1%含む
　砂を含む　粘性中　しまり中
11　10YR5/6黄褐色Ⅴ層系シルトと10YR4/3にぶい黄褐色シルトの混合土
　To－Ch1%含む　炭化物粒（φ5mm）1%含む　粘性やや強　しまりやや強
12　10YR6/3にぶい黄橙色Ⅵ層系シルトと10YR5/6黄褐色シルトの混合土　粘性やや強
　しまりやや強
13　10YR2/3黒褐色シルトと10YR4/3にぶい黄褐色シルトと10YR6/3にぶい黄橙色
　Ⅵ層系シルトの混合土　粘性やや強　しまりやや強
14　10YR3/3暗褐色シルトと10YR4/3にぶい黄褐色シルトと10YR6/4にぶい黄橙色
　Ⅵ層系シルトの混合土　粘性やや強　しまりやや強

0　1：50　2m

第７図　２号竪穴住居跡（１）



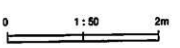
2号竪穴住居跡　炉
1　10YR4/4褐色シルト　10YR2/3黒褐色シルトの混合土　炭化物粒（φ5mm以下）1%含む
　粘性やや強　しまりやや弱
2　10YR2/1黒色シルトと炭化物粒（φ5～10mm）5%含む　粘性やや強　しまりやや弱
3　10YR4/4褐色粘質シルト　粘性やや強　しまり中
4　10YR 4/4褐色粘質シルト　10YR2/1黒色シルトブロック（φ3cm）2%含む
　粘性やや強　しまり中
5　10YR4/4褐色粘質シルト　炭化物粒（φ5cm）1%含む　粘性やや強　しまりやや弱
6　10YR4/4褐色粘質シルト　炭化物粒（φ5cm）2%含む　粘性やや強　しまりやや弱
7　10YR2/1黒色砂質シルト　被熱のため変化している　粘性弱　しまり強
8　5Y R5/4にぶい赤褐色粘土　変化している　粘性弱　しまり強
11 10YR3/4暗褐色シルト　粘性中　しまり中
12 11層と同じものと思われるが、変質土粒に接触する部分やや赤みがかり、7．5YR5/6明褐色の
　粒土へ変質している 13土坑①4層に同じ
14 土坑①6層に同じ
15 7．5YR6/8橙色粘土　5YR明赤褐色粘土粒（φ1cm）2%含む　粘性やや強　しまり中

2号竪穴住居跡　柱穴
PP1　10YR4/4褐色シルト　粘性やや強　しまりやや弱
PP2　10YR5/4にぶい黄褐色シルト　10YR2/2黒褐色粘質シルトブロック（2cm）1%含む
　粘性強　しまり中
PP3　10YR 4/3 にぶい黄褐色粘質シルト　10YR7/6明黄褐色VI層第シルトブロック（φ1～2cm）2%含む
　粘性強　しまり中
PP4　10YR3/4暗褐色粘質シルト　炭化物粒（φ1～2cm）1%含む　粘性強　しまり弱
PP5　PP4に同じ　炭化物は含まず　粘性強　しまり弱

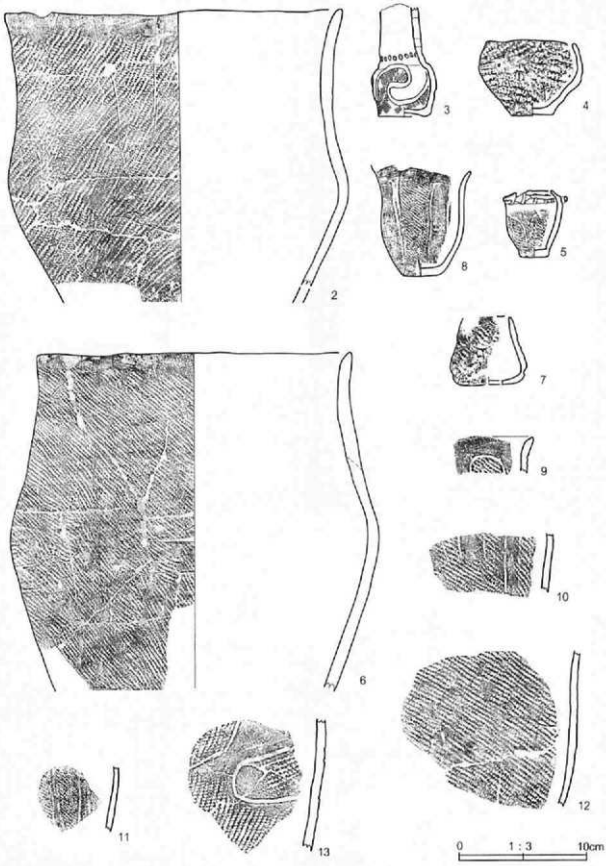
2号竪穴住居跡　柱穴

No	PP1	PP2	PP3	PP4	PP5
径(cm)	49×46	135×135	9×8	13×12	17×16
深さ(cm)	49	28	41	19	54

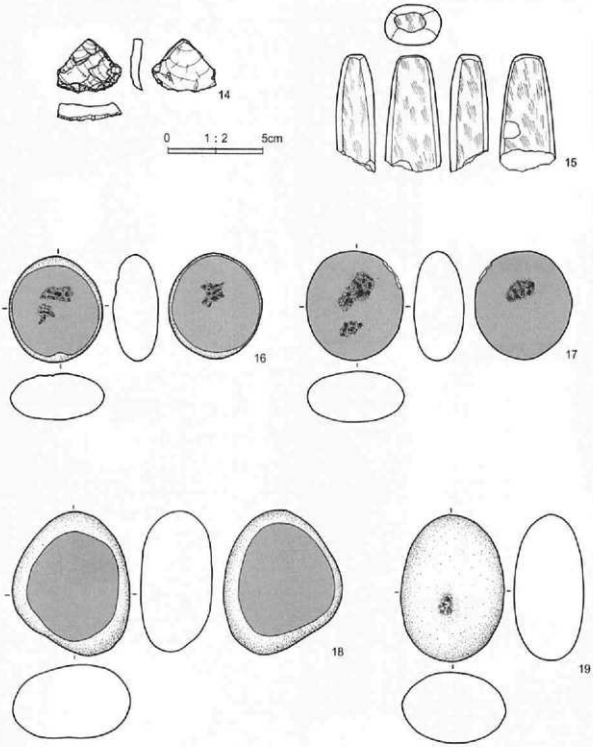
2号竪穴住居跡　土坑①
1　10YR4/3にぶい黄褐色シルト（床土？）　粘性中　しまり強
2　10YR4/4褐色シルトと10YR5/4にぶい黄褐色シルトの混合土（床土？）　粘性やや強　しまりやや強
3　7．5YR5/6明褐色粘土　粘性強　しまり強
4　7．5YR4/4褐色粘土（#13層に同じ）　粘性強　しまり強
5　10YR4/4褐色粘質シルト　粘性やや強　しまり中
6　10YR 5/6黄褐色粘土　粘性強　しまり強
7　10YR4/3にぶい黄褐色粘土と10YR6/4にぶい黄橙色粘土5%含む　粘性強　しまり中
8　7．5YR4/4褐色粘土　5YR6/6黄橙色粘土まばらに5%含む　粘性強　しまり中
9　10YR 6/4にぶい黄橙色粘土　粘性強　しまり強



第８図　２号竪穴住居跡（２）



第９図　２号竪穴住居跡出土遺物（１）



＊20（台石）は写真のみ掲載

0 1：3 10cm

第10図　2号竪穴住居跡出土遺物（2）

3号竪穴住居跡（第11図、写真図版5）

〈位置〉調査区北部、遺構集中エリアの下方、ⅡＤ６ｄグリッドに位置する。

〈検出状況〉Ⅴ層中に現れた土坑大の黒褐色円形プランを半裁したところ、東側に礫がが多形成しており、再度検出し直したところ、黒色シルト混じり黄褐色シルトの半円形のプランを認めた。

〈規模・形状〉東側の壁・床が削平され不明であるが、残存部から直径約380cmのほぼ円形プランと推定される。

〈埋土〉Ⅴ層系のにぶい黄褐～黄褐色シルトを主体に構成される。自然堆積であると思われる。

〈壁・床〉壁はほぼ垂直に立ち上がる。床はほぼ平坦である。部分的に硬化している。

〈柱穴〉５基検出した。ＰＰ５－炉ラインを軸対称にＰＰ１～４が配されている。

〈炉〉石囲炉である。径５～20cmの亜角礫が、径約60cmの円形に組まれている。焼土は認められない。

〈遺物〉（第12図、写真図版23の21～24）

土器　21は床面出土の小形深鉢で、大木９式に相当する特徴をもつ。ここに掲載していないが、中期に収まると思われる粗製土器が数片出土している。

石器　３点出土している。22は床面出土で、細部調整のある磨器である。23は台石としたが、一端に凹形の顕著な潰痕が見られる。24は柱穴から出土した敲・磨石類である。

〈時期〉出土遺物から縄文時代中期後葉頃であると考えられる。

4号竪穴住居跡（第13・14図、写真図版６・７）

〈位置〉調査区北部、斜面中位のⅡＤ３ｆ～ⅡＤ４ｆグリッドに位置する。

〈検出状況〉Ⅴ層中で、他の遺構と重複していると思われる黒～黒褐色の不整形プランとして検出した。平面プランで遺構同士の切り合いを把握することができず、プラン不明のままベルトを設定し、掘り下げた。１号集石焼土遺構、５号・６号竪穴住居跡、26号・27号土坑と重複し、１号集石焼土遺構、５号竪穴住居跡に切られている。そのほかの遺構との新旧関係は把握できなかった。

〈規模・形状〉重複のため、全体像は不明であるが、残存する床・壁から推測すると、直径８ｍほどの円形あるいは楕円形であったと考えられる。

〈埋土〉黒～黒褐色シルトを主体に構成される。床上には炭化物が多く認められた。

〈壁・床〉壁はやや緩やかに外傾して立ち上がるものと思われる。床はほぼ平坦であり、しまりは強くない。

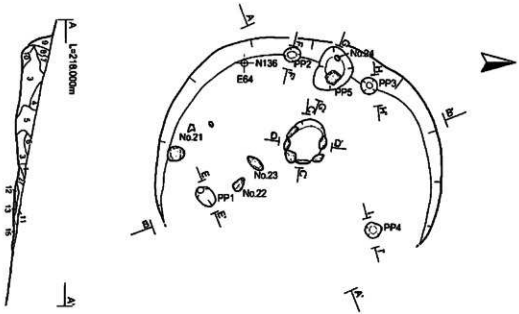
〈柱穴〉４基検出したが、全体像が不明なため、関係性はわからない。また壁際の一部に直径５～18cm、深さ約10cmの小ピットを６基確認した。これらの中には壁の立ち上がり際に炭化材が斜位に刺さるものもあった。

〈炉〉本遺構に属するものかどうかは不明であるが、床面で焼土を検出した。24×42cmの不整形で最大５cmの厚みをもつ。重複する１号集石焼土遺構に削られたものと推測される。

〈遺物〉（第15～17図、写真図版23・24の25～43）

５号竪穴住居跡との切り合いを捉えられずに精査を進めたため、本来５号竪穴住居跡に属するものも混在している可能性が高い。

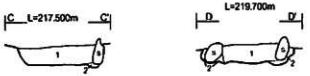
土器　深鉢５点、小形の深鉢、鉢形土器、壺形土器、ミニチュア形土器各１点、壺２点を掲載した。25は壁際から出土した樽形状の壺形土器で、内部に赤色顔料が充填されていた。この土器は斜位逆倒立の状態で出土したが、口部には土が入り込んでおり内容物が外に流出した痕跡はなかった。26は縦位撚糸文が全体に施



3号竪穴住居跡

1 10YR6/4明黄褐色VI層系シルト　10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルトまばらに3%含む　粘性やや強　しまりやや強
2 10YR5/6黄褐色V層系シルト　10YR5/4にぶい黄褐色シルトまばらに3%含む　粘性中　しまりやや強
3 10YR4/3にぶい黄褐色シルト　To～Ch1%含む　粘性やや強　しまりやや強
4 10YR4/3にぶい黄褐色シルトと10YR3/2黒褐色シルトの混合土　粘性やや強　しまりやや弱
5 10YR3/2黒褐色シルトと10YR2/1黒色シルトの混合土　10YR5/4にぶい黄褐色シルトまばらに5%含む　To～Ch2%含む　粘性中　しまりや
6 10YR5/6黄褐色V層系シルト　10YR4/3にぶい黄褐色シルトまばらに2%含む　To～Ch1%含む　粘性中　しまりや
7 10YR3/2黒褐色シルト　粘性弱　しまりやや弱
8 10YR4/4褐色シルト　10YR3/2黒褐色シルトまばらに3%含む　To～Ch2%含む　粘性中　しまりや
9 10YR5/6黄褐色V層系シルトと10YR4/4褐色シルトの混合土　粘性やや強　しまりやや弱
10 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルトと10YR3/4にぶい黄褐色VI層系粘質シルト粒（φ5mm以下）3%含む　粘性やや弱　しまりや
11 10YR6/6明黄褐色VI層系シルト　10YR5/4にぶい黄褐色シルトまばらに3%含む　10YR3/2黒褐色シルトブロック（φ1～3cm）3%含む　粘性やや強　しまりやや強
12 10YR4/6褐色粘質シルト　粘性やや強　しまりやや強
13 10YR3/2黒褐色シルト　To～Ch3%含む　粘性やや強　しまり強
14 10YR5/6黄褐色V層系シルトと10YR4/3にぶい黄褐色シルトの混合土　粘性やや強　しまりやや弱
15 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/6黄褐色V層系シルトまばらに10%含む　粘性中　しまりや
16 10YR3/2黒褐色シルト　10YR4/4褐色シルトブロック（φ4～5cm）3%含む　To～Ch2%含む　粘性中　しまりや

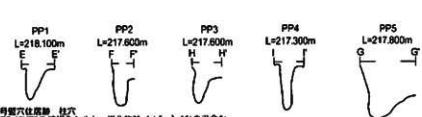
0　1：50　2m



3号竪穴住居跡　柱

1 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト　炭化物粒(φ5～10mm)2%含む　10YR5/6黄褐色V層系シルトまばらに5%含む　粘性やや強　しまりやや弱
2 10YR4/4褐色シルトと10YR5/4にぶい黄褐色シルトの混合土　粘性やや強　しまりや

0　1：25　1m



3号竪穴住居跡　柱穴

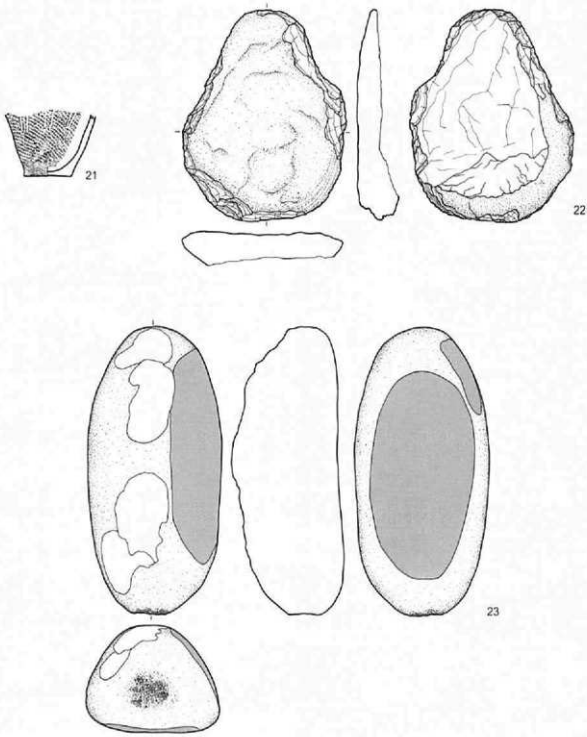
PP5 10YR3/3暗褐色シルト　炭化物粒（φ5cm）1%未満含む　粘性やや強　しまり弱
PP1 10YR2/2黒褐色シルトと10YR5/6黄褐色V層系シルトの混合土　下位は10YR3/3暗褐色粘質シルト　粘性やや強　しまりやや弱
PP4 10YR5/6にぶい黄褐色VI層系シルトと10YR3/3暗褐色粘質シルトの混合土粘性やや強　しまり中
PP2 PP5に同じ
PP3 PP5に同じ

3号竪穴住居跡　柱穴

No	PP1	PP2	PP3	PP4	PP5
径(cm)	26×25	28×20	23×21	23×22	59×48
深さ(cm)	40	49	39	57	70

0　1：50　2m

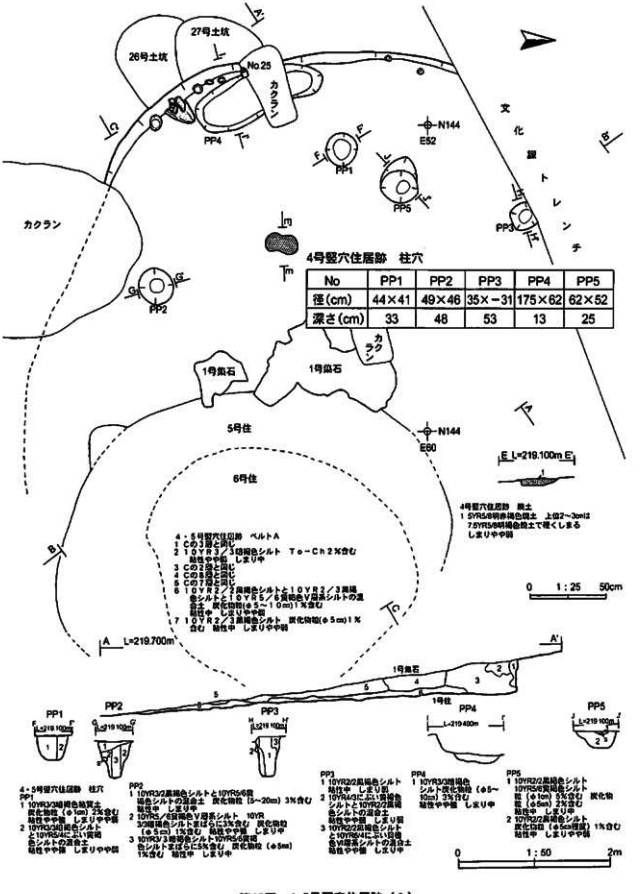
第11図　3号竪穴住居跡



＊24（敲・磨石類）は写真のみ掲載

0　1：3　10cm

第12図　3号竪穴住居跡出土遺物



第13図　4・5号竪穴住居跡（1）

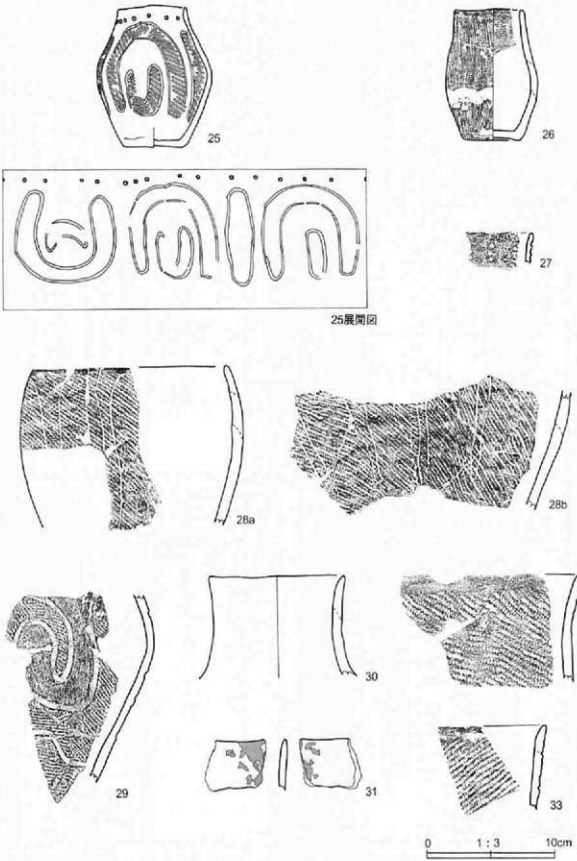
4・5号竪穴住居跡　ベルトB
1　D07-1層と同じ
2　D07-2層と同じ
3　D07-3層と同じ
4　A05-6層と同じ
5　5YR4/6赤褐色粘土と10YR3/3暗褐色シルトの混合土
　粘性弱　しまりやや弱
6　10YR2/2黒褐色シルト　10YR4/4褐色シルト全体にうすく2%含む
　炭化物粒（φ5mm以下）1%含む　粘性中　しまり中
7　D07-7層と同じ
8　D05-8層と同じ
9　7層と同じ
10　10YR3/4暗褐色シルト　粘性中　しまり中
11　10YR2/2黒褐色シルト　10YR5/6黄褐色シルト5%、
　10YR6/6明黄褐色シルト2%まばらに含む　粘性中　しまり中
12　10YR5/6黄褐色V層系シルトまたは10YR6/4にぶい黄褐色VI層系シルト
10　YR2/2黒褐色シルトまばらに3%含む　粘性やや強　しまりやや強
13　10YR3/3暗褐色シルトと10YR4/3にぶい黄褐色シルトの混合土
　粘性やや弱　しまりやや弱
14　10YR2/1黒色シルト　10YR4/3にぶい黄褐色シルトまばらに2%含む　粘性やや弱　しまり中
15　10YR4/3にぶい黄褐色シルトと10YR3/2黒褐色シルトの混合土
　炭化物粒（φ5～10mm）1%含む　粘性やや強　しまり中
16　10YR4/3にぶい黄褐色シルト　10YR5/6黄褐色シルトまばらに10%含む
　炭化物粒（φ5cm程）1%含む　粘性やや強　しまり中
17　10YR2/2黒褐色シルト　10YR5/6黄褐色シルトまばらに5%含む　粘性弱　しまりやや弱
18　10YR2/3黒褐色シルト　10YR4/6褐色シルトまばらに5%含む
　炭化物粒（φ5mm程度）1%含む　粘性中　しまりやや弱

4・5号竪穴住居跡　ベルトC
1　10YR3/2黒褐色シルト　粘性中　しまり弱
2　10YR3/3暗褐色シルト　10YR5/6黄褐色シルトまばらに3%含む
　炭化物粒（φ5～10mm）3%含む　粘性中　しまり中
3　10YR5/6黄褐色V層系シルトと10YR 3/3 暗褐色シルトの混合土
　粘性やや強　しまりやや弱
4　10YR5/6黄褐色V層系シルト　粘性やや強　しまり中
5　10YR2/2黒褐色シルト　10YR5/6黄褐色シルトまばらに10%含む
　炭化物粒（φ5～20mm）5%含む　粘性やや強　しまり中
6　10YR2/1黒色シルト　粘性中　しまりやや弱
7　10YR2/2黒褐色シルト　粘性中　しまりやや弱
8　10YR1/7黒色シルトと10YR2/2黒褐色シルトの混合土　10YR3/3暗褐色シルト
　まばらに5%含む　粘性中　しまり中
9　10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト　炭化物粒（φ5～10mm）3%含む　粘性やや強　しまり中
10　10YR3/3暗褐色シルト　粘性中　しまりやや弱
12　D07-8層と同じ
13　D07-8層と同じ
14　D07-9層と同じ
15　D07-8層と同じ
16　10YR3/3暗褐色シルト　粘性中　しまりやや弱

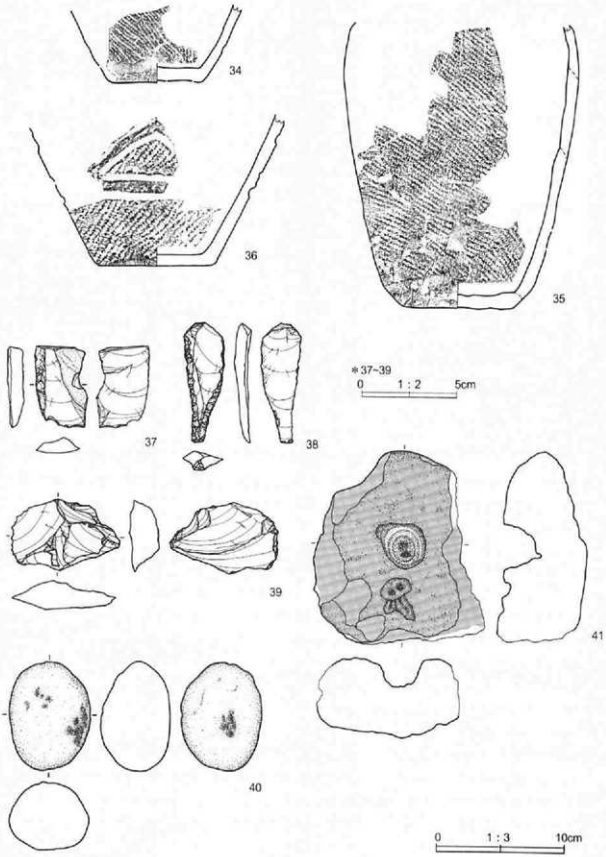
4・5号竪穴住居跡　ベルトD
1　10YR2/3黒褐色シルト　粘性やや弱　しまり中
2　10YR2/1黒色シルトと10YR2/3黒褐色シルトの混合土
　粘性やや強　しまり中
3　5YR4/6赤褐色粘土と10YR2/3黒褐色シルトの混合土
　粘性やや強　しまり中
4　10YR3/2黒褐色シルト　10YR4/3にぶい黄褐色シルトまばらに5%含む
　粘性やや弱　しまり中
5　10YR2/2黒褐色シルトと10YR3/3暗褐色シルトの混合土　To－Ch1%含む
　粘性やや弱　しまり中
6　10YR2/1黒色シルト　10YR2/2黒褐色シルトまばらに５%含む　粘性弱　しまり中
7　10YR3/2黒褐色シルト　To－Ch1%含む　炭化物粒（φ5cm以下）1%未満含む
　粘性やや弱　しまり中
8　10YR4/6にぶい黄褐色シルト　炭化物粒（φ5cm以下）1%未満含む　粘性中　しまり中
9　10YR3/2黒褐色シルトと10YR2/2黒褐色シルトの混合土　粘性やや弱　しまりやや弱

0　1：50　2m

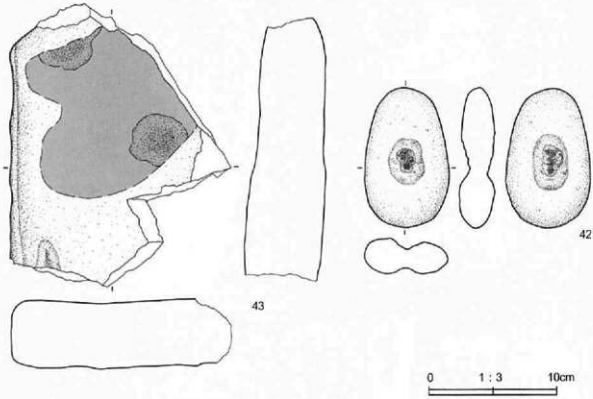
第14図　4・5号竪穴住居跡（2）



第15図　4号竪穴住居跡出土遺物（1）



第16図　4号竪穴住居跡出土遺物（2）



第17図　4号竪穴住居跡出土遺物（3）

され、さらに口縁部内側にも横位に施文されている。29は鉢形土器片で、外面にタール状の付着物が見られる。31は壺の片と推測される。内外面に赤色塗彩が施されている。25・28は「I」字や「U」字文などの文様が見られ、大木9式に相当する。29は渦巻状の文様が横位に連続しており、大木10式の様相を呈する。36の三角形の文様をして十腰内I式に区分した。30が後期に、他は中期後～末葉に属すると思われるが、特定は困難である。

石器　7点出土している。37・38はスクレイパー類、39はリタッチド・フレイク、40は敲・磨石類、41・42は凹石、43は台石・石皿類である。41は被熱変色している。重複している平安時代頃の1号集石・焼土遺構の礫も同様に焦げ、変色していたことから、この頃に被熱したものと推測される。

〈時期〉出土遺物から縄文時代中期後～末葉であると考えられる。

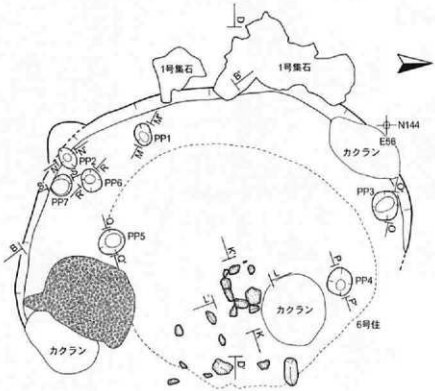
5号竪穴住居跡（第12・13・18図、写真図版6・7）

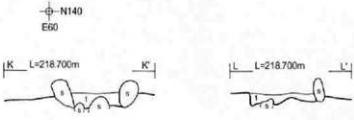
〈位置〉調査区北部、1号竪穴住居跡と2号竪穴住居跡の間、6号竪穴住居の上位、1号集石焼土遺構の下位、ⅡD5eグリッドに位置する。

〈検出状況〉他遺構との重複関係が把握できなかったため、プラン不明のまま全体に何本かベルトを残し、掘り下げた。1号竪穴住居跡東側、6号竪穴住居上位を切り、1号集石焼土遺構に上位を切られていた。

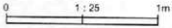
〈規模・形状〉後世の攪乱・削平のため、全体像は明確ではないが、直径約535cmの円形あるいは楕円形と思われる。主軸方向は、ガ－硬化面ラインとすると南－北である。

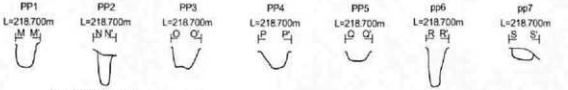
〈埋土〉Ⅲ層系の黒～黒褐色シルトを主体に構成される。自然堆積の様相を呈する。





5号竪穴住居跡　炉
1　10YR3/2黒褐色シルト　粘性中　しまりやや弱

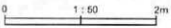




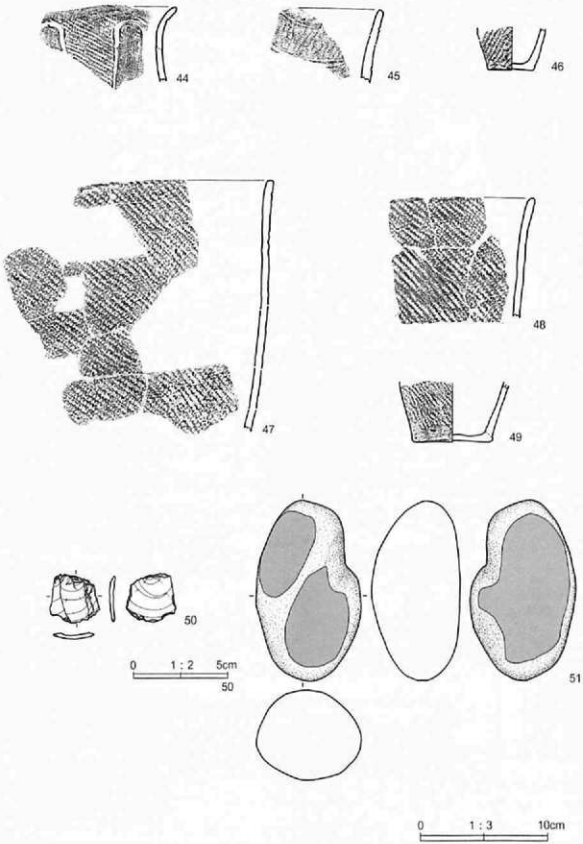
5号竪穴住居跡　柱穴
PP1　10YR2/1黒色シルト　10YR5/6黄褐色シルトまばらに2%含む　粘性やや弱　しまり弱
PP2　10YR3/4暗褐色シルトと10YR5/6黄褐色シルト　粘性やや強　しまり中
PP3　PP2と同じ
PP4　10YR3/2黒褐色シルト　粘性中　しまりやや弱
PP5　PP2と同じ
PP6　PP2と同じ
PP7　PP2と同じ

5号竪穴住居跡　柱穴

No	PP1	PP2	PP3	PP4	PP5	PP6	PP7
径(cm)	28×24	32×22	39×34	38×33	37×33	32×28	29×29
深さ(cm)	32	44	29	23	13	52	17



第18図　5号竪穴住居跡



第19図　5号竪穴住居跡出土遺物

〈壁・床〉壁は明確な部分はわずかしか残っておらず、床も、直下に6号竪穴住居の埋土があり、不明瞭な部分が多い。炉より南側、壁近くに145×100cmの広がりをもつ凹凸のある硬化面が認められた。

〈柱穴〉7基検出した。規則性は認められない。

〈炉〉石囲い炉である。10～25cm程度の亜角礫によって構成され、約60×45cmの方形に組まれている。周囲、南東側に構成礫らしき礫が不整に散在しており、もとは複式炉であったものが壊されている可能性がある。焼土は認められない。精査中、直下に6号竪穴住居跡の石囲炉が検出された。

〈遺物〉（第19図、写真図版25の44～51）

4号竪穴住居との切り合いを把握できないまま、精査を進めたので、本遺構の遺物が前記遺構に混在している可能性がある。ここでは、本遺構に帰属することが明確であるものに限り、掲載した。

土器　44は床面出土の深鉢口縁部片である。口縁部は緩やかな波状を呈し上端で外反する。文様は縦方向への沈線区画内を磨消しており、大木9式に位置づけられる特徴を持つ。45も口縁部片で埋土からの出土である。曲線を描く沈線区画内に縄文が施文され、大木10式に相当する特徴をもつ。46は小形深鉢である。46～49は粗製の深鉢で、おおよそ他の土器と同時期に収まるものと思われる。ほかに同様の土器片が少量出土している。

石器　2点出土している。50はリタッチド・フレイクで不整に細部調整が見られる。51は敲・磨石類で、磨痕は顕著ではない。

〈時期〉出土遺物から縄文時代中期後～末葉であると考えられる。

6号竪穴住居跡（第20図、写真図版8）

〈位置〉調査区北部、1号竪穴住居跡と2号竪穴住居跡の間、5号竪穴住居と重なってⅡD5ｆグリッドに位置する。

〈検出状況〉5号竪穴住居の炉を精査中、下位に別の炉を検出し、また5号竪穴住居跡の床面で黒褐色の不明瞭な円形プランとして検出した。

〈規模・形状〉壁は立たず、床面のみの残存値からの推定であるが、直径340cm以上の円形あるいは楕円形と思われる。

〈埋土〉Ⅳ層系の暗褐色シルトを主体として構成される。

〈壁・床〉壁は立たなかった。底面はほぼ平坦で硬くしまっている。炉の東側に約110×55cm範囲の硬化面が広がっている。

〈柱穴〉本遺構の床面からは検出されなかった。

〈炉〉石囲炉である。7～35cmの亜角礫で構成され、径約75cmの円形に組まれている。炉東側に構成礫であった可能性がある礫が散乱散在する。焼土は炉内北西寄りに25×25cmほどの広がりで、最大8cmの厚さで形成されている。焼土は炉覆土と混在しており、廃棄後に攪乱を受けている可能性がある。

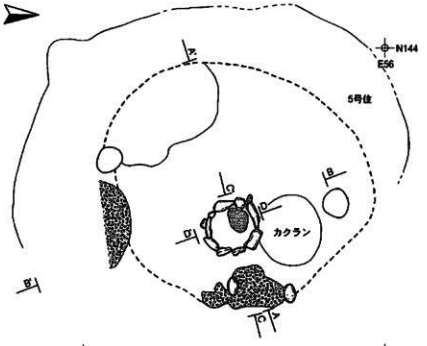
〈遺物〉（第21図、写真図版25の52～55）

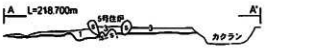
残存形が薄いため、出土遺物も少ない。

土器　52・53とも中期に属すると考えられる粗製深鉢である。他に時期不明の小破片が少量出土している。

石器　2点出土している。54は炉から出土した真岩製の石鏃である。基部は無茎凸形である。55は敲・磨石類である。敲打痕が顕著である。後世の剥落が激しい。

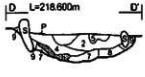
〈時期〉出土遺物が少なく詳細は不明であるが、縄文時代中期の、5号竪穴住居跡よりは旧い時期に属するものである。





6号竪穴住居跡
1 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルトと10YR2/2黒褐色シルトの混合土 To−Ch1%含む
粘性やや強 しまりやや弱
2 10YR3/3暗褐色粘質シルト 10YR2/2黒褐色シルトまばらに10%含む To−Ch1%含む
粘性やや強 しまりやや弱
3 10YR3/2黒褐色シルト（5号住炉）粘性中 しまりやや弱
4 10YR2/1黒色シルト（5号住炉）粘性中 しまりやや弱

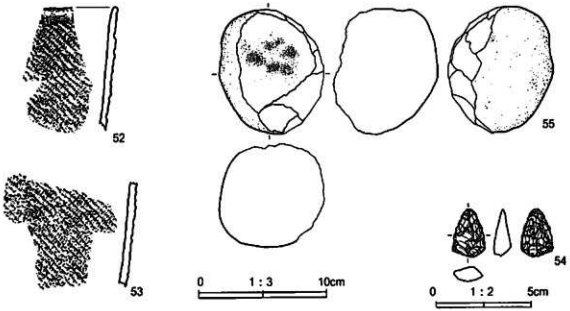
0 1:50 2m



6号竪穴住居跡 炉
1 10YR2/1黒色シルトと10YR2/2黒褐色シルトの混合土 粘性やや弱 しまりやや弱
2 10YR2/2黒褐色シルトと10YR3/2黒褐色シルトの混合土 粘性中 しまり中
3 10YR2/1黒色シルト 粘性中 しまり中
4 10YR1.7/1黒色シルト 5YR5/8明赤褐色焼土粒（φ1cm）1%含む 粘性中 しまりやや強
5 10YR4/4褐色シルト 粘性中 しまり中
6 5YR5/8赤褐色焼土 粘性弱 しまり弱
7 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト 粘性やや強 しまり中
8 10YR2/2黒褐色シルト 粘性中 しまり弱
9 10YR3/4暗褐色シルト 粘性中 しまりやや弱

0 1:25 1m

第20図 6号竪穴住居跡



第21図　6号竪穴住居跡出土遺物

② 土坑（第22～31図、写真図版9～19）

今回の調査で検出された遺構は45基である。個々の記述は下表にゆずり、ここでは全体の概観を記す。時期は出土遺物と埋土の類似性からほとんど縄文時代に属するものと思われるが、詳細は不明である。形態は平面形を円形、楕円形、方形、断面形をフラスコ状、ビーカー状、逆台形状、皿状等に分類した。ただし、こと断面形に関してはあくまでも残存形であり、本来の形と大きくかけ離れている可能性が高い。平面形は円形に近く、直径は110～150cmのものが多い。底面は平坦に整えられている場合が多い。各土坑の配置は竪穴住居跡周辺に集まっているが、規則性は見出せない。住居跡と重複するものが少ないことから、住居跡との何らかの関連性を検討する余地はあると思われる。

次頁以降、表中の規模の単位はcmであり、（　）値は推定値、－値は残存値を表している。

〈出土遺物〉（第32図、写真図版25の56～63）

遺物が出土した土坑は不掲載遺物も含め23基である。

土器　掲載した遺物のうち土器については、口縁部片、底部片等、比較的状態のよいものを抽出し、同形態のものは省略した。56・58・60・62は口縁～胴部片である。56は胴部から口唇部にかけて外傾気味に立ち上がる器形である。口縁部は平縁で、胴部にはLの回転文が施される。58は内消して立ち上がる器形で、地文はLR横回転による。60は外反して立ち上がる。地文はLR縦回転である。62は口唇部が凹型に成形されており、器形は緩やかなS字状を呈するものと推測される。LR縦の地文に平行沈線・フック状沈線文と磨消縄文が施され、十腰内Ⅰ式に相当する特徴を持つ。57・59・61は底部片である。57・61は網代痕を持ち、59は上げ底状に成形されている。これ以外の不掲載の土器はすべて遺構当該期の粗製深鉢片である。

石器　25号土坑からの1点のみの出土である。63はリタッチド・フレイクで、石質は頁岩である。

以上はすべて各土坑埋土からの出土である。遺構内から出土した土器破片同士接合した例として、26（16号土坑と4号竪穴住居跡）と35（35号土坑と4・5号竪穴住居跡）があることから、ほとんどが斜面上方に位置する住居跡から下方の土坑に流れ込んだものと推測される。

第1表　土坑観察表

遺構名	1号土坑
図版	遺構 22　遺物 —
写真図版	遺構 9　遺物 —
位置	IID6a
検出状況・重複関係	IV層
形状 平面形	円形
形状 断面形	ピーカー状
規模 開口部径	112×100
規模 底部径	78×70
規模 深さ	74
埋土	III層系黒・黒褐色シルト主体、炭化物を含む、自然堆積
底面	VI層、平坦
出土遺物	

遺構名	2号土坑
図版	遺構 22　遺物 —
写真図版	遺構 9　遺物 —
位置	IID1b
検出状況・重複関係	V層
形状 平面形	円形
形状 断面形	皿状
規模 開口部径	128×118
規模 底部径	118×110
規模 深さ	36
埋土	III層系黒褐色シルト主体、上位炭化物を含む、自然堆積
底面	VI層、平坦
出土遺物	不掲載あり

遺構名	3号土坑
図版	遺構 22　遺物 —
写真図版	遺構 9　遺物 —
位置	IID1a
検出状況・重複関係	V層
形状 平面形	円形
形状 断面形	逆台形状
規模 開口部径	126×118
規模 底部径	72×48
規模 深さ	90
埋土	上位III層系黒色シルト、下位ほど崩落土主体、自然堆積
底面	VII層、平坦
出土遺物	

遺構名	4号土坑
図版	遺構 22　遺物 —
写真図版	遺構 9　遺物 —
位置	IID1a
検出状況・重複関係	V層
形状 平面形	円形
形状 断面形	逆台形状
規模 開口部径	144×138
規模 底部径	112×98
規模 深さ	76
埋土	III層系黒褐色シルト主体、自然堆積
底面	VII層、平坦
出土遺物	不掲載あり

遺構名	5号土坑
図版	遺構 23　遺物 —
写真図版	遺構 10　遺物 —
位置	IID6e
検出状況・重複関係	V層
形状 平面形	円形
形状 断面形	フラスコ状
規模 開口部径	98×94
規模 底部径	114×106
規模 深さ	48
埋土	III層系黒褐色シルト主体、自然堆積？
底面	VII層、平坦
出土遺物	不掲載あり

遺構名	6号土坑
図版	遺構 23　遺物 —
写真図版	遺構 10　遺物 —
位置	IID6f
検出状況・重複関係	V層
形状 平面形	円形
形状 断面形	フラスコ状
規模 開口部径	114×108
規模 底部径	126×122
規模 深さ	74
埋土	IV層系暗褐色シルト主体、自然堆積
底面	VII層、平坦
出土遺物	不掲載あり

遺構名	7号土坑
図版	遺構 23　遺物 —
写真図版	遺構 10　遺物 —
位置	IID6f
検出状況・重複関係	V層
形状 平面形	円形
形状 断面形	逆台形状
規模 開口部径	98×82
規模 底部径	146×127
規模 深さ	43
埋土	III層系黒褐色シルト主体、自然堆積
底面	VII層、平坦
出土遺物	不掲載あり

遺構名	8号土坑
図版	遺構 23　遺物 —
写真図版	遺構 10　遺物 —
位置	IID6f
検出状況・重複関係	V層
形状 平面形	円形
形状 断面形	逆台形状
規模 開口部径	114×104
規模 底部径	73×63
規模 深さ	53
埋土	III層系黒褐色シルト主体、自然堆積？
底面	VII層、平坦
出土遺物	不掲載あり

遺構名	9号土坑
図版	遺構 23　遺物 —
写真図版	遺構 11　遺物 —
位置	ID9d
検出状況・重複関係	V層
形状 平面形	円形
形状 断面形	フラスコ状
規模 開口部径	182×160
規模 底部径	176×170
規模 深さ	119
埋土	III層系黒・黒褐色シルト主体、炭化物を含む、自然堆積、記録なしの部分は黒色土と地山が帯状に堆積
底面	VII層、平坦
出土遺物	

遺構名	10号土坑	遺構名	11号土坑	遺構名	12号土坑
図版	遺構 24 遺物 －	図版	遺構 24 遺物 －	図版	遺構 24 遺物 －
写真図版	遺構 11 遺物 －	写真図版	遺構 11 遺物 －	写真図版	遺構 11 遺物 －
位置	ⅡC2j	位置	ⅡD5c	位置	ⅡD1d
検出状況・重複関係	Ⅴ層	検出状況・重複関係	Ⅴ層	検出状況・重複関係	Ⅴ層
形状 平面形	円形	形状 平面形	円形	形状 平面形	楕円形
形状 断面形	碗状	形状 断面形	皿状	形状 断面形	皿状
規模 開口部径	98×97	規模 開口部径	114×109	規模 開口部径	(182)×(110)
規模 底部径	52×39	規模 底部径	92×82	規模 底部径	(86)×78
規模 深さ	55	規模 深さ	30	規模 深さ	44
埋土	Ⅳ層系にぶい黄褐色粘質シルト主体、自然堆積	埋土	Ⅵ層系黒褐色シルト主体、自然堆積	埋土	Ⅲ層系黒・黒褐色シルト主体、自然堆積、攪乱を受けている
底面	Ⅵ～Ⅶ層	底面	Ⅵ層、平坦	底面	Ⅵ層、平坦でない
出土遺物		出土遺物		出土遺物	

遺構名	13号土坑	遺構名	14号土坑	遺構名	15号土坑
図版	遺構 24 遺物 －	図版	遺構 24 遺物 －	図版	遺構 25 遺物 －
写真図版	遺構 12 遺物 －	写真図版	遺構 12 遺物 －	写真図版	遺構 12 遺物 －
位置	ⅡD2a	位置	ⅡD4a	位置	ⅡD4b
検出状況・重複関係	Ⅴ層	検出状況・重複関係	Ⅴ層	検出状況・重複関係	Ⅴ層
形状 平面形	楕円形	形状 平面形	円形	形状 平面形	円形
形状 断面形	逆台形状	形状 断面形	皿状	形状 断面形	碗状
規模 開口部径	109×80	規模 開口部径	146×137	規模 開口部径	118×108
規模 底部径	86×67	規模 底部径	123×116	規模 底部径	72×66
規模 深さ	40	規模 深さ	40	規模 深さ	42
埋土	Ⅲ層黒褐色・Ⅳ層暗褐色シルト主体、自然堆積	埋土	Ⅵ層系にぶい黄褐色シルト主体、自然堆積	埋土	Ⅵ層系にぶい黄褐色砂質シルト主体、自然堆積
底面	Ⅵ層、平坦	底面	Ⅵ層、やや西側に傾斜	底面	Ⅴ層、湾曲
出土遺物		出土遺物		出土遺物	不掲載あり

遺構名	16号土坑	遺構名	17号土坑	遺構名	18号土坑
図版	遺構 25 遺物 －	図版	遺構 25 遺物 －	図版	遺構 25 遺物 －
写真図版	遺構 12 遺物 －	写真図版	遺構 13 遺物 －	写真図版	遺構 13 遺物 －
位置	ⅡD6g	位置	ⅡD7f	位置	ⅡD7f
検出状況・重複関係	Ⅴ層、1号住を切る	検出状況・重複関係	Ⅴ層、18号土坑を切る	検出状況・重複関係	Ⅴ層、17号土坑に切られる
形状 平面形	円形	形状 平面形	円形	形状 平面形	円形
形状 断面形	ピーカー状	形状 断面形	皿状	形状 断面形	ピーカー状
規模 開口部径	154×145	規模 開口部径	109×91	規模 開口部径	127×116
規模 底部径	134×132	規模 底部径	82×59	規模 底部径	119×106
規模 深さ	55	規模 深さ	30	規模 深さ	63
埋土	Ⅲ層系黒色シルト主体、上位中心部にⅤ層系黄褐色シルト、人為による堆積	埋土	Ⅲ層系黒褐色シルト主体、自然堆積	埋土	上位Ⅵ層系にぶい黄褐色シルト、下位Ⅲ層系黒褐色シルト主体、人為による堆積
底面	Ⅵ層、平坦	底面	Ⅴ層、やや湾曲	底面	Ⅵ層、平坦
出土遺物	不掲載あり	出土遺物	56は中期粗製深鉢片、他	出土遺物	57後期深鉢片、他

遺構名	19号土坑
図版	遺構 25 遺物 32
写真図版	遺構 13 遺物 26
位置	ⅡD3a
検出状況・重複関係	Ⅴ層、20号土坑に切られ、2号住を切る
形状 平面形	円形
形状 断面形	ピーカー状
規模 開口部径	136×134
規模 底部径	120×115
規模 深さ	48
埋土	Ⅵ層系黒褐色シルト主体、自然堆積
底面	Ⅵ層、段差あり
出土遺物	58・59後期深鉢片、他

遺構名	20号土坑
図版	遺構 25 遺物 32
写真図版	遺構 13 遺物 26
位置	ⅡD4a
検出状況・重複関係	Ⅲ層、19号土坑を切り、2号住を切る
形状 平面形	円形
形状 断面形	ピーカー状
規模 開口部径	143×135
規模 底部径	75×69
規模 深さ	69
埋土	Ⅲ層系黒褐色シルト主体、自然堆積
底面	Ⅵ層、地形に沿い東に傾斜
出土遺物	60中期相製深鉢片、他

遺構名	21号土坑
図版	遺構 26 遺物 −
写真図版	遺構 13 遺物 −
位置	ⅡD3a
検出状況・重複関係	Ⅵ層、2号住に切られる
形状 平面形	円形
形状 断面形	ピーカー状
規模 開口部径	134×−120
規模 底部径	125×−118
規模 深さ	62
埋土	Ⅵ層系黄褐色シルト主体、自然堆積
底面	Ⅴ層、平坦
出土遺物	不掲載あり

遺構名	22号土坑
図版	遺構 26 遺物 −
写真図版	遺構 14 遺物 −
位置	ⅡD3b
検出状況・重複関係	Ⅴ層、2号住が前庭部を切る
形状 平面形	円形
形状 断面形	ピーカー状
規模 開口部径	91×85
規模 底部径	67×54
規模 深さ	54
埋土	Ⅵ層系ぶい黄褐色シルト主体、自然堆積
底面	Ⅴ層、平坦
出土遺物	

遺構名	23号土坑
図版	遺構 26 遺物 −
写真図版	遺構 14 遺物 −
位置	ⅡD3c
検出状況・重複関係	Ⅴ層
形状 平面形	円形
形状 断面形	ピーカー状
規模 開口部径	214×209
規模 底部径	214×195
規模 深さ	93
埋土	Ⅵ層系ぶい黄褐色シルト主体、土粒が多く不自然、人為による堆積
底面	Ⅵ層、平坦
出土遺物	不掲載あり

遺構名	24号土坑
図版	遺構 26 遺物 −
写真図版	遺構 14 遺物 −
位置	ⅡD6g
検出状況・重複関係	Ⅳ層、1号住を切り、25号土坑に切られる
形状 平面形	円形
形状 断面形	皿状
規模 開口部径	113×108
規模 底部径	106×95
規模 深さ	34
埋土	Ⅳ層系暗褐色シルト主体、自然堆積
底面	Ⅴ層、平坦
出土遺物	不掲載あり

遺構名	25号土坑
図版	遺構 26 遺物 −
写真図版	遺構 14 遺物 −
位置	ⅡD6g
検出状況・重複関係	Ⅵ層、1号住炉を切り、24号土坑を切る
形状 平面形	円形
形状 断面形	ピーカー状
規模 開口部径	136×129
規模 底部径	123×113
規模 深さ	80
埋土	Ⅲ層系黒色シルト主体、自然堆積
底面	Ⅵ層、平坦
出土遺物	不掲載あり

遺構名	26号土坑
図版	遺構 27 遺物 32
写真図版	遺構 15 遺物 26
位置	ⅡD3c
検出状況・重複関係	Ⅴ層、4号住と重複、新旧不明、27号土坑に切られる
形状 平面形	円形？
形状 断面形	皿状
規模 開口部径	−70×−100
規模 底部径	−55×−75
規模 深さ	43
埋土	Ⅲ層系黒褐色シルト主体、自然堆積
底面	Ⅴ層、東側に傾斜
出土遺物	61中〜後期深鉢片

遺構名	27号土坑
図版	遺構 27 遺物 −
写真図版	遺構 15 遺物 −
位置	ⅡD3f
検出状況・重複関係	Ⅴ層、4号住と重複、新旧不明、26号土坑を切る
形状 平面形	円形？
形状 断面形	皿状
規模 開口部径	114×−88
規模 底部径	73×−52
規模 深さ	36
埋土	Ⅲ層系黒褐色シルト主体、自然堆積
底面	Ⅴ層、東側に傾斜
出土遺物	

遺構名	28号土坑	遺構名	29号土坑	遺構名	30号土坑
図版	遺構 27 遺物 －	図版	遺構 27 遺物 32	図版	遺構 28 遺物 －
写真図版	遺構 15 遺物 －	写真図版	遺構 15 遺物 26	写真図版	遺構 16 遺物 －
位置	ⅡD7d	位置	ⅡD5a	位置	ⅡD7d
検出状況・重複関係	Ⅴ層	検出状況・重複関係	Ⅴ層	検出状況・重複関係	Ⅴ層
形状 平面形	円形	形状 平面形	円形	形状 平面形	円形
形状 断面形	皿状	形状 断面形	皿状	形状 断面形	すり鉢状？
規模 開口部径	158×150	規模 開口部径	152×141	規模 開口部径	114×110
規模 底部径	114×104	規模 底部径	101×90	規模 底部径	23×23
規模 深さ	49	規模 深さ	55	規模 深さ	49
埋土	Ⅲ層系黒色シルト主体、上位Ⅵ層系黄褐色シルト堆積、不自然、人為による堆積	埋土	Ⅲ層系黒褐色シルト主体、自然堆積	埋土	Ⅲ層系黒褐色シルト主体、自然堆積
底面	Ⅵ層、やや東側に傾斜	底面	Ⅵ層、平坦	底面	Ⅴ層、中心に向かい傾斜
出土遺物	不掲載あり	出土遺物	62十師内Ⅰ深鉢片、他	出土遺物	

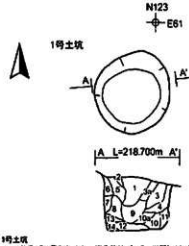
遺構名	31号土坑	遺構名	32号土坑	遺構名	33号土坑
図版	遺構 28 遺物 －	図版	遺構 28 遺物 －	図版	遺構 28 遺物 －
写真図版	遺構 16 遺物 －	写真図版	遺構 16 遺物 －	写真図版	遺構 16 遺物 －
位置	ⅡD9h	位置	ⅡD9f	位置	ⅡD5c
検出状況・重複関係	Ⅴ層	検出状況・重複関係	Ⅳ層	検出状況・重複関係	Ⅴ層
形状 平面形	円形	形状 平面形	楕円形	形状 平面形	円形
形状 断面形	皿状	形状 断面形	皿状	形状 断面形	皿状
規模 開口部径	138×129	規模 開口部径	144×109	規模 開口部径	125×110
規模 底部径	89×68	規模 底部径	107×72	規模 底部径	104×79
規模 深さ	42	規模 深さ	39	規模 深さ	47
埋土	Ⅲ層系黒褐色シルト主体、自然堆積	埋土	Ⅲ層系黒・黒褐色シルト主体、自然堆積	埋土	Ⅲ層系黒褐色シルト主体、自然堆積
底面	Ⅴ層、やや東側に傾斜	底面	Ⅴ層、中心に向かい傾斜	底面	Ⅵ層、平坦
出土遺物		出土遺物		出土遺物	

遺構名	34号土坑	遺構名	35号土坑	遺構名	36号土坑
図版	遺構 29 遺物 －	図版	遺構 29 遺物 －	図版	遺構 29 遺物 －
写真図版	遺構 17 遺物 －	写真図版	遺構 17 遺物 －	写真図版	遺構 17 遺物 －
位置	ⅡD6d	位置	ⅡD7e	位置	ⅡD4a
検出状況・重複関係	Ⅴ層	検出状況・重複関係	Ⅴ層	検出状況・重複関係	Ⅴ層
形状 平面形	円形	形状 平面形	楕円形	形状 平面形	円形
形状 断面形	皿状	形状 断面形	フラスコ状？	形状 断面形	皿状
規模 開口部径	134×113	規模 開口部径	157×113	規模 開口部径	136×130
規模 底部径	114×90	規模 底部径	114×105	規模 底部径	123×113
規模 深さ	19	規模 深さ	68	規模 深さ	42
埋土	Ⅲ層系黒褐色シルト主体、自然堆積	埋土	上位Ⅵ層系黄褐色シルト、下位Ⅲ層系黒褐色シルト主体、人為による堆積	埋土	Ⅳ層系暗褐色シルト主体、自然堆積
底面	Ⅴ層、平坦	底面	Ⅵ層、平坦	底面	Ⅵ層、平坦
出土遺物	不掲載あり	出土遺物	不掲載あり	出土遺物	

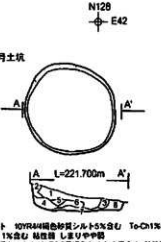
遺構名	37号土坑				遺構名	38号土坑				遺構名	39号土坑			
図版	遺構	29	遺物	−	図版	遺構	30	遺物	−	図版	遺構	30	遺物	−
写真図版	遺構	17	遺物	−	写真図版	遺構	18	遺物	−	写真図版	遺構	18	遺物	−
位置	ⅡD3 i				位置	ⅡD3 a				位置	ⅡD3 a			
検出状況・重複関係	Ⅴ層				検出状況・重複関係	Ⅴ層、2基の土坑の重複か？39号上坑をきる				検出状況・重複関係	Ⅴ層、38号土坑に切られる			
形状	平面形	円形			形状	平面形	楕円形			形状	平面形	楕円形？		
	断面形	逆台形状				断面形	皿状				断面形	フラスコ状		
規模	開口部径	118×110			規模	開口部径	142×96			規模	開口部径	−82×135		
	底部径	69×68				底部径	139×76				底部径	−67×119		
	深さ	65				深さ	43				深さ	46		
埋土	Ⅴ層系褐色シルト主体、自然堆積				埋土	Ⅲ層系黒褐色シルト主体、自然堆積				埋土	Ⅳ層系暗褐色シルト主体、不自然、人為による堆積			
底面	Ⅶ層、平坦				底面	Ⅵ層、段差あり				底面	Ⅵ層、平坦			
出土遺物					出土遺物					出土遺物				

遺構名	40号土坑				遺構名	41号土坑				遺構名	42号土坑			
図版	遺構	30	遺物	−	図版	遺構	30	遺物	−	図版	遺構	30	遺物	−
写真図版	遺構	18	遺物	−	写真図版	遺構	18	遺物	−	写真図版	遺構	19	遺物	−
位置	ⅡD2 e				位置	ⅡD2 f				位置	ⅡD7 f			
検出状況・重複関係	Ⅴ層				検出状況・重複関係	Ⅴ層				検出状況・重複関係	Ⅴ層			
形状	平面形	円形			形状	平面形	円形			形状	平面形	円形		
	断面形	皿状				断面形	皿状				断面形	皿状		
規模	開口部径	131×120			規模	開口部径	147×129			規模	開口部径	138×129		
	底部径	122×94				底部径	124×104				底部径	97×92		
	深さ	35				深さ	29				深さ	42		
埋土	Ⅲ層系黒褐色シルト主体、自然堆積				埋土	Ⅳ層系暗褐色シルト主体、自然堆積				埋土	Ⅴ層系褐色シルト主体、不自然、人為による堆積			
底面	Ⅴ層、やや東側に傾斜				底面	Ⅴ層、やや東側に傾斜				底面	Ⅴ層、やや東側に傾斜			
出土遺物					出土遺物					出土遺物	不掲載あり			

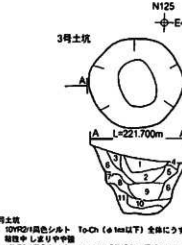
遺構名	43号土坑				遺構名	44号土坑				遺構名	45号土坑			
図版	遺構	31	遺物	−	図版	遺構	31	遺物	−	図版	遺構	31	遺物	−
写真図版	遺構	19	遺物	−	写真図版	遺構	19	遺物	−	写真図版	遺構	19	遺物	−
位置	ⅡD10b				位置	ⅡD5 g				位置	ⅡD4 g			
検出状況・重複関係	Ⅳ層				検出状況・重複関係	Ⅴ層、45号土坑と類似				検出状況・重複関係	Ⅳ層、44号土坑に類似			
形状	平面形	方形			形状	平面形	方形			形状	平面形	方形		
	断面形	皿状				断面形	皿状				断面形	皿状		
規模	開口部径	198×156			規模	開口部径	170×164			規模	開口部径	177×163		
	底部径	163×98				底部径	143×139				底部径	157×139		
	深さ	30				深さ	45				深さ	34		
埋土	Ⅲ層系黒褐色シルト主体、自然堆積				埋土	Ⅲ層系黒褐色シルト主体、土粒が多く不自然、人為による堆積か				埋土	Ⅲ層系黒褐色シルト主体、土粒が多く不自然、人為による堆積か			
底面	Ⅴ層、平坦				底面	Ⅵ層、平坦				底面	Ⅵ層、平坦			
出土遺物	不掲載あり				出土遺物					出土遺物				



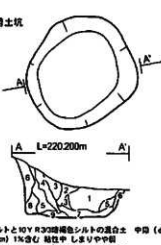
1号土坑
1 10YR1.7/1黒色シルト 炭化物粒（φ5㎝以下）5%含む 粘性弱 しまり弱
2 10YR2/1黒色シルト 粘性弱 しまり弱
3 10YR3/3暗褐色シルト 10YR4/4褐色シルト30%含む
炭化物粒（φ1～2㎜）5%含む 粘性弱 しまり弱
3a 10YR3/3暗褐色シルト 炭化物粒（φ1～2㎜）5%含む 粘性弱 しまり弱
4 10YR2/2黒褐色シルト 10YR4/4褐色シルト10%含む 粘性弱 しまり中
5 10YR3/3暗褐色シルト 10YR4/6褐色シルト30%含む
炭化物粒（φ5㎜以下）5%含む 粘性弱 しまり弱
6 10YR3/3暗褐色シルト 10YR4/6褐色シルト30%含む 粘性弱 しまり弱
7 10YR4/6褐色シルト 粘性中伸 しまり弱
8 10YR3/4暗褐色シルト 炭化物粒（φ1㎜以下）微量含む 粘性弱 しまり中
9 10YR2/2黒褐色シルト 炭化物粒（φ5～20㎜）全体に含む 粘性弱 しまり中
10 10YR3/3暗褐色シルト 10YR4/6褐色シルト30%含む 粘性弱 しまり中
10a 10YR4/6褐色シルト 10YR3/3暗褐色シルト40%含む 粘性弱 しまり中
11 10YR3/3暗褐色シルトと10YR4/6褐色シルトの混合土層 粘性中 しまり中
12 10YR2/2黒褐色シルト 10YR4/6褐色粘質シルト20%含む
炭化物粒（φ1～2㎜）微量含む 粘性中伸 しまり中
13 10YR4/6褐色粘質シルト 10YR3/3暗褐色シルト40%含む 粘性弱 しまり中
14 10YR4/6褐色粘質シルト 粘性中伸 しまり中



2号土坑
1 10YR3/2黒褐色シルト 10YR4/4褐色砂質シルト5%含む To-Ch1%含む
炭化物（φ2～3㎜）1%含む 粘性弱 しまり中伸
2 10YR5/6黄褐色Ｖ層系シルトと10YR3/2黒褐色シルトの混合土 粘性弱 しまり中
3 10YR3/3暗褐色砂質シルト 炭化物粒（φ5㎜以下）1%含む 粘性弱
しまり中伸
4 10YR3/3暗褐色砂質シルトと10Ｙ R5/6明黄褐色Ⅵ層系シルト土の延土
To-Ch1%含む 粘性中伸 しまり中伸
5 10YR3/2黒褐色砂質シルト To-Ch1%未満含む 粘性中伸 しまり中弱
6 10YR4/4褐色粘質シルトと10YR3/3暗褐色砂質シルト To-Ch1%含む 粘性中伸
しまり中
7 10YR2/2黒褐色粘質シルトと10YR5/6黄褐色Ⅵ層系シルトと10YR3/3暗褐色
シルトの混合土 炭化物粒（φ5㎜以下）1%含む 粘性中伸 しまり中
8 10YR5/6黄褐色Ⅵ層系シルトと10YR3/3暗褐色砂質シルトの混合土
粘性中伸 しまり中弱



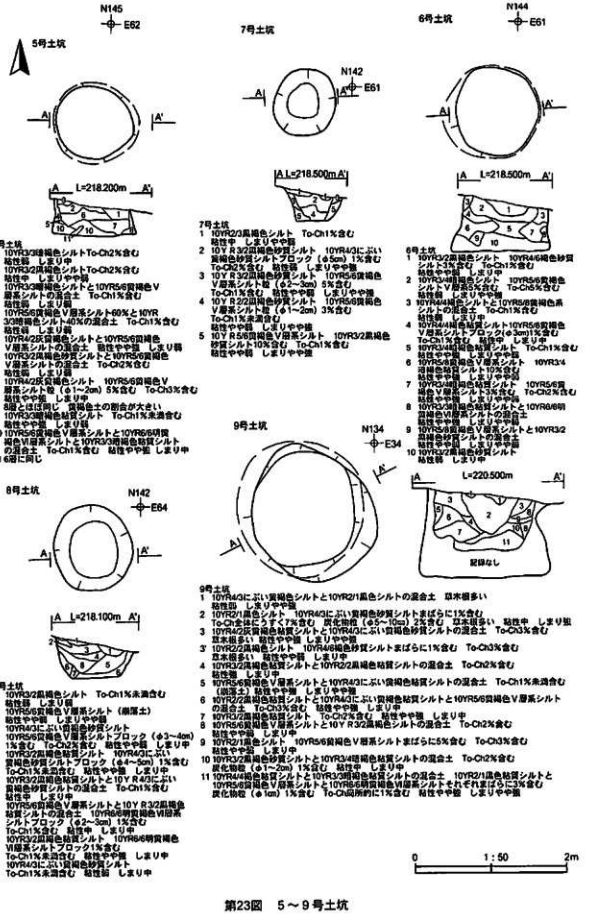
3号土坑
1 10YR2/1黒色シルト To-Ch（φ1㎜以下）全体にうすく2%含む
粘性中 しまりやや弱
2 10YR2/1黒色シルト 10YR5/6明黄褐色Ⅵ層系ソルトブロック3%含む
粘性中 しまりやや弱
3 10YR4/3にぶい黄褐色シルトと10YR3/2黒褐色シルトと10YR5/6
明黄褐色シルトの混合土 To-Ch（φ1㎜以下）全体にうすく2%含む
粘性中 しまりやや弱
4 10YR3/2黒褐色シルトTo-Ch（φ1㎜以下）全体にうすく2%含む
粘性中 しまりやや弱
5 10YR2/3黒褐色シルトと10Ｙ R2/1黒色粘質シルトの混合土
To-Ch（φ1㎜以下）全体にうすく2%含む 粘性中伸 しまりや
6 10YR3/3暗褐色粘質シルト80%と10YR5/6明黄褐色Ⅵ層系シルト40%の
混合土 To-Ch全体にうすく1%含む 粘性中伸 しまりやや弱
7 6に同じ
8 10YR5/6明黄褐色シルトⅥ層系シルトだが崩の崩落土
粘性中伸 しまりやや弱
9 10YR4/4褐色砂質シルト 10YR2/2黒褐色粘質シルトブロック（φ5㎝）2%含む
To-Ch3%含む 粘性中伸 しまりや
10 10YR3/3暗褐色粘質シルト 10YR2/1黒色粘質シルト3%含む To-Ch2%含む
粘性弱 しまりやや弱
11 10YR3/3暗褐色粘質シルト To-Ch1%含む 粘性弱 しまりやや緩



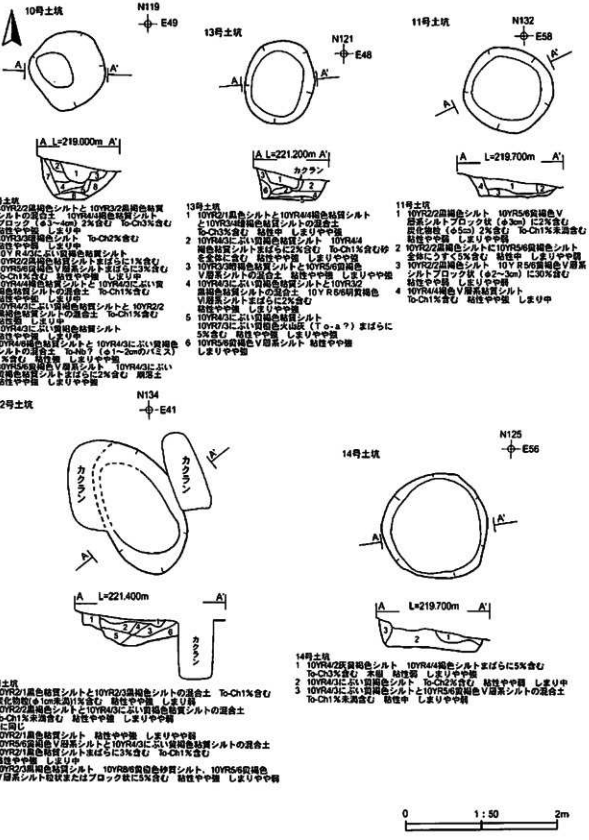
4号土坑
1 10YR2/2黒褐色シルトと10Ｙ R3/3暗褐色シルトの混合土 中段（φ1㎜以下）3%含む
炭化物粒（φ2～3㎜）1%含む 粘性中 しまりやや弱
2 10YR3/3暗褐色シルト To-Ch1%含む 粘性中 しまり弱
3 10YR3/3暗褐色シルトと10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトの混合土
To-Ch1%含む 粘性中伸 しまりやや弱
4 10YR2/2黒褐色シルトと10YR4/6褐色砂の混合土 10YR2/1黒色シルトブロック
（φ2～3㎜）2%含む To-Ch2%含む 粘性中 しまり弱
5 10YR2/3黒褐色粘質シルトと10Ｙ R5/6黄褐色Ｖ層系シルトの混合土To-Ch3%含む
粘性中伸 しまり弱
6 10YR5/6黄褐色Ｖ層系シルト 粘性中伸 しまり中
7 10YR3/3暗褐色粘質シルトと10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルトの混合土
粘性中伸 しまりやや弱
8 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルトと10YR5/6黄褐色Ｖ層系シルトの混合土
粘性やや弱 しまりやや弱
9 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト 粘性中伸 しまり中

0 1：50 2m

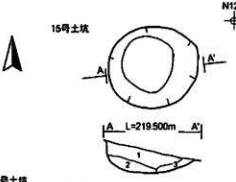
第22図 1～4号土坑


5号土坑
N145
E62
A
A'
L=218.200m
7号土坑
N142
E61
A.L=218.500m A'
6号土坑
N144
E61
L=218.500m
9号土坑
N134
E34
L=220.500m
8号土坑
N142
E64
L=218.100m
記録なし
0
1:50
2m

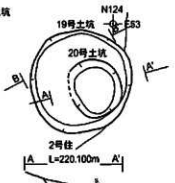
第23図　5～9号土坑



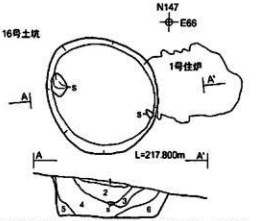
第24図　10～14号土坑



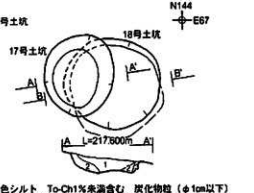
15号土坑
1 10YR4/3にぶい黄褐色シルトTo-Ch2%含む
To-Hb71%含む 粘性やや強 しまり中
2 10YR4/2灰黄褐色シルト 10YR5/6黄褐色V層系シルト
まばらに20%含む 粘性やや弱 しまりやや弱
3 10YR4/2灰黄褐色シルト 10YR5/6黄褐色V層系シルト
の混合土 粘性やや弱 しまり中



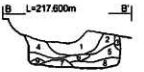
20号土坑
1 10YR3/2黒褐色シルト 10YR5/6黄褐色V層系シルト
ブロック（φ3cm）2%含む 10YR6/3にぶい黄橙色VI層系
シルト粒1%含む 小石1%含む 粘性弱 しまりやや弱
2 10YR4/3にぶい黄褐色V層系シルトと10YR4/4褐色シルトの
混合土 小礫1%含む 粘性やや強 しまり中
3 10YR3/2黒褐色シルト10YR6/3にぶい黄橙色VI層系シルト粒
（φ1～2cm）3%含む 粘性やや強 しまりやや弱
4 10YR3/2黒褐色シルトと2.5Y R VI/4にぶい黄色VI層系粘質
シルトの混合土 粘性やや強 しまり弱



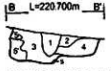
16号土坑
1 10YR4/3にぶい黄褐色シルト 木炭含む 弱土 粘性やや弱 しまり中
2 10YR5/6黄褐色V層系シルト 10YR2/1黒色シルトまばらに2%含む
To-Ch1%含む 粘性やや強 しまりやや堅
3 10YR2/1黒色シルトと10YR5/6黄褐色V層系シルトと10YR4/3
にぶい黄褐色シルトの混合土 炭化物粒(細小)1%含む
粘性やや強 しまりやや弱
4 10YR1.7/1黒色シルト 炭化物粒(φ1cm)3%含む
To-Ch全体にうすく1%未満含む 粘性や しまりやや弱
5 10YR5/6黄褐色V層系シルト60%と10YR2/1黒色シルト40%の
混合土 小礫1%含む 崩落土 粘性やや強 しまりやや弱
6 10YR2/1黒色シルト 10YR5/8明黄褐色VI層系シルト粒に5%含む
崩落土 炭化物粒(φ1cm)2%含む 粘性やや強 しまりやや弱



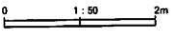
17号土坑
1 10YR2/2黒褐色シルト To-Ch1%未満含む 炭化物粒（φ1cm以下）
1%含む木根含む 粘性やや強 しまりやや弱
2 10YR2/2黒褐色シルト 10YR5/6黄褐色V層系シルト全体にうす
く5%含む To-Ch1%未満含む 粘性やや強 しまりやや弱
3 10YR4/3にぶい黄褐色地山起源シルト 10YR2/2黒褐色シルト全
体にうすく5%含む To-Ch1%未満含む 粘性やや強 しまり中



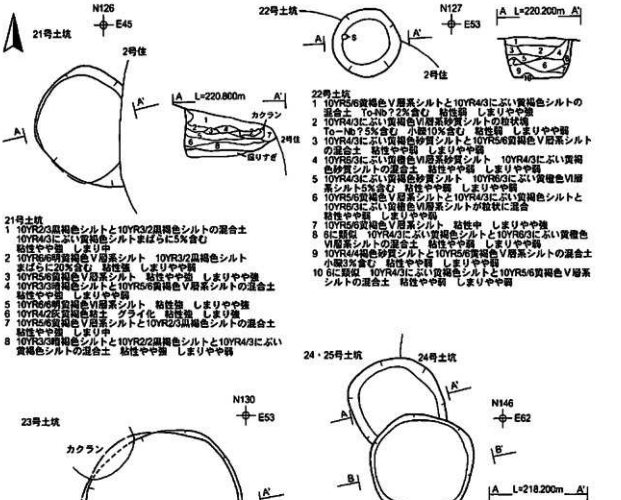
18号土坑
1 10YR4/3にぶい黄褐色シルト 10YR3/2黒褐色シルトブロック
（φ3～4cm）10%含む To-Ch1%含む 粘性やや強 しまり中
2 10YR3/2黒褐色シルトと10YR3/4暗褐色シルトの混合土
粘性や しまりやや弱
3 10YR5/6黄褐色V層系シルト 粘性やや強 しまり中
4 10YR3/2黒褐色シルト 10YR6/4にぶい黄橙色VI層系粘質シルト
まばらに3%含む 10Y R 4/4褐色シルトV層系シルトまばらに5%
含む 炭化物粒（φ5mm）粘性やや強 しまり中
5 4層に10YR1.7/1黒色粘質シルトまばらに3%含む
粘性やや強 しまり中
6 10YR2/2黒褐色粘質シルトと10YR3/3暗褐色シルトの混合土 角
礫（φ4～5cm）を含む 粘性やや弱 しまり弱
7 10YR2/2黒褐色粘質シルト 10YR6/3にぶい黄橙色VI層系シルト
ブロック（φ3cm）1%含む 粘性やや強 しまり弱
8 10YR3/3暗褐色粘質シルト 10YR4/4褐色V層系シルトまばらに
2%含む 粘性やや強 しまり弱
9 10YR2/3黒褐色粘質シルト 粘性やや強 しまりやや弱



19号土坑
1 10YR2/2黒褐色シルト 10YR4/4褐色V層系シルト全体に
うすく1%含む 粘性やや強 しまりやや弱
2 10YR3/3暗褐色シルト To-Ch1%含む
粘性や しまりやや弱
3 10YR2/2黒褐色シルト 10YR2/1黒色粘質シルトと
10YR3/4暗褐色シルト全体にまばらに1%含む To-Ch1%含む
粘性や しまり中
4 10YR4/3にぶい黄褐色シルト 小石1%含む
To-Ch1%含む 粘性や しまり中
5 10YR5/6黄褐色V層系シルト 10YR2/2黒褐色シルトまばら
に2%含む 崩落土 粘性やや強 しまりや
5' 10YR4/3にぶい黄褐色シルト 10YR5/6黄褐色V層系シルト
まばらに10%含む 崩落土 粘性やや強 しまりやや弱



第25図 15～20号土坑



21号土坑
1 10YR2/3黒褐色シルトと10YR3/2黒褐色シルトの混合土
10YR4/3にぶい黄褐色シルトまばらに5%含む
粘性やや強　しまりや弱
2 10YR6/8明黄褐色Ⅴ層系シルト　10YR3/2黒褐色シルト
まばらに20%含む　粘性強　しまりやや弱
3 10YR5/6黄褐色Ⅴ層系シルト　粘性やや強　しまりやや強
4 10YR3/3暗褐色シルトと10YR5/6黄褐色Ⅴ層系シルトの混合土
粘性やや強　しまりやや弱
5 10YR6/8明黄褐色Ⅴ層系シルト　粘性強　しまりやや強
6 10YR4/2灰黄褐色粘土　グライ化　粘性強　しまり強
7 10YR5/6黄褐色Ⅴ層系シルトと10YR2/3黒褐色シルトの混合土
粘性やや強　しまりや弱
8 10YR3/3暗褐色シルトと10YR2/2黒褐色シルトと10YR4/3にぶい
黄褐色シルトの混合土　粘性やや強　しまりやや弱

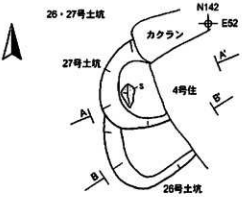
22号土坑
1 10YR5/6黄褐色Ⅴ層系シルトと10YR4/3にぶい黄褐色シルトの
混合土　To-Nb？2%含む　粘性弱　しまりやや強
2 10YR4/3にぶい黄褐色Ⅵ層系砂質シルトの粒状塊
To～Nb？5%含む　小粒10%含む　粘性弱　しまりやや弱
3 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトと10YR5/6黄褐色Ⅴ層系シルト
の混合土　粘性やや弱　しまりやや弱
4 10YR5/3にぶい黄褐色Ⅵ層系砂質シルト　10YR4/3にぶい黄褐
色砂質シルトの混合土　粘性やや弱　しまりやや弱
5 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト　10YR6/3にぶい黄褐色Ⅵ層
系シルト5%含む　粘性やや弱　しまりやや弱
6 10YR5/6黄褐色Ⅴ層系シルトと10YR4/3にぶい黄褐色シルトと
10YR5/3にぶい黄褐色Ⅵ層系シルトが散状に混合
粘性やや弱　しまりやや弱
7 10YR5/6黄褐色Ⅴ層系シルト　粘性中　しまりやや強
8 8に類似　10YR4/3にぶい黄褐色シルトと10YR6/3にぶい黄褐色
Ⅵ層系シルトの混合土　粘性やや弱　しまりやや弱
9 10YR4/4褐色砂質シルトと10YR5/6黄褐色Ⅴ層系シルトの混合土
小粒3%含む　粘性やや強　しまりやや弱
10 8に類似　10YR4/3にぶい黄褐色シルトと10YR5/6黄褐色Ⅴ層系
シルトの混合土　粘性やや弱　しまりやや弱

23号土坑
1 10YR5/8黄褐色Ⅴ層系シルト　10YR3/2黒褐色シルトまばらに5%
含む小塊（φ1～2cm）5%含む　粘性強　しまりや
2 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/6黄褐色Ⅴ層系シルト粒（φ1～5cm）
5%含む　10YR5/3にぶい黄褐色Ⅵ層系シルト粒（φ1～2cm）
3%含む　粘性やや強　しまり弱
3 10YR4/3にぶい黄褐色シルト　10YR2/2黒褐色シルト粒5%、
10YR5/8黄褐色Ⅴ層系シルト粒5%、10YR6/3にぶい黄褐色Ⅵ層系
シルト粒5%含む　粘性中　しまりや
4 10YR4/3にぶい黄褐色シルト　10YR5/4にぶい黄褐色シルト粒10%、
10YR5/8黄褐色Ⅴ層系シルト粒10%、10YR3/2黒褐色シルト粒10%
含む　粘性やや強　しまり中
5 10YR4/3にぶい黄褐色シルト　10YR5/6黄褐色Ⅴ層系シルト、
10YR5/4にぶい黄褐色シルト細粒状に混合　粘性やや強
しまりやや弱
6 2層に同じ
7 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/6黄褐色Ⅴ層系シルト粒（φ5～10cm）
3%含む　10YR5/4にぶい黄褐色シルト粒（φ5～10cm）3%含む
炭化物粒（φ2～3cm）3%含む　粘性やや強　しまり弱

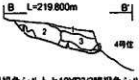
24号土坑
1 10YR3/3暗褐色砂質シルト
10YR5/6黄褐色Ⅴ層系シルト
全体にまばらに3%含む
炭化物粒（φ5～10cm）3%
含む
To-Ch2%含む
粘性やや弱　しまり中

25号土坑
1 10YR3/2黒褐色シルトと10YR3/3暗褐色シルトの混合土　炭化物粒
（φ1cm）4%含む　To-Ch2%含む　粘性中　しまりやや弱
2 10YR2/2黒褐色シルトと10YR3/2黒褐色砂質シルトの混合土
炭化物粒1%含む　To-Ch1%含む　粘性やや強　しまりやや弱
2' 2層に10YR2/1黒色粘質シルトをまばら2%含む
3 10YR4/3にぶい黄褐色シルト　10YR2/2黒褐色シルトまばらに10%
含む　To-Ch1%含む　粘性やや弱　しまりやや弱
4 10YR3/2黒褐色シルトと10YR6/6明黄褐色Ⅵ層系シルトの混合土
粘性やや弱　しまりやや弱
5 10YR3/2黒褐色シルト　To-Ch1%含む 炭化物粒（φ5cm）1%含む
粘性中　しまり中
7 10YR5/6黄褐色シルト10%、10YR3/2黒褐色シルト10%、
10YR4/3にぶい黄褐色シルト80%の混合土　To-Ch2%含む
粘性やや弱　しまりやや強
7' 10YR5/6黄褐色シルト80%、10YR3/2黒褐色シルト10%、
10YR4/3にぶい黄褐色シルト10%の混合土　粘性やや強
しまりやや弱
8 10YR3/2黒褐色砂質シルト 10YR2/1黒色粘質シルトをまばらに2%
含む　粘性やや強　しまり中
9 10YR4/2灰黄褐色粘質シルト　粘性強　しまりやや強

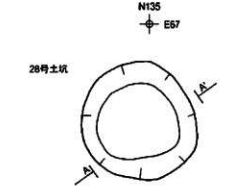
第26図　21～25号土坑



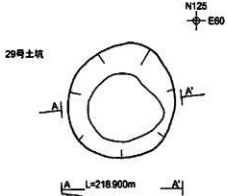
27号土坑
1 10YR2/1黒色粘質シルト　10YR4/4褐色シルトまばらに3%含む
粘性やや強　しまりや
2 10YR4/4褐色粘質シルト 10YR2/1黒色シルトまばらに1%含む
粘性やや強　しまりやや強
3 10YR2/3黒褐色シルトと10YR2/1黒色シルトの混合土
10Y R 4/4褐色シルトまばらに3%含む　粘性や　しまりやや弱
4 10YR3/3暗褐色シルトと10YR5/6黄褐色Ｖ層系シルトの混合土
粘性中　しまりやや弱



26号土坑
1 10YR2/2黒褐色シルトと10YR3/3暗褐色シルトの混合土
To-Ch1%含む　粘性やや強　しまり中
2 10YR3/3暗褐色粘質シルト　10YR4/6褐色Ｖ層系シルト
まばらに10%含む　炭化物粒（φ5mm以下）1%含む
To-Ch1%含む　粘性やや強　しまり中
3 10YR3/2黒褐色シルト　10YR2/2黒褐色シルトまばらに
5%含む　10YR6/4にぶい黄橙色Ⅵ層系シルト粒（φ5～10mm）
1%含む　炭化物粒（φ5mm以下）1%未満含む
To-Ch1%含む　粘性やや弱　しまりやや弱
4 10YR3/2黒褐色シルトと10YR5/4にぶい黄褐色Ｖ層系シル
トの混合土　粘性やや強　しまり弱
5 10YR2/3黒褐色シルト　粘性中　しまり弱



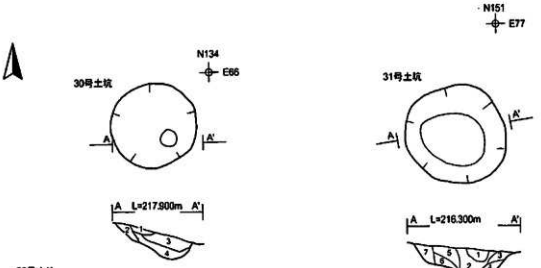
28号土坑
1 10YR5/6黄褐色Ｖ層系シルトと10YR2/2黒褐色シルトの
混合土　炭化物粒（φ5mm）1%含む　粘性やや強　しまり中
2 10YR2/2黒褐色シルト　全体にうすく1層の黄褐色シルト
2%混入　炭化物粒（φ5mm以下）1%含む　粘性中　しまり中
3 10YR2/2黒褐色シルト　1層の黄褐色シルト全体にまばらに
5%含む　粘性中　しまり弱
4 10YR3/2黒褐色粘質シルト　10YR6/3にぶい黄橙色Ⅵ層
系粘質シルト斑混ぐ中心にまばらに3%含む
粘性強　しまりやや強
5 10YR4/6褐色Ｖ層系粘質シルトと10YR3/2黒褐色シルト
の混合土　粘性やや強　しまり中
6 10YR3/2黒褐色シルト　10Y R 4/6褐色粘質シルト全体に
まばらに5%含む　粘性やや強　しまりやや強
7 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト　10YR6/3にぶい黄橙
色Ⅵ層系粘質シルトブロック1%含む
粘性やや強　しまり中



29号土坑
1 10YR2/2黒褐色シルト　To-Ch1%含む　粘性やや弱　しまりやや弱
2 10YR5/4にぶい黄褐色Ｖ層系シルト　10YR3/2暗褐色シルトまばら
に20%含む　To-Ch1%含む　粘性やや中　しまりや
3 10YR5/6黄褐色Ｖ層系シルトと10Y R 3/3暗褐色シルトの混合土
To-Ch1%未満含む　粘性やや強　しまり中
4 10YR3/3暗褐色シルト　10YR2/2黒褐色シルトまばらに5%含む
粘性やや弱　しまりやや弱
5 10YR5/6黄褐色Ｖ層系シルトと10YR4/3にぶい黄褐色シルトの混合土
粘性やや強　しまり中
5' 10YR5/6黄褐色Ｖ層系シルト20%、10YR4/3にぶい黄褐色シルト
80%の混合土　粘性やや弱　しまりや
6 10YR2/3黒褐色シルト　粘性中　しまりや弱
7 10YR4/4褐色Ｖ層系シルト　To-Ch1%含む（崩落土）
粘性中　しまりやや強
8 10YR2/3黒褐色シルト　10YR5/6黄褐色Ｖ層系シルト10%含む
To-Ch1%含む　粘性やや強　しまりや強

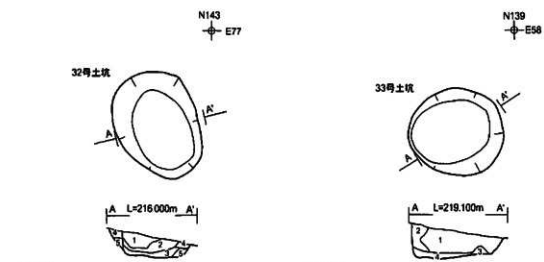
0　1：50　2m

第27図　26～29号土坑



30号土坑
1 10YR4/2灰黄褐色シルト　細かい炭標を多く含む　表土
粘性中　しまり密
2 10YR4/3にぶい黄褐色シルト　10YR3/3暗褐色シルト
まばらに10%含む　To-Ch1%含む　粘性中　しまりやや強
3 10YR2/2黒褐色シルト　10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト
ブロック(4/2～5cm)5%含む　粘性中　しまりやや弱
4 10YR2/2黒褐色シルトと10YR5/4にぶい黄褐色V層系シル
トの混合土　粘性やや強　しまりやや弱

31号土坑
1 10YR2/1黒色シルト　To-Ch1%含む　粘性弱　しまりやや弱
2 10YR2/3黒褐色シルト　10YR4/4褐色シルトまばらに5%
含む　To-Ch2%含む　粘性やや強　しまりやや弱
3 10YR3/2黒褐色シルトと10YR5/6黄褐色V層系シルトの
混合土　焼土含む　粘性弱　しまりやや弱
4 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト　10YR3/2黒褐色シルト
まばらに2%、10YR6/6明黄褐色VI層系シルトブロック
(φ3cm)2%含む　粘性やや強　しまり中
5 10YR3/3暗褐色シルトと10YR2/3黒褐色シルトの混合土
To-Ch1%含む　粘性中　しまり中
6 10YR4/4褐色粘質シルト　粘性強　しまり中
7 10YR2/2黒褐色シルト　To-Ch1%含む　粘性中　しまり中

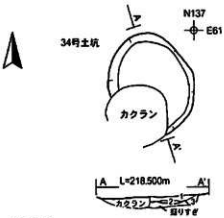


32号土坑
1 10YR2/1黒色シルト　炭化物粒（φ5mm）1%含む
粘性中　しまり中
2 10YR3/2黒褐色シルト　粘性やや強　しまり中
3 10YR2/2黒褐色シルト　10YR6/6明黄褐色VI層系
シルト粒（φ1cm以下）2%含む　炭化物粒（φ5mm）1%含む
粘性やや強　しまり中
4 10YR2/2黒褐色粘質シルト　粘性やや強　しまり弱
5 10YR3/3暗褐色シルト　上位に5層土5%含む
粘性やや強　しまりやや密

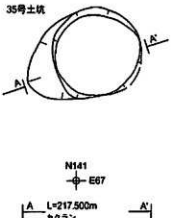
33号土坑
1 10YR3/2黒褐色シルト　10YR6/6明黄褐色VI層系シルト
ブロック（φ5cm）1%含む　10YR4/4褐色粘質シルトまばら
に5%含む　To-Ch1%含む　粘性中　しまり中
2 10YR4/3にぶい黄褐色シルトと10YR4/4褐色粘質シルト
の混合土　To-Ch1%未満含む　粘性やや強　しまり中
3 10YR6/6明黄褐色VI層系シルトと10YR3/2黒褐色シルト
の混合土　粘性やや強　しまり弱
4 10YR6/6明黄褐色VI層系シルト　粘性やや強　しまり中

0　1：50　2m

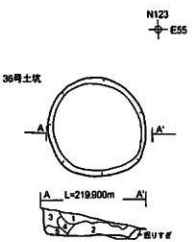
第28図　30～33号土坑



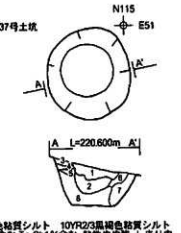
34号土坑
1 10YR2/2黒褐色シルト To-Ch1%含む 粘性中 しまり中
2 10YR2/2黒褐色シルトと10YR5/6黄褐色Ⅴ層系シルト粒（φ1cm以下）の混合土 粘性やや強 しまりやや弱
3 10YR2/2黒褐色シルト10YR5/6黄褐色Ⅴ層系シルトまばらに20%含む 粘性やや強 しまり中



35号土坑
1 10YR5/6黄褐色Ⅴ層系シルトまたは10YR6/6明黄褐色Ⅵ層系シルト 粘性やや強 しまりやや強
2 10YR3/4暗褐色シルト 10YR3/2黒褐色シルト（To-Ch1%含む）10YR5/6黄褐色Ⅴ層系シルトまばらにそれぞれ10%含む 粘性中 しまり中
3 10YR4/3にぶい黄褐色シルト 10YR5/6黄褐色Ⅴ層系シルト粒（φ2mm以下）10%含む 粘性中 しまりやや弱
4 10YR4/3にぶい黄褐色シルトと10YR3/3暗褐色Ⅵ層系シルトの混合土 粘性やや強 しまりやや弱
5 10YR2/3黒褐色シルト 10YR5/4にぶい黄褐色Ⅵ層系シルト粒と10YR5/6黄褐色Ⅴ層系シルト（φ1cm）、それぞれ5%含む 粘性やや強 しまりやや弱



36号土坑
1 10YR3/2黒褐色シルト To-Ch1%含む 粘性中 しまり中
2 10YR3/3暗褐色シルト 10YR5/6黄褐色Ⅴ層系シルトまばらに5%含む 炭化物粒(φ5mm)1%未満含む 粘性やや強 しまり中
3 10YR3/2黒褐色シルトと10YR5/6黄褐色Ⅴ層系シルトと10YR6/6明黄褐色Ⅵ層系シルトの混合土 粘性中 しまりやや弱
4 10YR3/2黒褐色シルト 10YR4/3にぶい黄褐色Ⅴ層系シルトまばらに7%含む To-Ch1%含む 粘性やや強 しまり中
5 10YR3/3暗褐色シルト 10YR6/6明黄褐色Ⅵ層系シルト全体にうすく3%含む 粘性やや強 しまり中

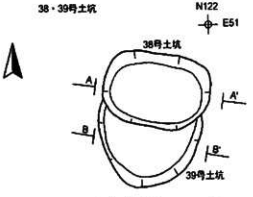


37号土坑
1 10YR3/3暗褐色粘質シルト 10YR2/3黒褐色粘質シルト まばらに10%含む To-Ch1%含む 粘性やや強 しまり中
2 10YR2/3黒褐色粘質シルトと10Y R 4/4褐色シルトの混合土 粘性やや強 しまり中
3 10YR5/6黄褐色Ⅴ層系シルトと10YR3/2黒褐色シルトの混合土 粘性やや強 しまり中
4 10YR5/4にぶい黄褐色Ⅵ層系シルト 粘性やや強 しまりやや弱
5 10YR4/4褐色シルト 粘性やや弱 しまりやや弱
6 10YR5/6黄褐色Ⅴ層系シルト 10YR3/4暗褐色シルトまばらに5%含む 粘性やや弱 しまり中
7 10YR4/4褐色粘質シルトと10YR5/4にぶい黄褐色Ⅴ層系シルトの混合土 粘性強 しまりやや弱
8 10YR4/4褐色シルト 10YR5/4にぶい黄褐色Ⅴ層系シルト20%含む 粘性強 しまり中

0 1:50 2m

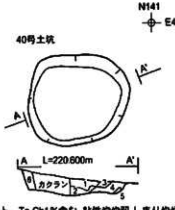
第29図 34～37号土坑

38・39号土坑



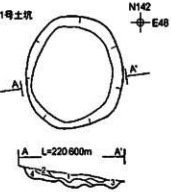
38号土坑
1 10YR3/3暗褐色シルト　10YR5/6黄褐色Ⅴ層系シルト粒（φ1～2cm）5%含む　粘性中　しまり中
2 10YR6/4にぶい黄橙色Ⅵ層系シルトと10YR5/6黄褐色Ⅴ層系シルトの混合土　10YR3/3暗褐色シルトまばらに10%含む　粘性やや強　しまり中
3 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/6黄褐色シルト粒、10YR6/4にぶい黄橙色Ⅵ層系シルト粒(φ1～2cm)それぞれ5%含む　粘性やや強　しまりやや弱
4 10YR3/3暗褐色シルト　10YR6/4にぶい黄橙色Ⅵ層系シルト粒（φ5cm）3%含む　粘性中　しまりやや弱
5 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/6黄褐色シルトまばらに3%含む　To-Ch2%含む　粘性中　しまりやや強
6 10YR3/4暗褐色粘質シルト　10YR6/4にぶい黄橙色Ⅵ層系シルトまばらに5%含む　粘性強　しまりやや強
7 10YR5/6黄褐色Ⅴ層系シルト70%と10YR3/4暗褐色シルト30%の混合土　粘性やや強　しまり中
8 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルトと10YR6/4にぶい黄橙色Ⅵ層系シルトの混合土　粘性やや強　しまり弱

40号土坑



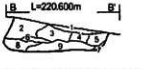
40号土坑
1 10YR2/3黒褐色シルト　To-Ch1%含む　粘性やや弱　しまりやや弱
2 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/6黄褐色5層系シルト粒(φ5～10mm)3%含む　To-Ch1%未満含む　粘性中　しまりやや弱
3 10YR2/3黒褐色シルト　10YR5/6黄褐色Ⅴ層系シルトまばらに5%含む To-Ch1%未満含む　粘性やや強　しまり中
4 10YR3/4明褐色粘質シルト　10YR2/3黒褐色シルトまばらに5%含む 10YR5/4にぶい黄褐色シルトブロック(φ5cm)3%含む　粘性やや強　しまり中
5 10YR5/6黄褐色Ⅴ層系シルト　粘性やや強　しまり中
6 10YR5/6黄褐色シルトと10YR3/2黒褐色シルトの混合土　粘性やや強　しまり中

41号土坑



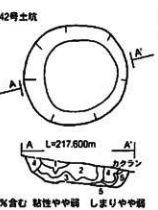
41号土坑
1 10YR2/2黒褐色シルト　10YR5/6黄褐色Ⅴ層系シルトまばらに3%含む　10YR3/3暗褐色粘質シルトまばらに10%含む To-Ch2%含む　粘性やや強　しまりやや強
2 10YR3/3暗褐色粘質シルト　粘性やや強　しまり中
3 10YR4/2灰黄褐色粘土　グライ化　粘性強　しまり強
4 10YR3/3暗褐色粘質シルト　To-Ch1%含む　粘性強　しまり強

39号土坑



39号土坑
1 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/6黄褐色Ⅴ層系シルトブロック（φ2～5cm）3%含む　To-Ch1%含む　粘性中　しまり中
2 10YR4/4褐色粘質シルト　10YR6/6明黄褐色Ⅵ層系シルトブロック（φ1～2cm）2%含む　To-Ch1%含む　粘性やや強　しまりやや強
3 10Y R6/4にぶい黄橙色Ⅵ層系シルトと10YR5/6黄褐色Ⅴ層系シルトの混合土　粘性やや強　しまり強
4 10YR3/3暗褐色シルト　To-Ch1%含む　粘性中　しまりやや弱
5 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルトと10YR5/6黄褐色Ⅴ層系シルトの混合土　粘性やや強　しまりやや強
6 10YR2/3黒褐色シルト　粘性やや強　しまり中
7 10YR6/4にぶい黄橙色Ⅵ層系シルト10YR4/3にぶい黄褐色シルトまばらに5%含む　粘性やや強　しまり中
8 10YR3/4暗褐色粘質シルト　10YR6/4にぶい黄橙色Ⅵ層系シルトまばらに5%含む　粘性やや強　しまり中
9 10YR2/3黒褐色粘質シルト　10YR5/6にぶい黄橙色Ⅵ層系シルト粒（φ1～3cm）まばらに10%含む　粘性やや強　しまり中

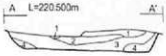
42号土坑



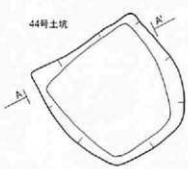
42号土坑
1 10YR3/3暗褐色シルト　To-Ch1%含む　小石（1～3cm）2%含む　粘性やや強　しまりやや弱
2 10YR4/4褐色粘質シルト　10YR5/6黄褐色Ⅴ層系シルト、10Y R6/4にぶい黄橙色Ⅵ層系シルトまばらにそれぞれ5%含む　粘性やや強　しまり弱
3 10YR2/2黒褐色シルト　10YR4/4褐色シルトまばらに10%含む　炭化物粒（φ5～10mm）2%含む　粘性やや強　しまり弱
4 10YR3/2黒褐色シルトと10YR5/6黄褐色Ⅴ層系シルトの混合土　粘性やや強　しまりやや弱
5 10YR5/6黄褐色Ⅴ層系シルト　粘性やや強　しまり中

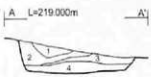
0　1：50　2m

第30図　38～42号土坑

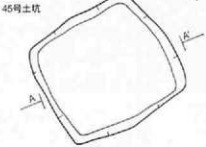


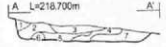
43号土坑
1 10YR2/3黒褐色シルト　10YR5/6黄褐色Ⅴ層系シルトブロック（φ2～5cm）2%含む　粘性弱　しまり弱
2 10YR4/2灰黄褐色シルト　粘性やや強　しまりやや弱
3 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/6黄褐色Ⅴ層系シルト粒（φ1～2cm）1%含む　粘性やや弱　しまり弱
4 10YR3/2黒褐色シルトと10YR5/6黄褐色Ⅴ層系シルトの混合土　粘性弱しまりやや弱



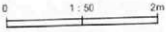


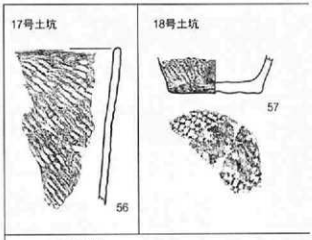
44号土坑
1 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/6黄褐色Ⅴ層系シルト全体にまばらに5%含む　粘性弱　しまり弱
2 10YR4/3にぶい黄褐色シルトと10YR5/6黄褐色Ⅴ層系シルトの混合土　小礫1%含む　炭化物粒（φ10mm）1%含む　粘性中　しまりやや弱
3 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/6黄褐色Ⅴ層系シルト粒状に5%含む　炭化物粒（φ6mm）1%含む　粘性中　しまりやや弱
4 10YR4/3にぶい黄褐色シルト　10YR5/6黄褐色Ⅴ層系シルト粒と10YR2/1黒色シルト粒1%含む　粘性中　しまりやや弱

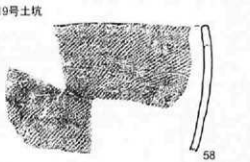


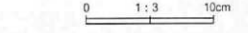


45号土坑
1 10YR2/2黒褐色シルトと10YR5/4にぶい黄褐色Ⅵ層系シルトブロック材（φ1～5cm）の混合土　粘性やや弱　しまりやや弱
2 10YR3/2黒褐色シルト　10YR6/4にぶい黄橙色Ⅵ層系シルト粒（φ1cm以下）10%、10YR2/2黒褐色シルト粒（φ2cm以下）5%含む　粘性やや弱　しまりやや弱
3 10YR3/2黒褐色シルト　10YR6/4にぶい黄橙色Ⅵ層系シルト粒（φ1cm以下）5%、10YR2/2黒褐色シルト粒（φ2cm以下）5%含む　炭化物粒（φ2cm以下）1%含む　粘性やや弱　しまりやや弱
4 10YR4/3にぶい黄褐色シルト　10YR2/2黒褐色シルト粒3%、10YR6/4にぶい黄橙色Ⅵ層系シルト粒5%含む　粘性やや弱　しまりやや弱
5 10YR3/2黒褐色シルト　10YR2/2黒褐色シルト粒5%、10ＹＲ6/4にぶい黄橙色Ⅵ層系シルト粒（φ5mm）3%含む　粘性やや強　しまりや
6 10YR4/3にぶい黄褐色シルト　10YR6/4にぶい黄橙色Ⅵ層系シルト粒（φ5mm）3%、10YR2/2黒褐色シルト粒（φ5mm）3%含む　粘性やや弱　しまりや
7 10YR4/4褐色粘質シルト　10YR2/2黒褐色シルト粒（φ5mm）2%　10YR6/3にぶい黄橙色Ⅵ層系シルト粒（φ1cm以下）1%含む　粘性やや強　しまりやや弱

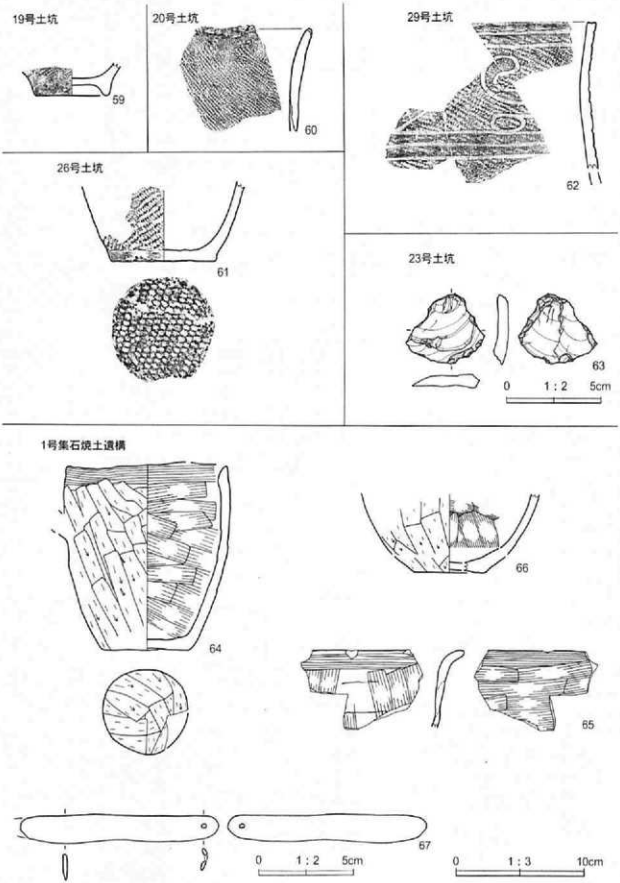








第31図　43～45号土坑・土坑出土遺物



第32図　土坑・1号集石焼土遺構出土遺物

(2) 平安時代

1号集石焼土遺構（第23図、写真図版20）

〈位置〉調査区北部、縄文竪穴住居跡と重複、ⅡＤ４ｆグリッドに位置する。

〈検出状況〉表土除去後、1号竪穴住居跡から5号竪穴住居跡へと続く黒～黒褐色の不整プランの中に、被熱した脆い礫の集合が確認された。当初はこの住居跡に伴う炉跡と判断し精査を進めたが、1号竪穴住居精査中さらに礫範囲が広がり、密集していることが判明した。礫と覆土を取り除くと焼土が現れ、最大約9cmの厚さで形成されていた。焼土の周辺、内部の一部がレンガ状に硬化していた。集石範囲と焼土範囲の位置にずれがあるが、集石は一部現況表土でも観察されており、後世の削平・攪乱によって破壊されたためと考えられる。周辺および覆土から鉄製品や鉄滓、土師器片が出土したため、何らかの鍛冶施設であったことが推測されるが判然としない。壁と床はかろうじて1号竪穴住居跡の埋土断面で確認できただけで、建物としての平面プランは把握できなかった。

〈規模・形状〉建物全体としてのプランは不明であるが、断面から推測するに、およそ310×540cmの広がりであったと思われる。石の集合は150×120cmの広がりを持ち、原形は何かしら整形されていたと推測されるが、残存形は不整である。焼土は145×62cmの広がりで、熱の伝わり方の違いのためと思われるが不整形である。

〈壁土〉1号竪穴住居跡との共用ベルトを参照していただきたい。Ⅲ層系の黒褐色シルトを主体として構成されている。礫の周囲から採取した土壌サンプルを磁石でより分けたところ磁鉄鉱が多く抽出された。

〈壁・床〉1号竪穴住居跡との共用ベルトで、本遺構の床面とした面ではやや傾いているので、実際は1号竪穴住居跡の床面と同じくらいであったのかもしれない。壁はやや外傾して立ち上がるようである。

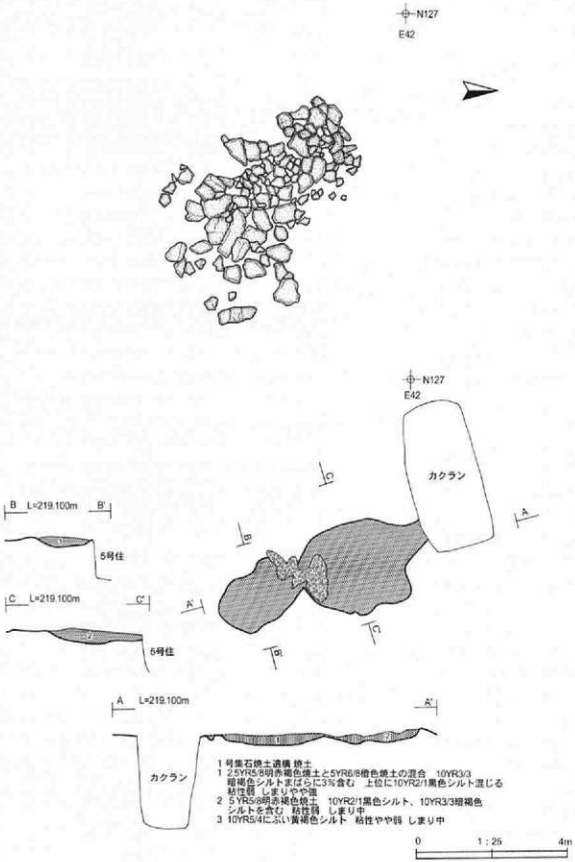
〈遺物〉（第24図、写真図版26の64～70）

前述したように、4号竪穴住居跡と混同して精査をしたので、遺物も混交していた。出土層位・地点から判断して、明らかに本遺構に属すると思われる遺物を7点掲載した。

土器 64は把手付き甕と考えられる。把手と思われる部分から口縁部まで欠失しており、形状は不明である。痕跡は片手だけである。東北10世紀後半から11世紀にかけて増加する器形で、秋田県のはりま館遺跡の報告に事例が見られる。一戸町内の上野遺跡でも平安時代の遺物として把手付鉢が出土している。65は土師器甕の口縁部片である。66同じく土師器甕の胴～底部片である。

鉄製品・他 67は基部に貫通孔のある刀子である。68～69は周辺から出土した鉄滓である。鍛冶鉄滓である可能性が高い。

〈時期〉出土遺物から平安時代のものと考えられる。



第33図 1号集石焼土遺構

5．遺構外出土遺物（第35～37図、写真図版26～28）

仁昌寺Ⅲ遺跡の出土遺物の総量は2×32×30cmのコンテナで約4箱である。遺構外からは約2箱分の遺物が出土した。内訳は土器（縄文・弥生）、土製品、陶磁器、石器、銭貨である。本遺跡の遺構外出土遺物は多くが調査区北側の遺構集中域の表土～Ⅲ層中から出土している。

(1) 土器・土製品・陶磁器

① 縄文～弥生時代の土器

縄文～弥生時代の土器の総量は42×32×30cmのコンテナで約3箱である。その内遺構外からは2箱が出土した。遺構外で出土した遺物の多くは土器類で占められるが、完形や復元できる個体は少なく、大半は小破片であるため、全体像が分かる資料はほとんどない。資料の選定にあたっては、時期を特定できる個体を、該当する各時期を網羅するよう抽出した。資料数が微少であるため、分類は行わず、時期ごとに特徴を述べるにとどめた。出土地点はほぼ調査区全域から出土しているが、グリッドごとの遺物量を単純に集計・比較すると、遺構集中区に近づくにつれて出土量が多くなっている。時期別の量を比較すると、資料数が少ないため言及するのは適当でないかもしれないが、縄文時代中期後葉～末葉が多く、その他各期は少量である。

縄文時代：中期後葉に相当する土器群（71～75）

大木9式に相当する土器群で、5点を掲載した。いずれも深鉢で、71～74は口縁部片で、やや外反して立ち上がる器形である。75は胴部片である。いずれも縦方向への沈線区画と磨消縄文という特徴を持つ。71は地文に数条の曲線による沈線文が施されるのみで、他に比べ手法が簡略化された印象である。本群あるいは次群から派生した大木系の上器と考えて大過ないであろう。72は沈線頂部に刺突穴を持つ。

縄文時代：中期末葉に相当する土器群（76～78）

3点掲載した。いずれも深鉢形土器で76・77は口縁部片、78は胴部片である。76・78は曲線による沈線区画内に縄文が充填される。77は口縁部に橋状把手状の貼り付けが作られ、そのアーチのもとに円形刺突が施されている。大木10式に相当する上器群である。

縄文時代：後期前葉に相当する上器群（79～83）

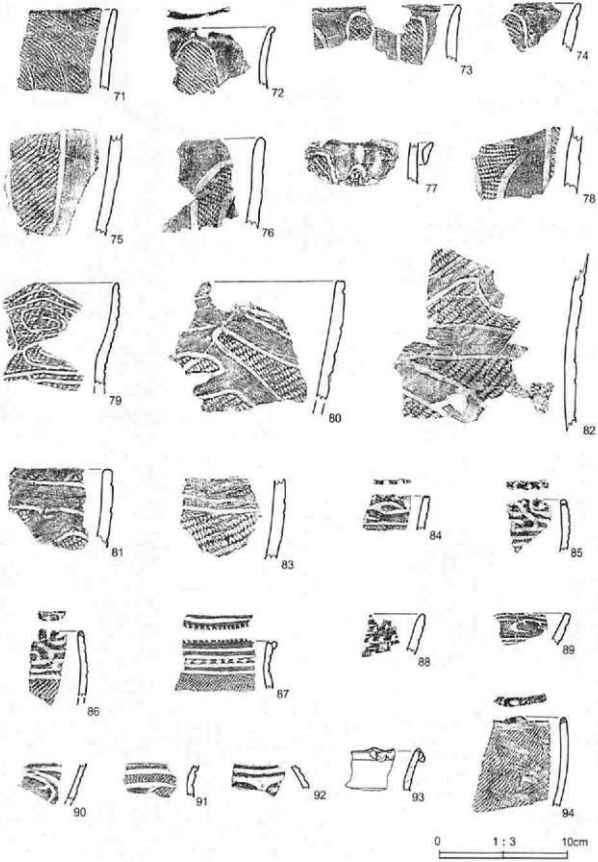
5点掲載した。79・80～83（同一個体）は深鉢片である。79は口縁部が大きな山形を呈し、渦巻状沈線文が描かれる。80～83は口縁部が大きな山形を呈し、胴部が蛇行状や三角形状の沈線文と磨消縄文により施文されている。十腰内Ⅰ式に相当する上器群である。

縄文時代：晩期に相当する土器群（84～94）

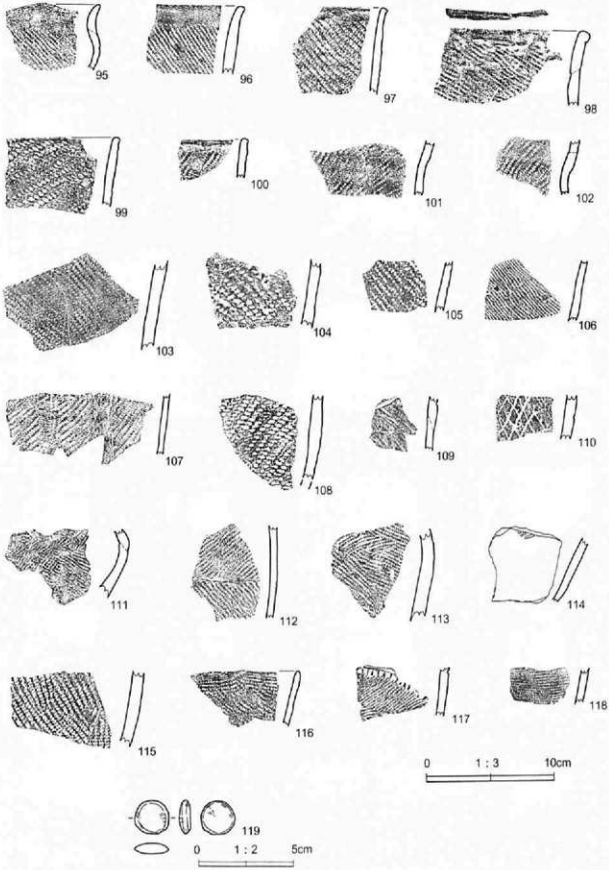
11点掲載した。84・86・94は深鉢形土器口縁部片、85・87～89・93は鉢形土器の口縁部片、90は同じく胴部片、91・92は壺形土器の肩部片である。84は小波状の口縁を呈し入組三叉文をもつ。85・86は口縁部に「B」字を横倒しした形状の小突起を持ち、口縁部は若干入り組んだ平行沈線が施されている。87は口縁部が階段状になっており、上段は鋸歯状の刻目が入る。口頸部は平行沈線とその間に刻みが巡る。88も同じく沈線間の刻みによる文様が施されている。89・90は雲形文状の文様をもつ。91・92は平行沈線文が施される。93は口縁部が肥厚し小突起が作られている。94は胴部から口縁部に向かい内湾する器形を呈し、口縁部に刺突痕をもつ小突起が貼り付けられている。概ね、大洞B～C_2式に相当する土器群である。

縄文時代：中期～晩期相当の粗製土器群（95～118）

器面に縄文のみを施す時期特定が困難な土器を21点掲載した。さらに細分可能であろうが、種類も個体数も過少のため一括してここに収めた。95・118は鉢形土器口縁部片、111はミニチュア形土器胴部片、96～100・116は深鉢形土器の口縁部片、101～110・112～115・117は深鉢胴部片である。原体の種類はLR・R



第34図　遺構外出土遺物（土器１）



第35図　遺構外出土遺物（土器２・土製品）

しともに縦位回転が多い。ほとんどは中期から後期の間に収まるものと思われる。118は弥生時代の土器の様相を呈すが、判然としないためここに加えた。

② 土製品（119）

本来ここに分類するのが妥当なミニチュア形土器は土器項目で記述した。他に土製品として出土したものは119土おはじき状土製品1点のみである。直径約1.7cmの扁平な碁石状であるが、片面が平坦である。時代は不明であるが、類似品が出土する報告書に倣い、縄文時代に区分した。

③ 陶磁器（120～128）

陶磁器の破片が調査区全域の表土～Ⅱ層から、42×32×10cmのコンテナで約半分量出土した。比較的古手のものを選定したが、すべて19C後半以降の近・現代に属するものである。したがって、参考までに代表的なものを9点写真と表のみで掲載した。

(2) 石器

石器の総量は42×32×30cmのコンテナ約1箱分で、剥片を除いた33点を登録した。内訳は、遺構内23点、遺構外10点である。点数が少ないため、ここでは、遺構内・外合わせて形態分類を行う。

① 剥片石器

石鏃、スクレイパー類、リタッチド・フレイクの3種が存在する。いずれも少数である。石材は130の瑪瑙以外すべて頁岩である。

石鏃（54・129・130）

扁平で左右対称、尖頭部とそれよりは場の広い基部を有する小形の石器を石鏃とした。3点出土している。基部形態は、54が無茎凸、129が有茎、130が無茎凹形である。

スクレイパー類（14・37・38・131）

側縁の2分の1以上に連続的な調整のあるものをスクレイパーとした。4点出土している。素材はすべて通常剥離で作出されており、37・38・131は縦長剥片、14は欠損のため、不明である。刃部角は37が47°と比較的鋭角を、14・131は65°以上と鈍角を呈する。38は素材末端部に幅約5mmの狭小刃部が形成され、刃部角は55°を測る。刃角からは37が削器的、他3点が掻器的といえる。

リタッチド・フレイク（1・39・50・63・132～136）

細部調整が行われた剥片で、定形的な刃部を持たないものを一括した。9点出土している。素材は不定形で、通常剥離と両極剥離の両者が存在する。

② 礫石器

磨製石斧、石錘、敲・磨石類、凹石、台石、その他の礫器が存在する。

磨製石斧（15）

1点のみ。斑レイ岩製。刃部側が欠損している。一部に剥離調整痕が残る。平面形は撥形であったものと推定される。

石錘（137）

1点のみ。デイサイト製。最大長6.8cmの小扁平礫を利用している。調整はごく僅かである。

敲・磨石類（16～19・24・40・51・55）

「敲打」と「磨り」の痕跡が観察されるものを一括した。8点出土しており、素材はすべて円礫である。痕跡の種類・程度によって、

a：敲打痕の顕著なもの（19・40・55）

b：磨痕の顕著なもの（18・24・51）

c：両者の混在するもの（16・17）

の3種に大別される。c種は表・裏両面が磨かれた後、平面中央に弱い敲打痕が入る。石材は砂岩（16・18・19）、石英安山岩（17）、安山岩（24・40・55）、閃緑岩（51）と多様である。

凹石（41・42・138）

礫の平坦面に敲打による凹みが見られるものである。3点出土している。楽材は42，138が安山岩の円礫で、41は板状の角礫凝灰岩である。前者は表・裏両面とも使用されている。後者は被熱により変色しており、その後欠損している。

台石（20・23・43）

大形礫の平坦面に磨痕や敲痕が観察されるものである。3点出土しており、いずれも安山岩で、23は棒状、20，43は板状を呈する。20は使用後、炉石に転用されている。

その他の礫石器（22）

22は上記の種別に分類できない細部調整がある礫器である。石材は頁岩である。

(3) 銭貨（139・140）

表土から2点出土している。139は寛永通寶で、新寛永である。140は鉄製で文字は何も書かれてない。

〈参考文献〉

・岩手県立博物館　1982　『岩手の土器―県内出土資料の集成―』

・大川清・鈴木公雄・工藤雄一郎　1996　『日本土器事典』

・秋田県教育委員会　1990　『はりま館遺跡発掘調査報告書』

・一戸町教育委員会　1994　「平成5年度一戸遺跡群詳細分布調査報告書」
「一戸の遺跡(Ⅳ)」一戸町文化財調査報告書第135集

・久慈市教育委員会　2001　『平沢Ⅰ遺跡発掘調査報告書Ⅵ』久慈市埋蔵文化財調査報告書

・㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1983　『小井田Ⅳ遺跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第69集

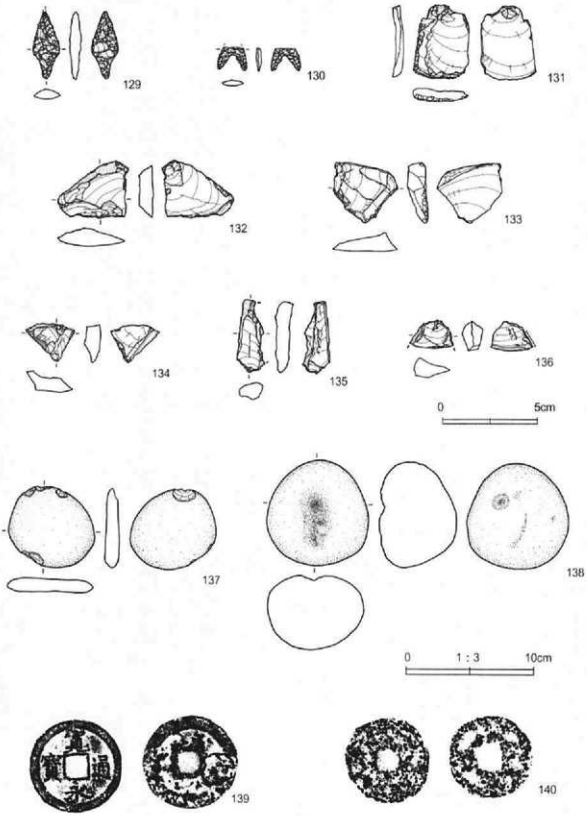
・㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1984　『平舘Ⅲ遺跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第76集

・㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1985　『小井田Ⅲ遺跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第85集

・㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2001　『上野遺跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第359集

・㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2002　『仁昌寺Ⅱ遺跡・仁昌寺遺跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第400集

・㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1997　『椎の木遺跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第263集



第36図　遺構外出土遺物（石器・銭貨）

第2表　遺物観察表（土器・ミニチュア形土器）

掲載番号	図版番号	出土地点	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	原体・文様の特徴等	内面調整	備考	時期	図版	写図
2	17	2号住跡	炉周設	深鉢	口～胴	26.8	－	－22.9	LR縦	ナデ		中期祖製	9	21
3	18	2号住跡	炉前庭部	ミニチュア形土器	口～底	－	3.6	8.75	口縁部下端に横位に連続する工具刺突列、胴部横位連続曲線文、磨消縄文（LR縦・横）	ナデ		大木10	9	21
4	21	2号住跡	床直	ミニチュア形土器	口～底	7	3.3	5.85	多方向のLR横	ミガキ	胎土に海面骨針	中期祖製	9	21
5	37	2号住跡	床直	ミニチュア形土器	口～底	2.7	2.2	(5.1)	胴部上端「く」の字に肥厚し、口縁部再び内傾、肥厚部に小形の穿孔列が巡る、胴部は細沈線による曲線的な区画文をもち、内部にLR縄文が縦位に施文される、磨消縄文			大木9	9	21
6	19	2号住跡	床直	深鉢	口～底	(25.0)	－	－26.4	RL横	ミガキ	一部赤色	中期祖製	9	21
7	22	2号住跡	床直	ミニチュア形土器	口～底	－	(4.1)	5.3	LR縦	ミガキ		中期祖製	9	21
8	20	2号住跡	埋土＋床直	小形深鉢	口～底	(7.9)	2.8	8.6	波状口縁（3単位？）、縦方向の沈線区画、磨消し縄文、LR縦	ミガキ		大木9	9	21
9	23	2号住跡	埋土下	深鉢	口～胴	－	－	－	口縁波状を呈し、上方で短く外反、沈線区画内LR、磨消縄文	ミガキ？		大木9	9	21
10	25	2号住跡	埋土下	深鉢	胴	－	－	－	縦沈線区画、LR縦	ナデ	器面磨耗	大木9	9	21
11	26	2号住跡	埋土下	深鉢	胴	－	－	－	LR縦、磨消縄文（縦方向の沈線区画）	ナデ		大木9	9	21
12	27	2号住跡	埋土下	深鉢	胴	－	－	－	LR縦	ナデ	砂粒含む	中期祖製	9	21
13	24	2号住跡	埋土下	深鉢	胴	－	－	－	LR縦、沈線区画	ナデ		大木10	9	21
21	28	3号住跡	床直	小形深鉢	胴～底	－	3.7	－5.3	縦方向の沈線区画、LR縦	ミガキ？	内外面炭化物付着	大木9	12	23
25	1	4号住跡	埋土上	瓶形土器	瓶形	5.3	4.6	10.95	口縁部隆線小形の穿孔列、U字とI字の組み合わせによる区画文、LR縦・横		内部に赤色顔料充填	大木9	15	23
26	2	4号住跡＋16号土坑	埋土	小形深鉢	口～底	5.6	4.6	10.3	撚糸L	口縁直側にも撚糸文ナデ？		大木10	15	23
27	8	4号住跡	埋土	ミニチュア形土器	口	－	－	－	竹管による縦位の連続円形刺突文	粗雑なナデ		大木10？	15	23
28	3	4号住跡	埋土中	深鉢	口～胴	(15.0)	－	－	逆U字型の縦沈線文、LR縦	ミガキ		大木9	15	23
29	4	4号住跡	埋土中	鉢形土器	胴	－	－	－	曲線の沈線区画、磨消し縄文、LR横・斜位	ミガキ	外面にタール状付着物	大木10	15	23
30	6	4号住跡	埋土中	壺	口	(10.8)	－	－8.0	ミガキ頸著	ミガキ	内面炭化物少量	後期	15	23
31	7	4号住跡	埋土中	壺？	口	－	－	－	内・外面赤色塗彩	ミガキ頸著		大木10？	15	23
32	9	4号住跡	埋土中	深鉢	口～胴	－	－	－	LR縦	ナデ		中期祖製	15	24
33	10	4号住跡	埋土中	深鉢	口～胴	－	－	－	RL縦	ナデ・ミガキ		中期祖製	15	24
34	12	4号住跡	埋土中	深鉢	胴～底	－	－8.1	7.0	底面ミガキ、LR縦	ミガキに近いナデ	胎土砂粒少量	中期祖製	16	24

＊（　）：推定値、－：残存値

第2表　遺物観察表（土器・ミニチュア形土器）

掲載番号	撮影番号	出土地点	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	原体・文様の特徴等	内面調整	備考	時期	図版	写図
35	11	4・5号住跡+35号土坑	埋土	深鉢	胴～底	－	8.6	－22.3	LR縦	ミガキ		中期粗製	16	24
36	5	4号住跡	埋土中	深鉢	胴～底	－	9.4	－11.8	二重沈線の三角形区画、RL縦	ナデ	内面炭化物少量	十腰内Ⅰ	16	24
44	29	5号住跡	床直	深鉢	口～胴	－	－	－	口縁波状を呈し、上方で外反、二重沈線区画内磨消縄文、LR縦	ミガキ		大木9	19	25
45	30	5号住跡	埋土上	深鉢	口～胴	－	－	－	口縁部外反、波状口縁、曲線の沈線区画内にRL縦施文、磨消縄文	ミガキ		大木10？	19	25
46	34	5号住跡	埋土	小形深鉢	胴～底	－	3.35	－3.5	RL縦	ミガキ	底部内面下端部のみ黒色付着物あり	大木9	19	25
47	31	5号住跡	埋土	深鉢	口～胴	－	－	－	LR縦	ナデ？	外面炭化物少量	中期粗製	19	25
48	32	5号住跡	埋土	深鉢	口～胴	－	－	－	LR縦	ナデ？	外面炭化物付着	中期粗製	19	25
49	33	5号住跡	埋土	深鉢	胴～底	－	(6.25)	－5.1	LR縦	ミガキ	底部ミガキ	中期末粗製	19	25
52	35	6号住跡	覆土	深鉢	口～胴	－	－	－	LR縦	ミガキ		中期粗製	21	25
53	36	6号住跡	埋土	深鉢	胴	－	－	－	LR縦	ミガキ		中期粗製	21	25
56	38	17号土坑	埋土	深鉢	口～胴	－	－	－	無節L縦	ナデ、ミガキ？		中期粗製	31	25
57	42	18号土坑	埋土	深鉢	胴下～底	－	(7.4)	－2.7	底部網代痕、LR縦	ナデ	砂粒含む	後期	31	25
58	40	19号土坑	埋土	深鉢	口～胴	－	－	－	LR横	ナデ		後期粗製	31	25
59	41	19号土坑	埋土	深鉢	胴～底	－	5.8	－2.3	LR斜位、底部上げ底	ナデ		後期	32	25
60	39	20号土坑	埋土上	深鉢	口～胴	－	－	－	LR縦	ミガキに近いナデ		中期粗製	32	25
61	43	26号土坑	埋土	深鉢	胴下～底	－	8.2	－6.3	底部網代痕、LR縦	ナデ	粗砂含む	中～後期	32	25
62	78	29号土坑	埋土	深鉢	口～胴	－	－	－	平行沈線、フック状沈線、磨消縄文、LR縦	ミガキ		十腰内Ⅰ	32	25
64	46	1号炉・焼	覆土	土師器把手付甕	口～底	(12.9)	6.9	14.8	(口) ヨコナデ (胴) ヘラケズリ (底) ナデ	(口) ヨコナデ (胴) ヘラナデ	胎土粗砂多量	10C後半	32	26
65	45	1号炉・焼	覆土	土師器 甕	口	－	－	－	(口) ヨコナデ (胴) ナデ	(口) ヨコナデ (胴)		平安時代	32	26
66	44	1号炉・焼	覆土	土師器 甕	胴～底	－	5.6	－6.3	(胴) ヘラケズリ	ナデ (胴) ヘラナデ		平安時代	32	26
71	63	ⅡD4g	表～Ⅱ	深鉢	口～胴	－	－	－	沈線、L縦	ミガキに近いナデ		大木9	34	26
72	54	ⅢC6f	表土	深鉢	口	－	－	－	口縁やや外反、波状口縁、沈線頂部に刺突、逆U字の沈線区画内LR縦、磨消縄文	ミガキ		大木9	34	26
73	70	ⅡD6b	Ⅱ～Ⅲ	深鉢	口～胴	－	－	－	口縁わずかに外反、縦方向の沈線区画、磨消縄文、LR縦	ナデ？		大木9	34	26
74	95	ⅢD2d	Ⅱ	深鉢	口	－	－	－	縦方向の沈線区画、磨消縄文、LR縦	ミガキ		大木9	34	26

＊（　）：推定値、－：残存値

第2表　遺物観察表（土器・ミニチュア形土器）

掲載番号	撮影番号	出土地点	層位	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	原体・文様の特徴等	内面調整	備考	時期	図版	写図
75	71	ⅡD6c	Ⅱ～Ⅲ	深鉢	胴	－	－	－	縦方向の沈線区画、磨消縄文、ＲＬ縦	ナデ		大木9	34	26
76	73	ⅡD6e	表～Ⅱ	深鉢	口～胴	－	－	－	沈線区画内ＬＲ縦、磨消縄文	ミガキに近いナデ		大木10	34	26
77	75	ⅡD7d	表土	深鉢	口	－	－	－	橋状把手、円形刺突、沈線区画内ＬＲ縦	ミガキ？		大木10	34	26
78	76	ⅡD8d	表～Ⅱ	深鉢	胴	－	－	－	沈線、ＬＲ斜位	ナデ		大木10	34	26
79	68	ⅡD6b	Ⅱ～Ⅲ	深鉢	口～胴	－	－	－	山形口縁、蛇行状沈線、ＲＬ縦	ナデ		十腰内Ⅰ	34	26
80	80	ⅡD9e	表～Ⅱ上	深鉢	口～胴	－	－	－	山形口縁状、蛇行状沈線文、磨消縄文、ＲＬ縦	ミガキ	81～83と同一個体	十腰内Ⅰ	34	26
81	84	ⅡD9e	表～Ⅱ上	深鉢	口～胴	－	－	－	蛇行状沈線文、磨消縄文、ＲＬ縦	ミガキ	80・82・83と同一個体	十腰内Ⅰ	34	26
82	79	ⅡD9e	表～Ⅱ上	深鉢	胴	－	－	－	三角状区画文、蛇行状沈線、磨消縄文、ＲＬ縦	ミガキ	80・81・83と同一個体	十腰内Ⅰ	34	26
83	81	ⅡD9e	表～Ⅱ上	深鉢	胴	－	－	－	平行沈線、磨消縄文、ＲＬ縦	ミガキ	80～82と同一個体	十腰内Ⅰ	34	27
84	52	ⅡB6j	表～Ⅱ	深鉢？	口～胴	－	－	－	小波状口縁、入組三叉文	ミガキ？		晩期	34	27
85	57	ⅡC7a	Ⅱ	鉢形土器	口	－	－	－	口唇部に二個一対の小突起、平行沈線	ミガキ		晩期	34	27
86	58	ⅡC9b	表～Ⅱ	深鉢	口	－	－	－	口唇部二個一対の小突起、平行沈線、ＬＲ横	ミガキ		晩期	34	27
87	51	ⅠD10d	表～Ⅱ	鉢形土器	口	－	－	－	口唇部鋸歯状刻目、口頸部刻突列、平行沈線、ＲＬ縦、裏側に沈線状の段	ミガキ		晩期	34	27
88	88	ⅢB3g	表土	鉢形土器	口	－	－	－	羊歯状文？		摩滅激しい	晩期	34	27
89	87	ⅢB3g	表土	鉢形土器	口	－	－	－	霊形文状の文様、ＲＬ縦？	ミガキ		晩期	34	27
90	72	ⅡD6c	表～Ⅱ上	鉢形土器	胴上	－	－	－	霊形文状の文様をもつ、ＬＲ横？	ミガキ？		晩期	34	27
91	93	ⅠD10b	表土	壺?	肩?	－	－	－	平行沈線、ＬＲ横	ミガキ？	外面赤色塗彩	晩期	34	27
92	59	ⅡC9b	表～Ⅱ	壺?	肩	－	－	－	平行沈線	ミガキ		晩期	34	27
93	94	ⅠD10b	表土	鉢形土器	口	－	－	－	口唇部肥厚、小突起	ミガキ		晩期	34	27
94	55	ⅡC6f	表土	深鉢	口	－	－	－	粘土貼付による小突起、ＬＲ横	ナデ		晩期	34	27
95	67	ⅡD6a	表～Ⅱ	鉢形土器	口～胴	－	－	－	口縁部波状を呈し、胴部は膨らみをもち、頸部ですぼまり、口縁が外反する、ＬＲ縦	ミガキ		中期粗製	35	27
96	86	ⅡD10c	表～Ⅱ	深鉢	口～胴	－	－	－	ＬＲ縦	ミガキ		中期粗製	35	27
97	83	ⅡD9e	Ⅱ	深鉢	口～胴	－	－	－	ＬＲ縦	ナデ		中期粗製	35	27
98	61	ⅡD3d	表～Ⅱ	深鉢	口	－	－	－	ＬＲ縦	ナデ	器面磨耗、胎土砂粒含む、内面炭化物付着	中期粗製	35	27
99	66	ⅡD6a	表～Ⅱ	深鉢	口	－	－	－	ＲＬ縦	ミガキ	内外面炭化物付着	中期粗製	35	27
100	14	ⅠD10c	Ⅲ層	深鉢	口	－	－	－	ＲＬ縦	ミガキに近いナデ	101・102と同一個体	中期粗製	35	27

＊（　）：推定値、－：残存値

第2表　遺物観察表（土器・ミニチュア形土器）

掲載番号	撮影番号	出土地点	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	原体・文様の特徴等	内面調整	備考	時期	図版	写図
101	16	ⅠD10c	Ⅲ層	深鉢	胴	－	－	－	RL縦	ミガキ	100・102と同一個体	中期粗製	35	27
102	13	ⅠD10c	Ⅲ層	深鉢	胴	－	－	－	RL縦	ミガキに近いナデ	100・101と同一個体	中期粗製	35	27
103	62	ⅡD4a	表～Ⅱ	深鉢	胴	－	－	－	LR縦	摩耗により不明	胎土粗砂含む	中期粗製	35	27
104	82	ⅡD9e	Ⅱ～Ⅲ	深鉢	胴	－	－	－	LR縦	ナデ	器面磨耗、胎土砂粒含む	中期粗製	35	27
105	91	ⅢCⅠf	Ⅱ～Ⅲ	深鉢	胴	－	－	－	LR縦	ナデ	胎土砂粒少量含む	中期粗製	35	27
106	15	ⅠD10c	Ⅲ層	深鉢	胴	－	－	－	LR縦	ミガキ		中期粗製	35	27
107	60	ⅡD2e	Ⅲ下	深鉢	胴	－	－	－	RL縦	ミガキに近いナデ	胎土粗砂少量含む	中期粗製	35	27
108	66	ⅡD6a	表～Ⅱ	深鉢	胴	－	－	－	RL縦	ミガキに近いナデ		中期粗製	35	27
109	64	ⅡD4g	表～Ⅱ	深鉢	胴	－	－	－	格条体、L撚糸文、沈線	ミガキ		中期？	35	27
110	77	ⅡD9d	Ⅱ～Ⅲ	深鉢	胴	－	－	－	羽目状撚糸文（R1）	ナデ？		中末～後初	35	27
111	85	ⅡD9g	表土	ミニチュア形土器	胴～底	－	－	－	（Lr）綱回転文	ナデ		後期？	35	27
112	53	ⅡB6i	表～Ⅱ	深鉢	胴	－	－	－	羽状縄文（LR／RL）	ミガキ		後期？	35	27
113	74	ⅡD7c	表～Ⅱ上	深鉢	胴	－	－	－	羽状縄文	ナデ？		後期？	35	27
114	89	ⅢB4c	表土	深鉢	胴下～底	－	－	－	ミガキ、R横？	ミガキ	内面炭化物付着	後期	35	27
115	92	ⅢD3e	表～Ⅲ上	深鉢	体	－	－	－	RL横？	ナデ	外面に炭化物付着、胎土砂粒混入	後期？	35	27
116	69	ⅡD6b	表土	深鉢	口	－	－	－	LR／RL	ナデ		後中～後	35	27
117	56	ⅡC6f	表土	深鉢	胴	－	－	－	沈線に沿う刺突列、前々段多条（LR1）	ナデ		後中～終	35	27
118	90	ⅢB4c	表土	鉢形土器？	胴	－	－	－	LR斜＋磨消	ミガキに近いナデ		弥生？	35	27

第3表　遺物観察表（土製品）

掲載番号	撮影番号	出土地点	層位	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考	時代	図版	写図
119	96	ⅡD10d	表～Ⅱ	おはじき状土製品	1.75	1.85	0.60	1.57	片面が扁平	縄文時代	35	27

＊（　）：推定値、－：残存値

第4表　遺物観察表（陶磁器）

掲載番号	撮影番号	出土地点	層位	器種	文様等の特徴	備考	時期	図版	写図
120	55	ⅡD9g	表～Ⅱ	白磁、小杯			19C後半以降	－	28
121	56	ⅡD9g	表～Ⅱ	白磁・染付け、小杯				－	28
122	57	ⅡB3g	表土	白磁・染付け、皿	生地け			－	28
123	53	不明	表土	白磁・染付け、鉢	端反り、口紅	124と同一個体、肥前系		－	28
124	51	ⅡC97a	Ⅱ～Ⅲ	白磁・染付け、鉢	蛇の目高台	123と同一個体、肥前系		－	28
125	52	不明	表下～Ⅱ	染付け、鉢	蛇の目高台	肥前系		－	28
126	50	ⅠD9e	表下	陶器・天目釉、鉢		美濃系		－	28
127	58	ⅢA3i	表土	陶器・皿				－	28
128	59	ⅡD7c	表～Ⅱ	陶器・皿		目あと		－	28

第5表　遺物観察表（鉄製品・鉄滓・銭貨）

掲載番号	撮影番号	出土地点	層位	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考	時期	図版	写図
67	60	1号焼・焼	暗褐色土層	刀子	10.5	1.5	0.25	13.7	基部穿孔あり	平安時代？	32	26
68	61	2号焼・焼	暗褐色土層	鉄滓	7.1	4.5	3.0	43.3			－	26
69	62	3号焼・焼	暗褐色土層	鉄滓	5.5	4.7	3.4	58.0			－	26
70	63	1号焼・焼付近	暗褐色土層	鉄滓	6.3	4.9	3.0	85.1			－	26
139	65	ⅡD7c	表～Ⅱ上	寛永通宝	2.5	2.5	0.2	3.8	新寛永		35	28
140	67	ⅡD7b	表～Ⅱ	不明	2.3	2.3	0.3	2.8	無文字	不明	35	28

＊（　）：推定値、－：残存値

第6表　遺物観察表（石器）

掲載番号	図形番号	出土地点	層位	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	備考	図版	写図
1	4	1号住跡	埋土	Rフレ	2.80	2.60	0.75	3.9	頁岩（北上山地）		2	22
14	5	2号住跡	埋土下位	スクレイパー類(掻器)	2.75	3.40	0.75	5.8	頁岩（北上山地）		10	22
15	27	2号住跡	床直	磨製石斧	(9.10)	4.40	3.10	211.2	斑レイ岩（北上山地）	刃部側欠損	10	22
16	26	2号住跡	床直	敲・磨石類c	8.30	7.40	3.50	294.9	砂岩（北上山地）	両面に敲打・磨痕	10	22
17	29	2号住跡	炉前庭部内	敲・磨石類c	8.50	7.70	4.00	357.6	石英安山岩（北上山地）	全面に磨痕、両面に敲打痕	10	22
18	30	2号住跡	床直	敲・磨石類b	11.30	9.25	5.65	833.3	砂岩（北上山地）	両面磨痕	10	22
19	28	2号住跡	床直	敲・磨石類a	11.50	8.15	5.50	710	砂岩（北上山地）	片面に弱い敲打痕	10	22
20	25	2号住跡	炉構成礫	台石	474.00	527.00	63.00	14000	安山岩（奥羽山脈）	写真のみ掲載	—	22
22	32	3号住跡	床直	細部調整のある剥石器	16.40	12.90	3.20	770.3	頁岩（北上山地）		12	23
23	33	3号住跡	床直	台石	22.60	10.65	8.85	2900.9	安山岩（奥羽山脈）	棒状、一端に磨痕	12	23
24	31	3号住跡pp5	埋土	敲・磨石類b	12.18	10.70	6.80	1175.1	安山岩（奥羽山脈）	写真のみ掲載	—	23
37	1	4号住跡	埋土	スクレイパー類(削器)	4.25	2.80	0.85	11.5	頁岩（北上山地）		16	24
38	2	4号住跡	床直	スクレイパー類(掻器)	6.30	2.20	0.90	7.4	頁岩（北上山地）		16	24
39	10	4号住跡		Rフレ	3.70	5.75	1.6	28.2	頁岩（北上山地）		16	24
40	24	4号住跡pp4	埋土	敲・磨石類a	8.60	6.40	5.60	408.5	安山岩（奥羽山脈）		16	24
41	20	4号住跡	埋土	凹石	15.30	13.40	7.10	987.3	角閃石安山岩（奥羽山脈）	被熱により一部変色、脆い、被熱後欠損	16	24
42	21	4号住跡	埋土	凹石	11.00	6.70	2.80	269.7	安山岩（奥羽山脈）	両面に凹み	17	24
43	23	4号住跡	埋土	台石	22.20	16.40	6.00	3200	安山岩（奥羽山脈）	磨痕範囲不明瞭	17	24
50	6	5号住跡	風倒木痕	Rフレ	2.50	2.65	0.20	2	頁岩（北上山地）		19	25
51	34	5号住跡	埋土	敲・磨石類b	14.20	8.30	7.00	1179.5	閃緑岩（北上山地）		19	25
54	7	6号住跡	炉内	石鏃	2.50	1.70	0.95	3	頁岩（北上山地）	基部無茎凸形	21	25
55	36	6号住跡	植物根痕	敲・磨石類a	9.80	8.30	8.10	895.6	安山岩（奥羽山脈）		21	25
63	8	25号土坑	埋土	Rフレ	3.65	4.15	0.75	9.8	頁岩（北上山地）		32	25
129	11	ⅡD7d	表下	石鏃	3.55	1.40	0.60	1.9	頁岩（北上山地）	基部有茎形、尖頭端部欠損	36	28
130	12	ⅡD7f	表～Ⅱ上	石鏃	(1.15)	1.55	0.30	0.4	メノウ（北上山地）	基部無茎凹脚、上半部欠損	36	28
131	3	ⅡC10e	表～Ⅱ上	スクレイパー類(掻器)	3.85	2.90	0.60	5.6	頁岩（北上山地）		36	28
132	13	ⅡD8d	表～Ⅱ上	Rフレ	3.00	3.70	0.75	6.6	頁岩（北上山地）		36	28
133	14	ⅡD9c	表～Ⅱ上	Rフレ	3.10	0.95	1.00	9.2	頁岩（北上山地）		36	28
134	15	ⅡD10a	表～Ⅱ上	Rフレ	2.05	2.55	1.10	3.9	頁岩（北上山地）		36	28
135	16	ⅢC1e	Ⅰb層	Rフレ	3.85	1.45	0.70	4.50	頁岩（北上山地）	上部欠損	36	28
136	9	ⅡD5e	埋土	Rフレ	1.50	2.30	0.90	2.85	頁岩（北上山地）	下部欠損	36	28
137	37	ⅡD7b	表～Ⅱ	石錐	6.30	6.80	1.10	63.9	デイサイト（北上山地）	不整に調整	36	28
138	38	ⅡD9c	Ⅱ～Ⅲ	凹石	8.20	8.10	6.10	532.0	安山岩（奥羽山脈）		36	28

＊（　）：推定値、－：残存値

6．まとめ

本稿では、仁昌寺Ⅲ遺跡の遺構・遺物の特徴を列記してまとめたい。

(1) 遺構

検出された遺構は竪穴住居跡－6棟、土坑－45基、集石焼土遺構－1基である。本遺跡は平鞭川左岸にあたる東向きの丘陵緩斜面に立地する。現況は畑地・果樹園で、全域にわたり人工的な上地改変が行われ、全体的に残存状況が悪い。仁昌寺Ⅲ遺跡は縄文時代中期後葉～後期初頭に営まれた集落跡、平安時代頃の集石・焼土遺構の複合遺跡である。近隣に位置する仁昌寺・仁昌寺Ⅱ遺跡とほぼ同時期にあたる。

① 竪穴住居跡

〈分布〉 6棟検出されているが、すべて調査区北側の緩やかな尾根状地形に沿って分布している。調査区外北側は小さな沢があるため、分布はさらに西側あるいは東側に広がりを持つと推測される。調査区中央～南部は緩やかな落ち込みとなっており、雨天時には沢状に水が流れるためここを避けて、水はけのよい尾根に沿って居住していたものと推測される。遺構は無く、遺物も少なかった。

〈規模・平面形〉 検出数が少なく、規模・平面形はすべて残存形からの推測であるため断定はできないが、直径4m弱から5m超までの範囲に収まる円形あるいは楕円形というのが標準形のようである。

〈壁・床〉 壁はやや外傾して立ち上がるものが多い。床はほとんどが平坦で部分的に硬化しているだけで壁溝や貼床は確認されなかった。

〈柱穴〉 主柱穴については規則性を見出せるものが少なかった。多くが床を削平されているため、柱穴跡も削られて消失したのであろう。

〈炉〉 検出した6棟中炉の跡を検出できたものは5棟である。そのうち石囲炉は3基、複式炉は2基である。複式炉は石組みだけで区画するものと土器埋設部を石で囲って区画するものがある。住居跡全体の規模と関係性は見られない。

〈時期〉 遺構内から出土した遺物を見る限り、縄文時代中期後葉～末葉か若しくは後期初頭までの位置づけができるが、出土量が少ないので断定はできない。

② 土坑

45基検出されており、竪穴住居跡と同様調査区北側に集中している。出土遺物が少なく、それらの遺物も直接関係するものである可能性は低く、周囲生活圏からの流れ込みであると推測される。土坑個々の用途や時期は不明であるが、土坑群の分布域が住居跡群の分布域Ⅰとほぼ重なること、遺物の時期が重なること、埋土の類似性から、住居跡とほぼ同時期のものと思われる。

③ 集石焼土遺構

縄文時代以外の時期に属する唯一の遺構である。焼け焦げた礫集合の周辺から鉄製の刀子、鍛冶鉄滓が出土している。また集石部を覆っていた土サンプルからは磁鉄鉱が多く抽出された。以上から本遺構は、何らかの鍛冶関連施設跡であったことが推測される。そのほかに周辺から出土している土師器甕から判断して平安時代頃の遺構とも考えられるが、一概に断定はできない。平成12・13年に調査が行われた仁昌寺Ⅱ遺跡でも工房関連施設・工房跡が検出されているが、その時期は中世であり、本遺構とは時期がずれる。

(2) 遺物

本遺跡では大コンテナ約4箱分の遺物が出土した。内訳は土器（縄文時代：中・後・晩期）、土師器、土製品、陶磁器、石器、金属製品、銭貨である。

① 縄文～弥生時代の土器

・本遺跡の縄文時代の土器は中期から晩期まで及ぶ。主体をなすのは沈線区画と磨消縄文や縄文充填の手法を特徴とする大木9・10式に相当する中期後葉～末葉の土器群である。これらは大木式土器そのものに比べ、手法を簡略化した印象を受ける。大木式土器の流れを汲む土器の大木系土器といえようか。

・後期の土器は出土しているものの散的には少ない。文様のある個体を見ると、縄文を付した器面全体に多条の平行沈線を描いて区画し、区画した1部の縄文を磨り消す手法を用いており、十腰内Ⅰ式の流れを汲んでいる土器群である。

・晩期の土器は遺構外から出土しており、当該時期の遺構は検出していない。平行沈線や沈線間の刺突列、入組文や雲形状文、口唇部のB字状の突起等の特徴から、大洞B～C_1に収まる土器群である。周辺に生活圏が広がるのか、あるいは削平により遺構が消失したものか推測の域を出ない。

② 土師器

・土師器は甕の破片が3点出土しており、平安時代に属するものである。1点は把手状突起の一部が残っている。東北では10世紀後半から11世紀にかけて増加してくる器形である。

③ 陶磁器

すべて表土・耕作土からの出土であり、19世紀後半以降の新しい時期に属するものである。

④ 石器

総数で33点である。種類の内訳は石鏃、スクレイパー類、リタッチド・フレイク、磨製石斧、石錘、敲・磨石類、凹石、台石、その他の礫石器である。遺構内外ともに出土量が少ない。定形的な石器が少ない。

⑤ 金属製品

鉄製の刀子が1点のみであり、鍛冶鉄滓と共に出土している。仁吉寺Ⅱ遺跡では鍛冶工房跡関連施設が検出されており、これとの関連性も考え得るが、出土状況が不良であったため詳細は不明である。

⑥ 銭貨

時期不明の無文字模造銭と寛永通宝（新寛永）が表土から出土している。

以上のことから、当遺跡は縄文時代中期後葉～後期初頭の間に形成された集落跡を中心とした、平安時代の建物跡との複合遺跡であるといえよう。遺構の分布は調査区北側の幅の狭い尾根状地形に集中している。

仁昌寺Ⅲ遺跡出土顔料塊の自然科学的調査

岩手県立博物館　赤　沼　英　男

1　はじめに

岩手県一戸町仁昌寺Ⅲ遺跡からは縄文時代中期後葉から末葉に比定される土器が見出され、土器内から赤色顔料塊の残存が確認された[1]。遺跡内からは赤褐色を呈する岩石塊も見出されている。土器内に残存する顔料塊、および赤褐色を呈する岩石塊を分析した結果、前者は酸化第二鉄を主成分とするパイプ状を呈する物質（以下、パイプ状物質という）を、後者は微細酸化鉄粒子が残存した頁岩またはチャート（以下、赤色チャートという）であることが判明した。以下に当該物質の自然科学的調査結果を報告する。

2　調査資料

調査資料は表１に示す５資料である。

3　調査方法

赤褐色を呈する岩石塊については、図１・２の位置からダイヤモンドカッターを装着したハンドドリルを使って約0.2ｇの微小試料を摘出した。摘出した試料をさらに２分し一方は組織観察に、もう一方はメノー乳鉢で粉末にした後、Ｘ線粉末回折に供して鉱物組成を調べた。Ｘ線粉末回折用試料をサンプルホルダーから取り外し、酸を使って溶解し、誘導結合プラズマ発光分光分析（ICP-AES）法によって、表２に示す12成分を化学成分分析した。

4　調査結果

No.１から摘出した試料は、主として酸化ケイ素からなるガラス化した領域に、局所的に微細酸化鉄粒子が過密に分布する領域が混在する（図１）。Si、Feはそれぞれ39.4%、0.97%で、表２に示す他の10成分はいずれも１%未満にある。No.３もNo.１とほぼ同じ化学組成をとり、No.２およびNo.４にはNo.１、No.３の５倍を超えるFeが含有されている。No.２およびNo.４から摘出した試料には微細な酸化鉄粒に加え、Fe-Mn-O系のやや暗灰色をした領域も観察される（図２a_1・b_1・c_1、図２a_2・b_2・c_2）。No.１～No.３のＸ線粉末回折パターンは石英、No.４のＸ線粉末回折パターンは石英と酸化第二鉄にほぼ合致する（図４）。

No.５から摘出した試料は横断面の直系が約１μmのパイプ状物質によって構成される。含有される元素濃度分布のカラーマップによって、パイプ状物質は鉄(Fe)、ケイ素(Si)、および酸素(O)を主成分とすることが判明した（図３）。Ｘ線粉末回折パターンは、酸化第二鉄とほぼ合致する（図４）。

5　考察

仁昌寺Ⅲ遺跡土器内部に残存する赤色物質塊は、主として酸化第二鉄を主成分とするパイプ状物質である。この物質は鉄バクテリア起源とする見方が出されていて[2]、縄文時代前期および縄文時代中期から後期に比定される三内丸山遺跡出土木器および土器の赤色塗彩部にその使用が確認されている[3]。さらに、三内丸山遺跡では縄文時代中期の遺構から当該物質が点在する樹脂状物質を残存する土器も見出されている[4]。仁昌

寺Ⅲ遺跡から見出された土器に残存するパイプ状物質についても、赤色顔料として使用された可能性が高い。

遺跡内から出土した赤褐色岩石塊は、直径1μm以下の微細な赤鉄鉱粒子を含有する頁岩またはチャート（赤色チャート）であることが判明した。同様の岩石塊は三内丸山遺跡縄文時代前期および中期から後期に比定される遺構からも見出されていて、その粉末が残存した土器、またはその粉末が混和された樹脂を塗彩した木器および土器も検出されている[2)1)]。さらに赤色チャートを素材とする石鏃も確認されている[2)]。また、隣接する仁昌寺Ⅱ遺跡からも赤色チャートを素材とする石鏃が出土しており、当地域においても赤色チャートが石器の素材として使用されたことは間違いない。三内丸山遺跡の調査結果を加味すると、石鏃を加工する際に排出される赤色チャート片を赤色顔料の素材として活用した可能性も十分に考えられる。これらの赤色物質を自然科学的方法で調査し、その組成を明らかにすることによって遺跡内における赤色顔料の製作と活用の実態に迫ることができると思われる。

これまでの調査結果によって、三内丸山遺跡では既に縄文時代前期に赤色チャートを使用して赤色顔料の製作が行われていたことが明らかにされているが、パイプ状物質については縄文時代中期になって製作への利用が確認される[2)1)]。パイプ状物質については、山形県高畠町押出遺跡の縄文時代前期の遺構から出土した遺物、岩手県一戸町御所野遺跡縄文時代中期の遺構から出土した土器片の塗彩にも使用が認められる[2)3)]。赤色チャート、パイプ状物質の利用に、地域的、時間的特長があった可能性がある。時代特定が可能で型式学的研究が可能な赤色塗彩資料の組成、遺跡内における赤色チャートおよびパイプ状物質の検出状況とその組成、および赤色チャートの賦存状況とその組成を明らかにするための調査を進め、それらの結果を比較検討することによって、東北地方北部における縄文時代の赤色塗彩技術の変遷がみえてくるにちがいない。

注）

1）財団法人岩手県埋蔵文化財調査センターからのご教授による。

2）岡田文男「パイプ状ベンガラ粒子の復元」日本文化財科学会第14回発表要旨、1997。

3）『特別史跡三内丸山遺跡年報5』　2002　青森県教育委員会。

4）『特別史跡三内丸山遺跡年報6』　2003　青森県教育委員会。

5）赤沼英男・武田昭子・中村美杉・渋谷孝雄・上条朝宏・門倉武夫「土器残存塗膜の自然科学的研究」日本文化財科学会第19回大会発表要旨。

6）赤沼英男「円筒土器文化圏における石器ならびに土器表面加工技術に関する研究－三内丸山および周辺遺跡を中心として－」。2003年三内丸山遺跡報告会発表要旨。

表1　調査資料の概要

No	検出遺構		資料名
	遺構名	層位	
1	1号住	埋土暗褐	岩石
2	1号住	埋土	岩石
3	1号住	埋土	岩石
4	ⅡC7g	黒褐色	岩石
5	1号住　P1	西壁際	顔料

注）Noは分析番号、検出遺構、資料名、推定年代は(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査センターによる。

表2　石褐色岩石塊の分析結果

No	化学成分 (mass %)											
	T.Fe	Cu	Mn	Ni	Co	P	Ti	Si	Ca	Al	Mg	V
1	0.97	0.001	0.166	0.002	<0.001	0.07	0.005	39.4	0.105	0.342	0.037	0.020
2	5.86	0.001	0.028	0.001	<0.001	<0.05	<0.001	39.7	0.018	0.019	<0.001	0.001
3	1.18	<0.001	0.003	0.001	<0.001	<0.05	<0.001	37.5	0.002	0.039	0.005	<0.001
4	9.03	<0.001	<0.001	0.001	<0.001	<0.05	<0.001	35.8	0.003	0.021	0.003	<0.001
5	35.66	0.001	0.130	<0.001	0.001	0.22	0.316	15.2	1.52	4.52	0.761	<0.001

注）Noは表1に対応。化学成分分析はICP-OES法による。

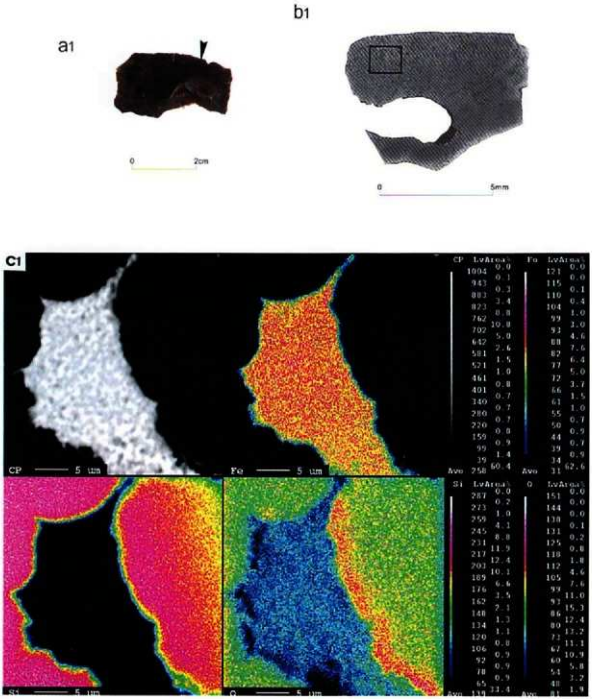


図1　№1の外観と摘出した試料の組織観察結果
a1：外観。b1：マクロ組織。c1：b1枠内部のEPMAによる組成像（COMP）と含有される元素濃度分布のカラーマップ。

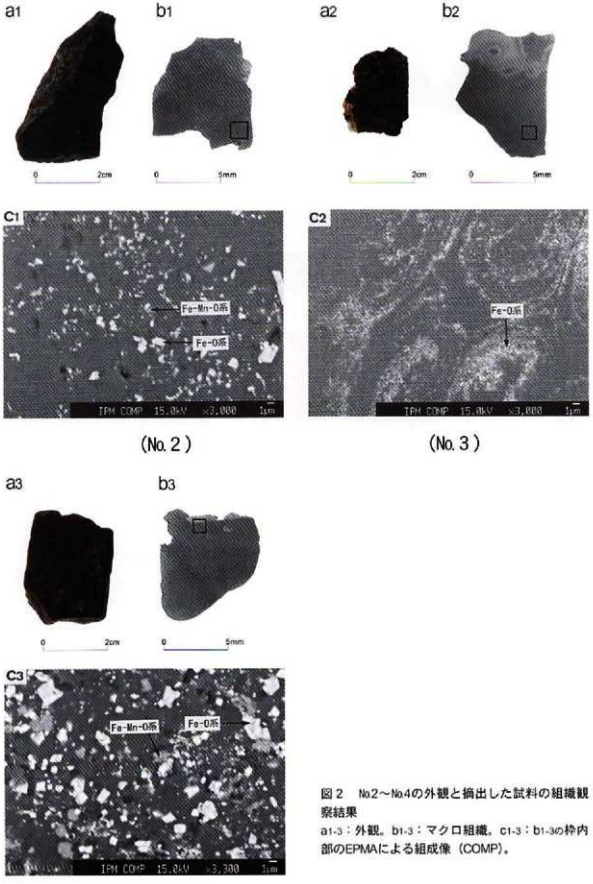
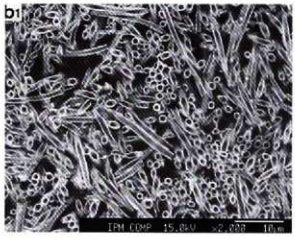


図2　No.2～No.4の外観と摘出した試料の組織観察結果

a1-3：外観。b1-3：マクロ組織。c1-3：b1-3の枠内部のEPMAによる組成像（COMP）。

a1

b1



c1

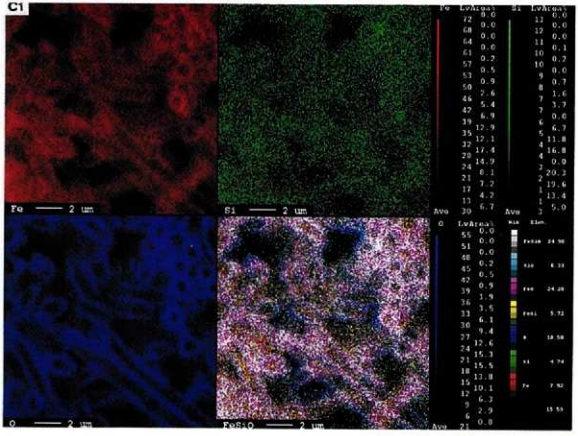


図3　№5の外観と摘出した試料の組織観察結果
a1：外観。b1：EPMAによる組成像。c1：含有される元素濃度分布のカラーマップ。

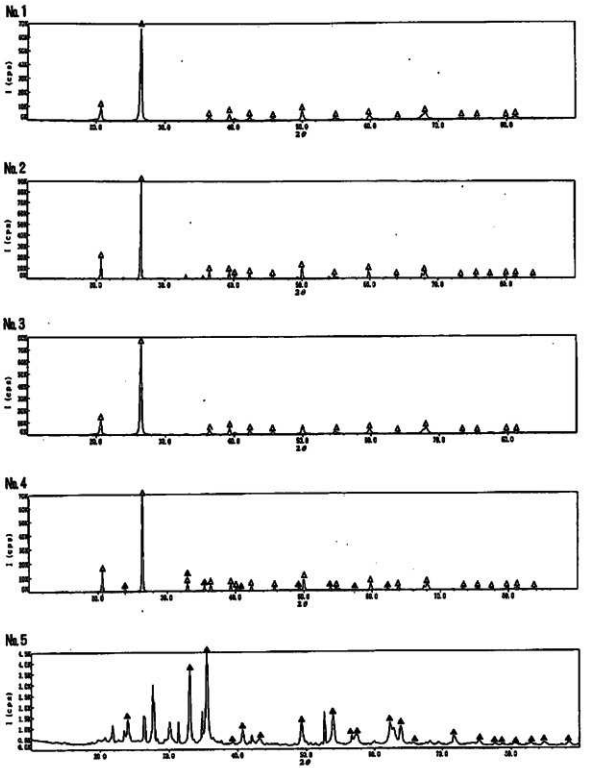


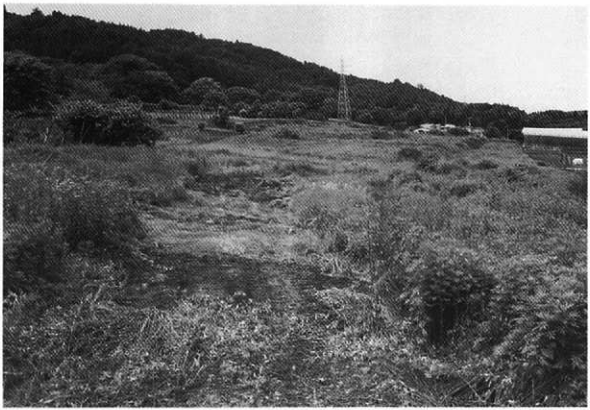
図4　No.1～No.5のX線粉末回折パターン。
白三角（△）：石英、黒三角（▲）：酸化第二鉄。

写 真 図 版

調査区　東から

調査区　真上から

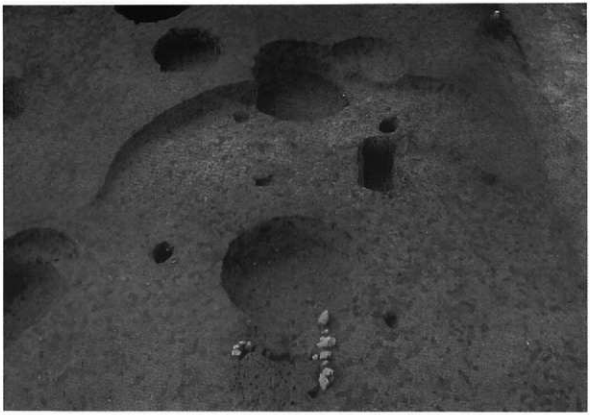
写真図版１　空中写真



調査前　近景（南から）

基本土層

写真図版２　調査区近景・基本土層



平面

断面

断面

炉断面

写真図版３　１号竪穴住居跡

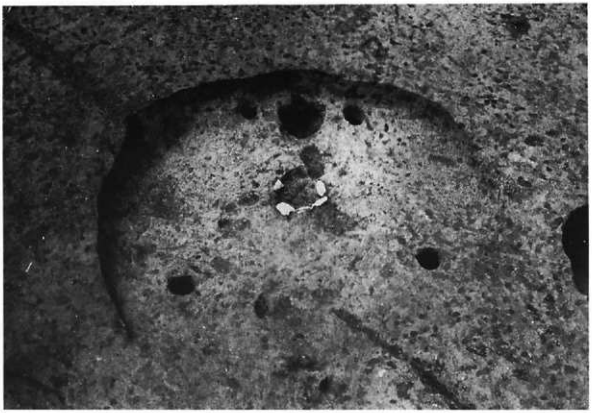
平面

断面

断面

炉内遺物検出状況

写真図版4　2号竪穴住居跡



平面

断面

断面

遺物検出状況

写真図版５　３号竪穴住居跡

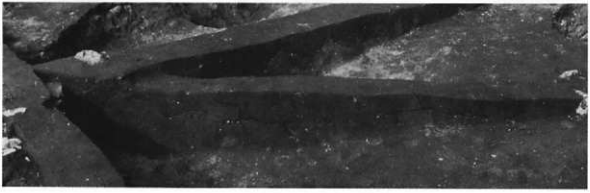
4・5号竪穴住居跡　平面

4・5号竪穴住居跡　断面（ベルトB）

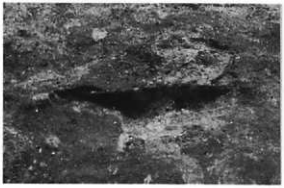
4・5号竪穴住居跡　断面（ベルトB）

写真図版6　4・5号竪穴住居跡（1）

4・5号竪穴住居跡　断面（手前からベルトA・C）



5号竪穴住居跡　断面（ベルトD）



4号竪穴住居跡　焼土断面

4号竪穴住居跡　遺物出土状況

5号竪穴住居跡　炉平面

5号竪穴住居跡　炉断面

写真図版7　4・5号竪穴住居跡（2）

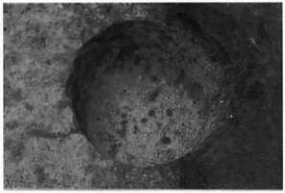
平面

断面

炉断面

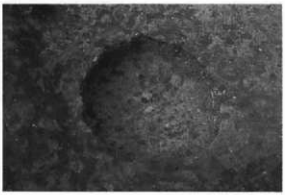
炉焼土断面

写真図版８　６号竪穴住居跡

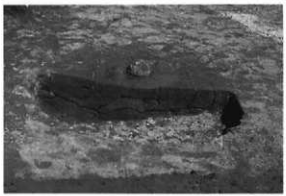


1号土坑平面

1号土坑断面



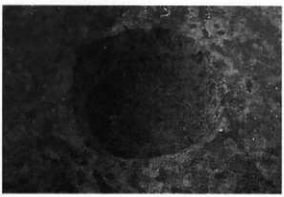
2号土坑平面



2号土坑断面

3号土坑平面

3号土坑断面



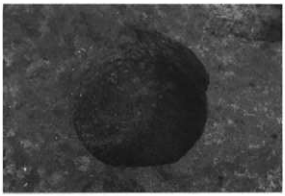
4号土坑平面

4号土坑断面

写真図版9　1～4号土坑

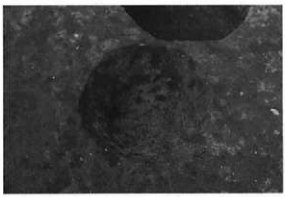
5号土坑平面

5号土坑断面

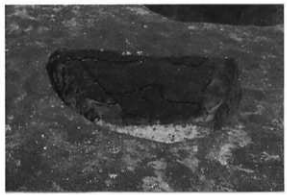


6号土坑平面

6号土坑断面



7号土坑平面

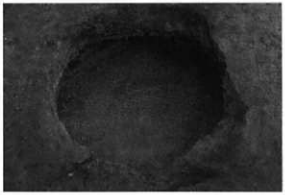


7号土坑断面

8号土坑平面

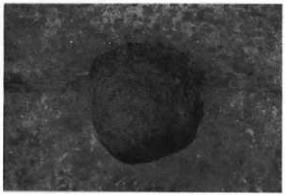
8号土坑断面

写真図版10　5～8号土坑

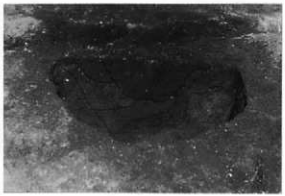


9号土坑平面

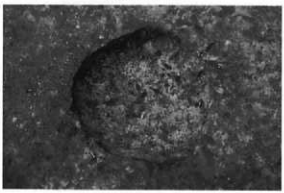
9号土坑断面



10号土坑平面



10号土坑断面



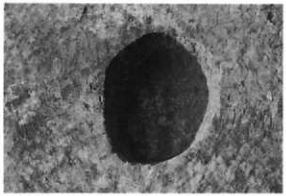
11号土坑平面

11号土坑断面

12号土坑平面

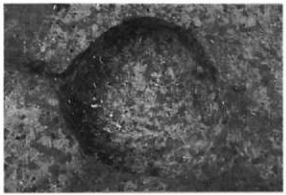
12号土坑断面

写真図版11　9～12号土坑



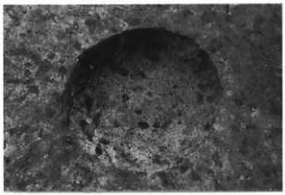
13号土坑平面

13号土坑断面



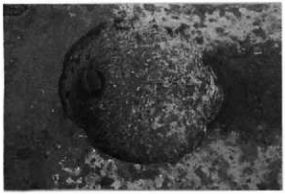
14号土坑平面

14号土坑断面



15号土坑平面

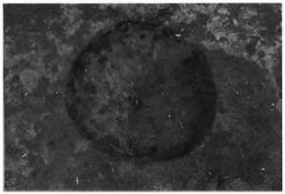
15号土坑断面



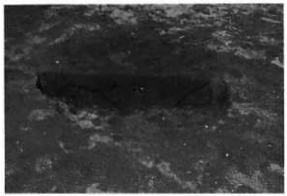
16号土坑平面

16号土坑断面

写真図版12　13～16号土坑



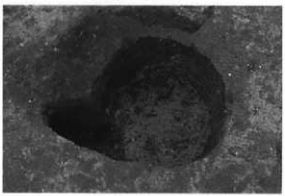
17号土坑平面



17号土坑断面

18号土坑平面

19号土坑断面



20号土坑平面

20号土坑断面

21号土坑平面

21号土坑断面

写真図版13　17～21号土坑

22号土坑平面

22号土坑断面

23号土坑平面

23号土坑断面

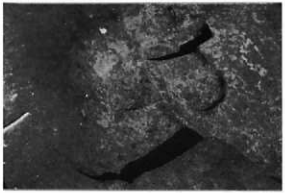
24号土坑平面

24号土坑断面

25号土坑平面

25号土坑断面

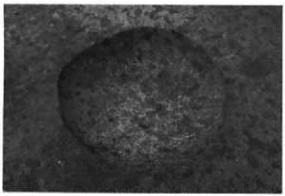
写真図版14　22～25号土坑



26号土坑平面

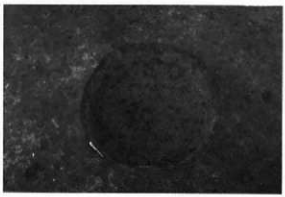
26号土坑断面

27号土坑断面



28号土坑平面

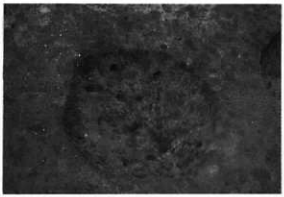
28号土坑断面



29号土坑平面

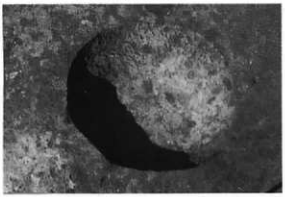
29号土坑断面

写真図版15　26～29号土坑



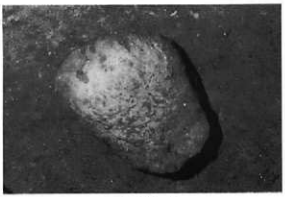
30号土坑平面

30号土坑断面



31号土坑平面

31号土坑断面



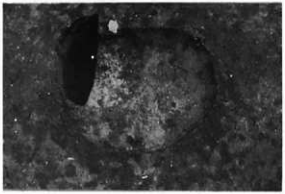
32号土坑平面

32号土坑断面

33号土坑平面

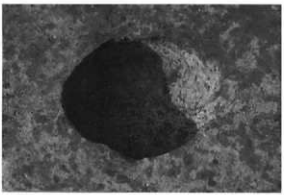
33号土坑断面

写真図版16　30～33号土坑



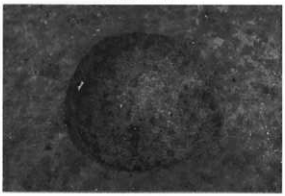
34号土坑平面

34号土坑断面



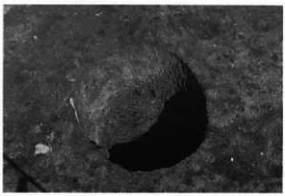
35号土坑平面

35号土坑断面



36号土坑平面

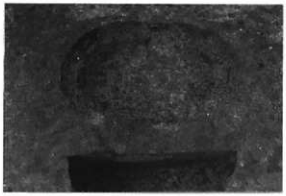
36号土坑断面



37号土坑平面

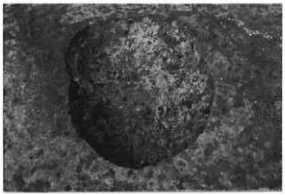
37号土坑断面

写真図版17　34～37号土坑

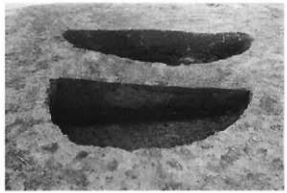


38号土坑平面

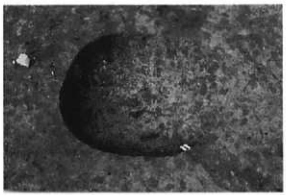
38号土坑断面



39号土坑平面



39号土坑断面



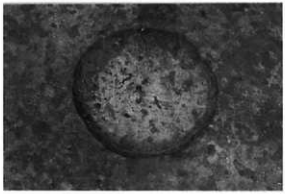
40号土坑平面

40号土坑断面

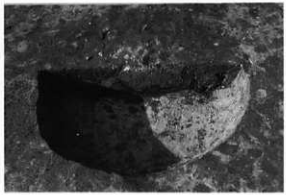
41号土坑平面

41号土坑断面

写真図版18　38～41号土坑



42号土坑平面



42号土坑断面

43号土坑平面

43号土坑断面

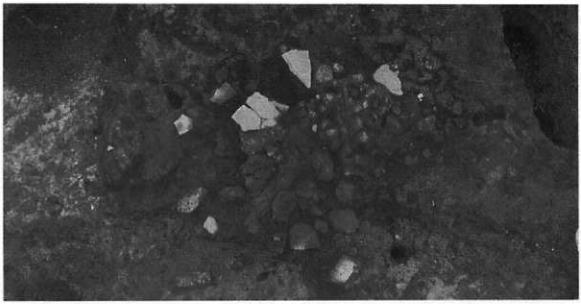
44号土坑平面

44号土坑断面

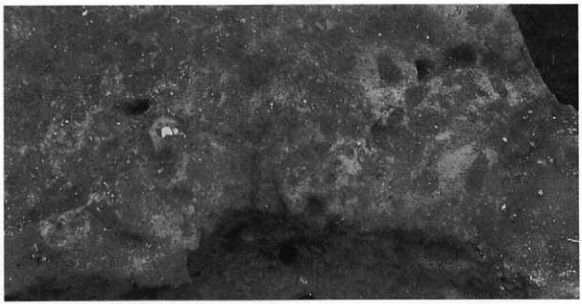
45号土坑平面

45号土坑断面

写真図版19　42～45号土坑



集石部検出状況

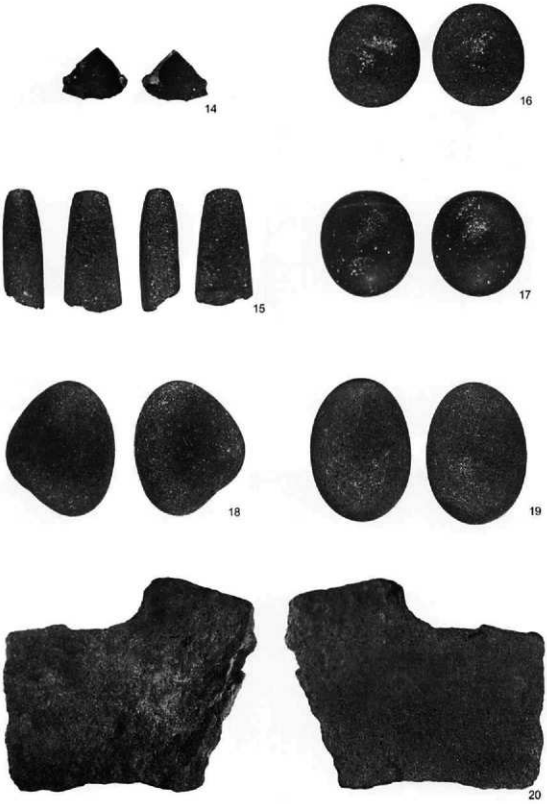


焼土面検出状況

焼土断面

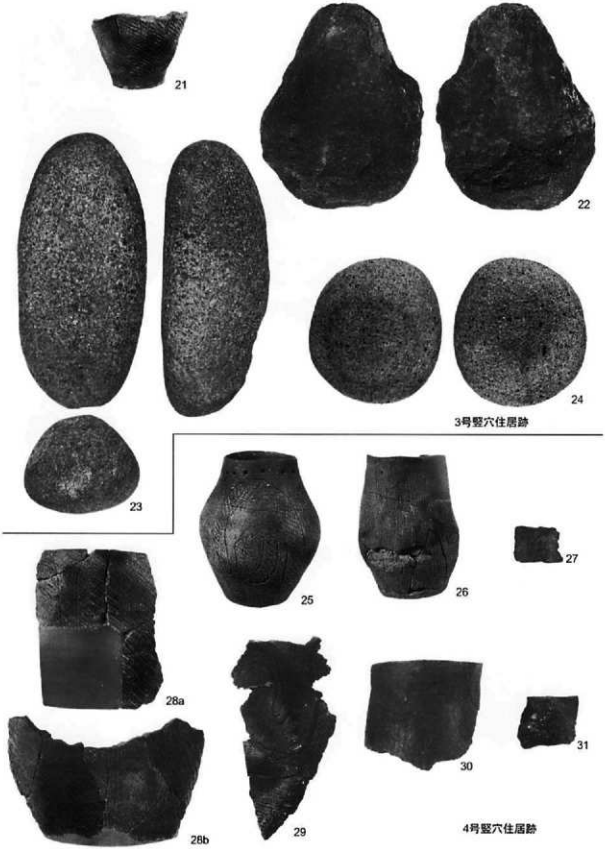
写真図版20　1号集石焼土遺構

写真図版21　1・2号竪穴住居跡出土遺物

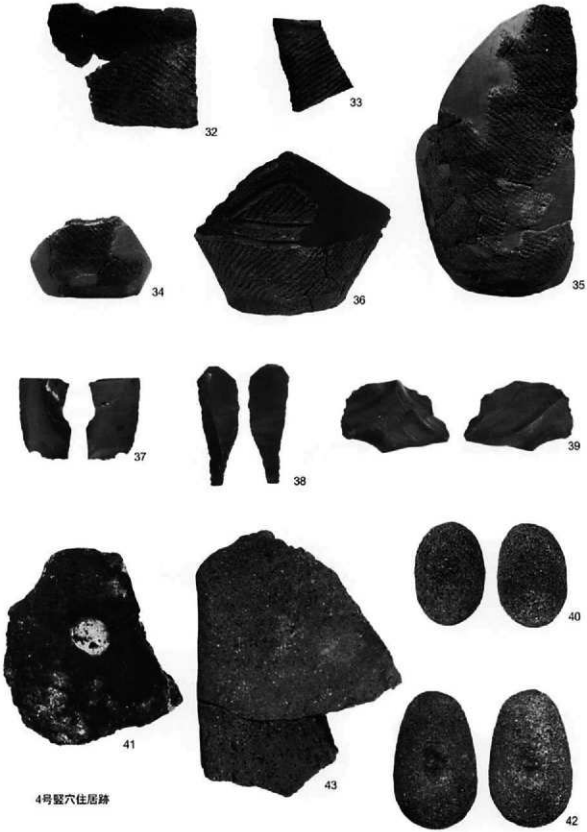


2号竪穴住居跡

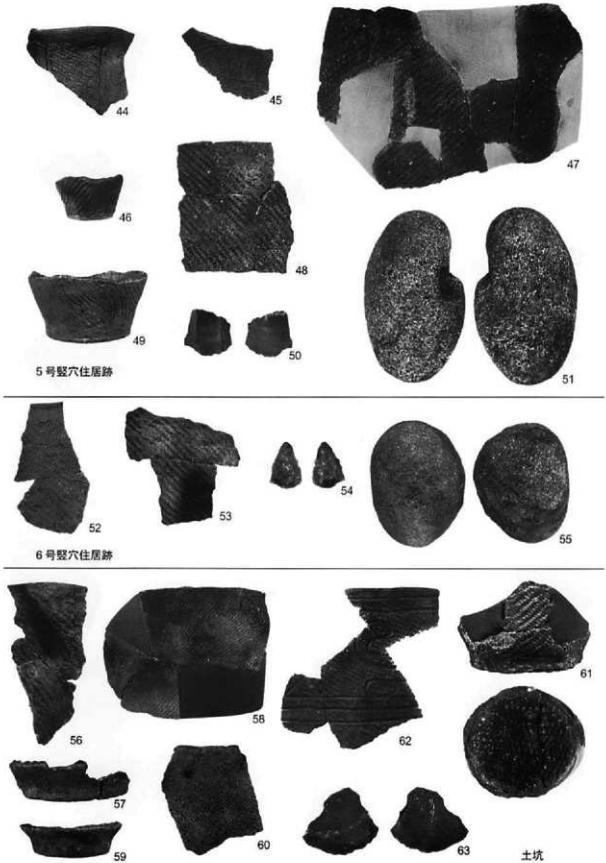
写真図版22　2号竪穴住居跡出土遺物



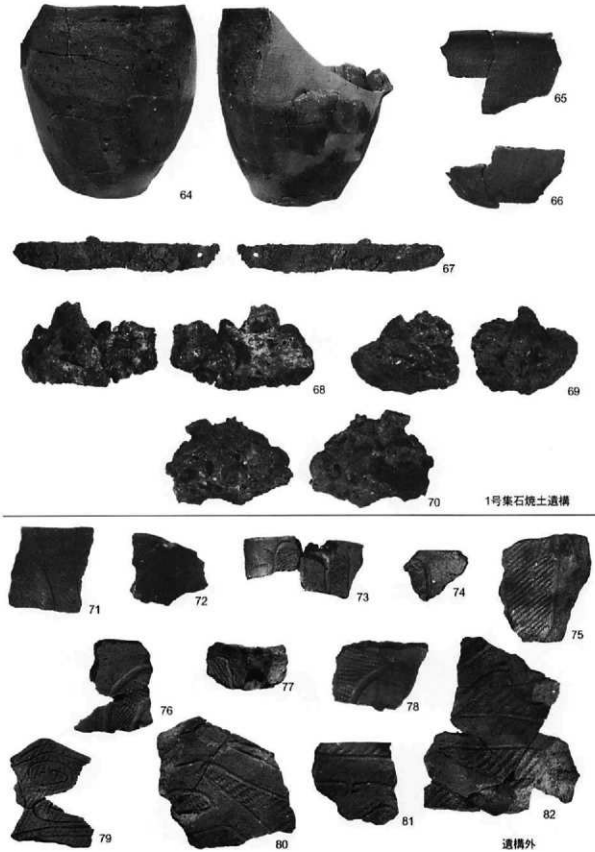
写真図版23　3・4号竪穴住居跡出土遺物



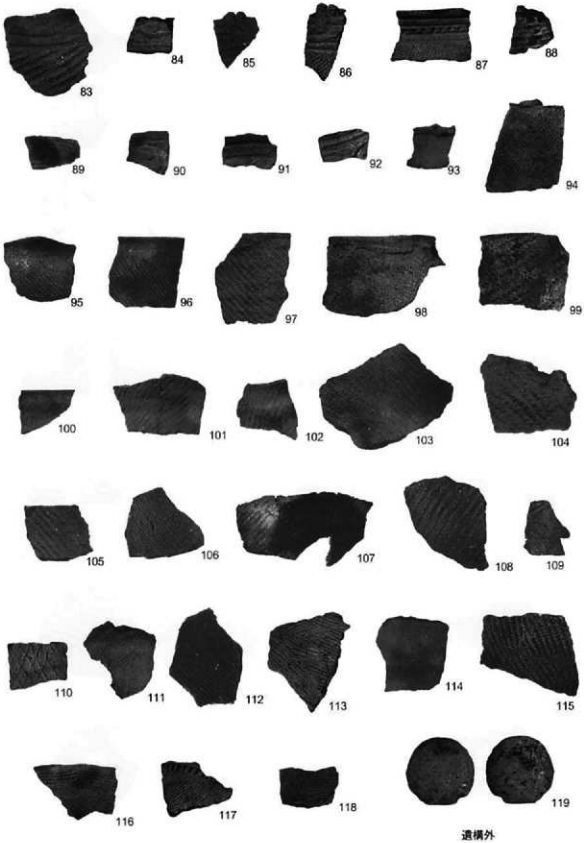
写真図版24　4号竪穴住居跡出土遺物



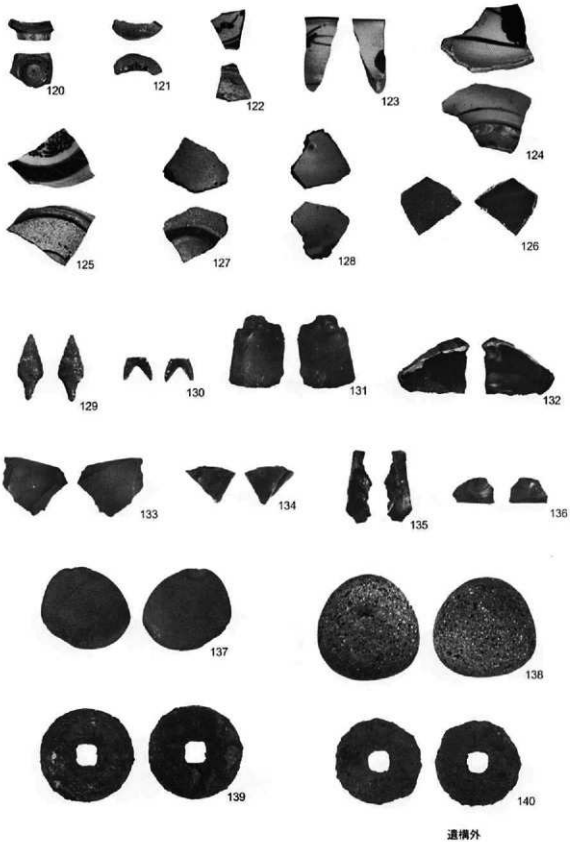
写真図版25　5・6号竪穴住居跡出土遺物・土坑出土遺物



写真図版26　1号集石焼土遺構出土遺物・遺構外出土遺物（土器1）



写真図版27　遺構外出土遺物（土器２・土製品）



写真図版28　遺構外出土遺物（陶磁器・石器・銭貨）

報告書抄録

ふりがな	にしょうじさんいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	仁昌寺Ⅲ遺跡発掘調査報告書
副書名	国道４号小烏谷バイパス建設関連遺跡発掘調査
巻次	
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第424集
編著者名	原　美津子
編集機関	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
所在地	〒020－0853　岩手県盛岡市下飯岡11－185　Tel 019－638－9001・9002
発行年月日	西暦2004年２月27日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
仁昌寺Ⅲ遺跡	岩手県二戸郡一戸町小烏谷字仁昌寺66－10ほか	03524	ＪＦ30－2061	40度10分00秒	141度18分08秒	2002.06.20～2002.10.04	6,250㎡	国道４号小烏谷バイパス建設による緊急発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
仁昌寺Ⅲ遺跡	集落	縄文時代（中期後～末葉）	竪穴住居跡　６棟 土坑　45基	縄文土器（中期、後期、晩期） 土製品 石器 陶磁器	
		平安時代	焼石焼土遺構　１基	土師器 鉄製品・鉄滓 銭貨	

緯度と経度は世界測地系

平成15年度 （財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員名簿

所長　木村　昇

〔管理課〕

課長　韮澤正吾

課長補佐　山岸直美

主査　中嶋賢一

主事　猿橋幸子

〔調査第一課〕

課長　佐々木勝

課長補佐　佐々木清文

文化財専門員　金子昭彦

文化財調査員　吉田充

〃　亀大二郎

〃　野中真盛

〃　新妻伸也

〃　阿部勝則

〃　杉沢昭太郎

〃　西澤正晴

〃　村木敬

〔調査第二課〕

課長　三浦謙一

課長補佐　中川重紀

〃　高橋義介

文化財専門員　小山内透

〃　金子佐知子

〃　濱田宏

文化財調査員　赤石登

〃　阿部眞澄

〃　水上明博

〃　阿部憲

〃　早坂淳

〃　小松則也

〃　阿部徳幸

〃　憲岩伸吾

〃　亀澤盛行

〃　飯坂一重

〃　鈴木裕明

〃　林熊

〃　阿部孝明

〃　刺柴直人

副所長　平野允苗

嘱託　高橋照雄

〃　湯沢邦子

〃　沼田チル子

〃　伊藤滋子

文化財調査員　北村忠昭

〃　八木勝枝

〃　丸山浩治

〃　北田熊

〃　島原弘征

期限付調査員　坂部恵造

〃　小林弘卓

〃　藤原大輔

〃　小針大志

〃　太田代一彦

〃　新井田えり子

文化財調査員　星雅之

〃　佐藤淳一

〃　星幸文

〃　淵浩二郎

〃　本多肇一郎

〃　丸山直美

〃　福島正和

〃　米田寛

〃　須原拓

〃　中村絵美

〃　川又晋

〃　村田淳

〃　（村上拓）

期限付調査員　齋藤麻紀子

〃　石崎高臣

〃　吉田里和

〃　立花裕

〃　江藤敦

〃　駒木野哲寛

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第424集

五月館跡・仁昌寺Ⅲ遺跡発掘調査報告書

国道4号小烏谷バイパス建設関連遺跡発掘調査

印刷　平成16年2月20日
発行　平成16年2月27日

発　　行　㈶ 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853　岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地
電　　話　(019) 638－9001
F　A　X　(019) 638－8563
印　　刷　㈲ 博光出版
〒020-0122　盛岡市みたけ5丁目8番43号
電　　話　(019) 641－0671

© ㈶ 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2004